

令和7年度 交流及び共同学習実施報告書



山梨県教育委員会

目 次

【県立】

○盲学校	1
○ろう学校	12
○甲府支援学校	28
○あけぼの支援学校	36
○わかば支援学校	45
○わかば支援学校ふじかわ分校	65
○やまびこ支援学校	73
○富士見支援学校	82
○富士見支援学校旭分校	83
○ふじざくら支援学校	84
○かえで支援学校	95
○高等支援学校桃花台学園	106
○特別支援学校うぐいすの杜学園	115

【国立大学法人】

○山梨大学教育学部附属特別支援学校	118
-------------------	-----

※ 各支援学校の「教科等区分」の表記については、次のものを示しています。

- ・ 自立：自立活動
- ・ 特活：特別活動
- ・ 総合：総合的な学習（探究）の時間
- ・ 生単：生活単元学習
- ・ 遊び：遊びの指導
- ・ 職家：職業・家庭
- ・ 保体：保健体育
- ・ 作業：作業学習

I 学校概要

1 学校の概要

学校名	山梨県立盲学校
所在地	〒400-0064 甲府市下飯田2丁目10-2
電話番号	055-226-3361
校長名	水上 奈由美
交流及び共同学習主任名	市川 いつか

2 学校教育目標

自己実現・社会的自立ができる力を養い、健康で心豊かな人間を育成する。

II 交流及び共同学習推進協議会の経過

1 交流及び共同学習推進会議構成員

No.	所 属・職 名	備 考
1	池田地区自治会連合会 会長	会長
2	池田地区社会福祉協議会 会長	
3	池田地区シニアクラブ連合会 会長	
4	池田地区ボランティア推進会 会長	
5	山梨ライトハウス青い鳥成人寮 施設長	
6	甲府西幼稚園 園長	
7	甲府市立池田小学校 校長	
8	甲府市立西中学校 校長	
9	山梨県立甲府西高等学校 校長	
10	山梨県立甲府城西高等学校 校長	副会長
11	山梨県立盲学校 P T A会長	
12	山梨県立盲学校 校長	
13	山梨県立盲学校 教頭	
14	山梨県立盲学校 事務長	

2 経過

開催月日	協 議 会 の 内 容
5月20日(月)	令和6年度の様子、令和7年度交流及び共同学習の計画
1月27日(火)	令和7年度交流及び共同学習の実践報告、来年度に向けての課題の検討

III 学校間における交流及び共同学習（学校間交流）

1 目 的

- (1) 幼児児童生徒の生活経験を広げ、社会性・協調性を育てる。
- (2) 相互の理解を深め、社会で共に生きて行くという意識を高める。
- (3) 視覚障害教育に対する理解と啓発を促す。

【各学部の目的】

(1) 幼稚部

- ①自由あそびや集団での活動をとおして、生活経験の広がりを図る。
- ②継続した交流活動の中で、友だちとふれあう楽しさを味わわせる。
- ③同年齢の集団における活動の中で、雰囲気を感じたり、自分の気持ちを表現したりできるようにする。

(2) 小学部

- ①休み時間や給食・教科交流・学校行事などの交流及び共同学習を通して、生活経験を広め、集団のルール等の社会性を育てる。
- ②継続した交流活動の中で、友だちとふれあう楽しさを味わわせながら、より良い関わりを育てる。
- ③同年齢の集団における活動を通して、自分の感情や意思を表現したり、もてる力を発揮したりする中で、お互いの関係を深めさせる。

(3) 中学部

- ①学校行事・課外活動などを通して、生活経験を豊かにし、相手を思いやる心や協力する態度を育てる。
- ②共に活動することを通して視覚障がいや障がいについての相互理解を深め、主体的に行動しようとする意欲を高める。
- ③様々な人たちとの関わりを通して、視覚障がいについて、多くの人への啓発を促す。

(4) 高等部

- ①学校行事・生徒会活動等により社会経験を広め、積極的に社会に参加しようとする態度を育てる。
- ②共に活動することを通して視覚障がいや障がいについて相互の理解を深め、生きる力を付けようとする意欲を高める。
- ③様々な人たちとの関わりを通して、視覚障がいについて多くの人への啓発を促す。

(5) オンライン交流

盲学校の在籍人数は、インクルーシブ教育体制の推進により、全国的に減少傾向にあり、特に準ずる教育課程で学ぶ単一障害児童生徒は、学部で1名という盲学校も少なくない。

同じ視覚障害のある同じ学年の交流授業を通して、意見交換と学びを深め、視覚障害のある友達と出会い、共に励みにしている。今後も効果的に行っていききたい。

2 提携校

学部	交流及び共同学習提携校
幼稚園部	甲府西幼稚園
小学部	甲府市立池田小学校 〈オンライン〉 沖縄県立沖縄盲学校 栃木県立盲学校 長野県長野盲学校 東京都立久我山青光学園
中学部	甲府市立西中学校
高等部（本科普通科）	県立甲府城西高等学校 県立甲府西高等学校

3 実施状況

学部	月日	提携校	実施学年	教科等区分	実施内容
幼	通年	甲府西幼稚園	3歳児	体験あそび	自由遊び、おあつまり活動
	10月19日		3歳児		スポーツフェスティバル
	10月27日 10月30日		3、4歳児 5歳児		盲学校交流体験会
	2月6日		3歳児		甲府西幼稚園音楽会

小	1・2学期	甲府市立 池田小学校	全学年	音楽・算数 ・外国語・ 学活・道徳・ 図工・体育	・各教科内容にあわせて児童の実態に沿った学習 ・運動会に向けた練習への参加など
	11月1日				池田小運動会
	3学期				各教科の授業、お礼状作成など
	学期に1回	東京都立久我山青光学園	3年	道徳・自立	自己紹介、教材をもとにした意見交換、話し合い活動（オンラインで実施）
		栃木県立盲学校		自立	自己紹介、質問にこたえる学校の行事紹介（オンラインで実施）
		長野県長野盲学校	5年	総合・特活	学校行事紹介（オンラインで実施）
		沖縄県立 沖縄盲学校		社会・総合	社会・総合（地域ごとの暮らしの様子）（オンラインで実施）
	中	2学期	甲府市立西中学校	全学年	特別活動
10月3日		全学年		特別活動	学園祭参観
10月23・30日 10月31日		全学年		音楽	合唱祭練習参加及び本番参観
12月1日・10日		福島県立盲学校	2年	総合的な学習の時間	自己紹介、質疑応答（オンラインで実施）
高	10月22日	県立甲府城西高等学校	交流校1年	総合的な探究の時間	本校教員による交流事前学習
	12月5日		全学年	総合的な探究の時間	体験交流会 →インフルエンザ流行のため中止
	2学期	全学年	特別活動	本校学園祭での作品展示	
	7月23日	県立甲府西高等学校	1・3年	総合的な探究の時間	総合的な探究の時間の発表参観
全	10月11日	県立甲府西高等学校	全学年	特別活動	本校学園祭で吹奏楽部演奏

4 学校間交流の様子

(1) 幼稚部

今年度の幼稚部は3歳児3名が在籍している。今年度は3歳児1名が毎週月・木曜日に甲府西幼稚園での「自由あそび」や「おあつまり」などに参加した。初めての交流、また全盲であるため、初めは周囲の状況が理解できない様子だったが、次第に周りの音や園児の声を聞き分けられるようになり、毎週の交流を楽しみながら園児とふれあうことができるようになってきた。また、初めての活動にはなかなか手が出ない幼児が、他の園児と一緒に新しいことに積極的に挑戦することができた。

「盲学校交流体験会」は甲府西幼稚園の幼児が年齢に応じ段階的に視覚障害について体験する機会として、本校職員が講師となり毎年実施している。今年度は盲学校で実施し、10月に年少組のアイマスク体験と年中組の白杖歩行体験、年長組の点字体験を行った。甲府西幼稚園の先生方の協力を得ながら、園児が視覚障害について知る良い機会となった。



「スポーツフェスティバル」



「交流体験会（点字体験）」

(2) 小学部

今年度の小学部には1学年2名、3学年2名、4学年3名、5学年2名、6学年1名の計10名が在籍している。全員が池田小学校（以下「池田小」と記載）と交流及び共同学習を行った。池田小の運動会への参加、作品交流を実施した。学年により教科等の交流も行った。

また、3年生1名と、5年生は県外の視覚支援学校の同学年児童と、オンラインで交流及び共同学習を行った。

① 池田小学校との交流

学年ごとに音楽や道徳、総合的な学習の時間等で交流を行った。1年生は音楽、3年生は算数、5年生は外国語、6年生は図工とそれぞれ実態に沿った教科の授業を一緒に行うことを通して池田小の友達との交流を行った。

交流運動会では毎年、個々の実態に合わせて参加種目や方法、合理的配慮等を検討し、練習及び運動会に参加している。練習期間は、ほぼ毎日池田小に通い練習を積み重ねた。当日はリレーやダンスなどの表現活動、玉入れ。組み立て体操などの競技で練習の成果を発揮することができた。練習や運動会の際には、互いにあいさつしたり声をかけ合ったりするなど、児童同士の交流が見られた。

六星祭(本校学園祭)では、池田小の児童が授業で制作した絵画や習字などを展示している。また、池田小では本校の児童が作った作品を展示する機会を設け、多くの児童や保護者の方に作品を見てもらっている。視覚障害のある児童が授業の中でどのような材料や手法で、何を作っているのかを知ってもらう良い機会となっている。

池田小4年生交流体験会は、池田小4年生が本校に来校し、点字体験や白杖体験、パラスポーツ体験を本校の児童も交えて行った。それぞれの活動で池田小の児童が興味関心を持って体験する様子が伺え、本校の児童も一緒に活動していく中で自分が行っていることを見てもらう機会にもなり有意義な交流活動となった。

② 県外の盲学校との交流（オンラインでの交流）

5年生は教科学習において沖縄盲学校と長野盲学校とオンライン交流及び共同学習を行った。沖縄盲とは、社会で取り組んだ「自然条件と人々の暮らし」の単元で学習した沖縄の暮らしについて実際に聞き取りながら確認する様子が見られた。また、長野盲とは、社会や総合で取り組んだ米作りについて紹介したり八ヶ岳で行った林

間学校について話をしたりした。実際に行った場所や体験したこと、行事の内容を聞きながら、「行ってみたい」「やってみよう」と感想を伝え合った。

3年生は、栃木盲や久我山青光学園とオンライン交流を行った。互いに自己紹介をし、学校行事の紹介をした。主に各校の学園祭について紹介し、質問や感想発表を行った。



「運動会参加」



「交流展示」

(3) 中学部

① 甲府西中学校との交流

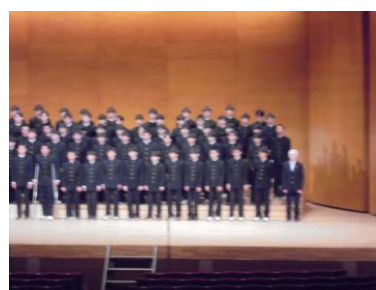
1学年2名、2学年1名、3学年1名が、甲府市立西中学校の学園祭を参観した。学年発表は見ごたえのある内容で、同世代の生徒が作り出す力溢れる発表に触れ、本校生徒にとって有意義な参観となった。

2学年1名が、学年合唱の練習と本番に参加した。昨年度も参加していたため、あまり緊張せずに参加することができた。本校生徒が普通中学校での学校生活の一部を体験することができ、大勢の仲間とともに合唱を作り上げる経験を積むことができた。1学年2名と3学年1名は本番を参観した。学年合唱では、迫力のある歌声を直接聴くことができ、音楽のもつエネルギーを体感することができた。

作品展示では、交流校の学園祭で本校生徒の美術作品を展示してもらった。また、交流校生徒の作品を本校学園祭で展示し、同世代の友達の作品に良い刺激を受けることができた。



「学園祭参観」



「合唱祭参加」

② 福島県立盲学校とのオンライン交流

2年生の生徒1名が、福島県立盲学校の同じ障害をもつ先生や同世代の生徒とオンラインで交流を行った。同じ障害をもつ先生とは、障害特性に応じた日常生活で気を付けることや、仕事のことなどについて生徒の考えた質問に答えていただいた。同世代の生徒との交流では、日常生活や学校生活等についての情報交換を行った。

(4) 高等部

① 甲府城西高等学校との交流

・本校教員による事前学習会

体験交流会の事前学習として、本校の教員3名が交流校で事前学習会を実施した。本校の概要説明、点字、視覚障害スポーツや盲導犬についての講義をした。盲導犬を連れていったため、より体験的な学習となった。

- ・体験交流会

本校生徒が甲府城西高校に赴き、音楽的な授業と機械的な授業に参加して交流会を実施する予定であったが、インフルエンザの流行のため中止とした。代わりに、事前にいただいていた自己紹介カードに対して、本校生徒から手紙を書き、間接的な交流を実施した。

② 甲府西高等学校との交流

- ・学習発表会参観

交流校の総合的な探究の時間の学習発表会を参観し、同年代の生徒たちの学習の様子を知ることができた。

- ・本校学園祭での交流演奏会

六星祭の交流演奏会は、甲府西高の吹奏楽部に依頼した。児童生徒の知っている曲など、たくさんの演奏を聴かせていただき、楽しい時間を過ごすことができた。

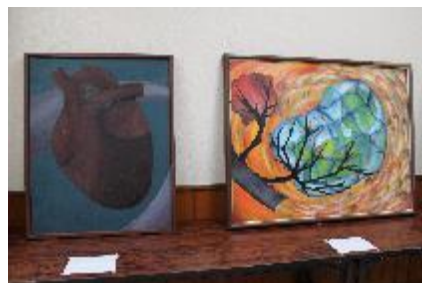


③ 作品展示

本校学園祭「六星祭」に、甲府城西高校から絵画5点、甲府西高から書道条幅10点の作品の展示を行った。迫力のある素晴らしい作品を鑑賞することができた。



「甲府西高書道作品」



「甲府城西高絵画作品」

5 成果と課題

(1) 幼稚部

本校の幼児は、視覚的に周囲の状況を把握することが難しいが、毎週の交流を積み重ねることで、周囲の音を聞き分けたり、園児に近づいて何をしているのかを理解したり、園児の言葉かけに言葉や行動で応えたりすることができるようになってきた。また、年少組の園児は3歳児の幼児が全盲であっても自分との違いを当たり前のこととして受け入れ、一緒に遊んだり移動するときに手をつないだりと積極的に関わってくれた。周囲の幼児の楽しそうな様子から、それまで苦手だった砂遊びも、嫌がることなく自然と砂に触れることができていた。

今年度の経験から今後はより見通しを持てることで、子ども同士のかかわり、スポーツフェスティバルや音楽会への参加等による成果が期待される。

(2) 小学部

①池田小学校との交流

交流を継続していることで学年を追うごとに、お互い友達とのかかわり方に主体性がでてきた。授業内だけでなく、休み時間に子供同士で話し遊ぶ姿が見られた。

交流運動会では、練習から参加し、本番では練習の成果を発揮することができた。交流活動を通して、同年齢の友達と一緒に活動したり、友達と触れ合う楽しさを味わったりすることは、児童にとって大きな成長につながっている。

池田小4年生福祉体験では本校及び視覚障害に関心をもっていただく、よい機会となった。

今後もよりよい交流ができるように、双方の実態等を考慮し、交流内容等や関わり方などを検討し実施していきたい。

②他県の視覚支援学校とのオンラインでの交流

今年度も継続して交流学习に取り組むことができ、実施に向けて担任同士の丁寧な事前の打ち合わせができた。学年によって双方とも行事が忙しい中であつたが、昨年と同様に学期末に交流を中心に行うことで互いに単元を終えて「まとめ」を伝えることができた。また、「質問してもいいですか」など話始めて良いかの確認や、「そうなんですね」のように相槌を声に出して行うなど画面を通して意見交換を行う際のよりよい方法なども考えて交流ができるようになってきた。同学年の児童となかなか話すことのできない状況があるので、他県の友達とコミュニケーションをとることができたことは、貴重な経験である。

(3) 中学部

①甲府西中学校との交流

学園祭や合唱祭への参加や参観という直接交流ができたため、生徒にとって有意義な交流となった。特に合唱祭では、大人数で作りに上げられる歌声を肌で感じる事ができ、音楽のもつ力を存分に感じる事ができた。来年度もまた合唱祭への参加、学園祭の参観を実施できるようにしたい。

②福島県立盲学校とのオンライン交流

同じ障害特性をもつ先生や同世代の生徒と直接話し、情報を得ることで、これからの生活や将来について考えるきっかけとなる交流であつた。

(4) 高等部

①甲府城西高等学校との交流

今年度は、城西高校での交流会を計画していたが、感染症の流行のため直接交流を実施することができなかつた。来年度は、流行時期を避けて日程調整が可能かどうかを検討して、日時を設定していきたい。

②甲府西高等学校との交流

総合的な探究の時間の学習発表会は、各発表者が設定した研究テーマについて調査、研究、考察したことがまとめられており、本校生徒にとっても非常に参考となる内容であつた。来年度も参観できるように、交流校と検討していきたい。

本校学園祭では、昨年度に引き続き吹奏楽部に発表を依頼し、聞き覚えのある曲などたくさんの方の演目を演奏していただき、参加した幼児児童生徒が皆楽しむことができた。来年度も、本校学園祭での発表をお願いしていきたい。

③作品展示

本校学園祭での作品交流は、校舎内の教室を使用して作品を展示し、鑑賞時には教師が説明を加えることで作品内容を理解し、同年代の生徒の作品を見る良い機会となった。

IV 地域における交流活動（地域交流）

1 目的

- (1) 幼児児童生徒の生活経験を広げ、社会性・協調性を育てる。
- (2) 相互の理解を深め、社会で共に生きていくという意識を高める。
- (3) 視覚障害教育に対する理解と啓発を促す。

2 交流先

学部	地域交流先
幼稚部	池田地区文化協会
小学部・中学部 高等部	情報文化センター・青い鳥成人寮、池田地区ボランティア推進会 池田地区シニアクラブ、池田地区文化協会、池田地区住民
寄宿舎	池田地区シニアクラブ

3 実施状況

学部	月日	地域交流先	実施学年	指導区分	内容
中高普 理療	6月 4日 通年	情報文化 センター	中・高普 理療 1年	自立	点字図書館の見学
小 中	12月 19日	地域住民	小・中	自立	地域の方々と共に、お正月飾りの製作
理療 関係 学科	通年	地域住民	全学年	臨床実習	理療治療を実施した
理療 関係 学科 小 ・ 中 ・ 高普 通科	6月 6日	地域住民	全学年	臨床実習	「検校祭」における治療奉仕を実施した
	3月 1日	地域住民	全学年	臨床実習	「健康まつり」での治療奉仕
	10月 18日 ～19日	池田地区文 化協会及び 地域住民	全学年	体験あそび 図工・美術 家庭等	「池田地区文化祭」での幼児児童生徒の作品展示
	3月 1日	池田地区文 化協会及び 地域住民	全学年	体験あそび 図工・美術 家庭等	池田地区「健康まつり」にて幼児児童生徒の作品展示
	6月 12月	池田地区 シニアクラ ブ	舎生	余暇活動	6月と12月に花植えを実施した。交流たよりを発行し、回覧板を通して活動の様子を伝えた。

4 地域交流の様子

(1) 小学部・中学部

地域の方々と一緒に、正月飾りを作って交流を行った。大きな包装紙をねじって細長くして輪を作り、それに千代紙で作った鶴や花、紙垂を使って飾り付け、しめ縄を作った。地域の方が優しく声をかけてくれたり、飾り付けを手伝ってくれたりして交流することができた。



(2) 高等部理療関係学科

生徒数が少ないながらも、一日も休むことなく通年を通して臨床実習を実施することができた。生徒たちにとっては、日頃学習をしている内容を地域の方々に実践できる貴重な機会であり、実践内容からカンファレンス、まとめ、研究成果の発表へと繋げている。また、今年度の検校祭では13名の地域の方々に来校していただき、治療奉仕をさせていただいた。3年生にとっては日ごろの臨床実習で培った学習の成果を発揮する機会となり、1年生にとっては受付や誘導の手伝いをする事でコミュニケーションの取り方を学ぶよい機会となったようである。さらに、今年度からは例年3月に行われている健康まつりに関して学部の行事とすることで、全生徒で参加させていただくこととなった。これまでと同様に治療奉仕をさせていただくことで、地域の方々に対して日ごろの感謝を伝えられるよい機会とさせていただきたい。

理療治療は、盲学校を身近に感じてもらえるよい機会であり、地域とのつながりを広げ、深めていくことができる大切な取り組みになっている。今後も理療を通じた地域との交流活動をし、地域に開かれた学校を目指していきたい。



(3) 作品交流

10月の池田地区文化祭と、3月の健康まつりでは、幼児児童生徒の作品を展示し、多くの方々に見てもらえる機会となった。見学者からいただいた感想は、幼児児童生徒へのよい励みとなっている。

本校の学園祭ではライトハウス青い鳥成人寮のみなさんの陶芸作品を展示させていただいている。



「池田地区文化展」



「青い鳥成人寮の作品」

(4) 寄宿舍

6月は松葉ボタン、12月はビオラの花植えを行い、交流することができた。シニアクラブの方から花の特徴や植え方の手順を教えていただき、作業中は談笑する場面も見られ、笑顔いっぱいの交流会となった。

花植えの活動報告と舎生の感謝の気持ちを「寄宿舍だより」に載せ、自治会の各所へ配布し、盲学校寄宿舍の様子や舎生とシニアクラブの方々がふれ合う様子を周知することができた。



「6月花植え」



「12月花植え」



5 成果と課題

(1) 小学部・中学部（正月飾りの制作）

今年度は小学部・中学部合同で正月飾り制作の交流を行った。昨年度までは、点字ブロック点検及び清掃の中での交流であったため、歩きながらの活動となり、ゆっくりかかわる様子が見られなかった。今回は室内で落ち着いて製作活動に取り組んだことで、地域の方と話したりかかわったりすることができて良かった。

(2) 高等部理療関係学科

検校祭、池田地区健康まつり、日頃の臨床実習等を通して池田地区の方々との交流を図ることができた。生徒のコミュニケーション能力の向上や、地域と盲学校がつながるよい機会となっている。このような交流の場は、生徒にとっては、自分自身のことを表現することで障害の受容につながり、職業自立を目指す上で人間関係の構築の重要性について気付くことができる機会となっている。日々の様々な学習の中から、常に地域に目を向け、心を寄せる姿勢や地域で暮らしていく姿勢を学ぶことができたのではないかと思われる。

今後の課題として、生徒数の減少傾向により、治療奉仕に対するニーズに応えきれないことがあるが、これについては職員の参加等で補っていききたい。他の人との関わりをもつことが苦手な生徒に対しては、職員自身が生徒と地域の方との間に入り、少しでも関心をもてるようにはたらきかける役割を担っていくことが大事ではないかと考える。今後も、地域社会に貢献しながら、地域の方との大切な交流の場として、治療奉仕の継続につとめたい。

(3) 作品交流

地域の方に感想をいただくことが幼児・児童・生徒生の励みとなっている。また、盲学校の幼児生の学習成果を地域の方に知っていただく機会にもなっている。

青い鳥成人寮の方の陶芸作品を本校学園祭に展示させていただき見て触って鑑賞することができありがたい。今後も続けていきたい。

(4) 寄宿舍

花植えを通して、シニアクラブの方々から花に関することを教えていただいたり、舎生から積極的に質問をしたりするなど、とても有意義な交流となった。舎生からは「シニアクラブの方の説明がとても分かりやすく、上手にできた」「一緒に話をしながらできてよかった」「ビオラが成長していくのが楽しみ」「来年もまたやりたい」という感想が聞かれ、この活動の大切さを改めて実感する機会となった。

来年度も同様の内容を計画し、舎生にとって地域の方々との繋がりを感じ、地域社会の一員であることの自覚を深め、地域の方々とかかわる上でのコミュニケーション力を高める機会としていきたい。

(5) その他 地域の方々とのつながりや回覧板を活用したお便り配布等

年間を通して隔月で行われている地域の方々による点字ブロックの清掃及び点検に本校管理職も参加し、地域の方との交流を通して環境整備に努めた。

地域役員の方より、池田地区ふる里まつりへのお誘いを受けた。夏季休業中であったが、本校からは校長、教頭、交流係、保護者と子供たちが参加した。

地域の回覧板により学校からの文書も回していただき、地域の方々へ伝えることができた。来年度以降も、学校での取組の様子について回覧板を通して地域の方に知っていただきたい。

また、ホームページ上でのブログへの掲載等の発信により、広く知っていただける機会を大切にしたい。

V 居住地の学校等における交流及び共同学習（居住地校交流）

1 目的

- (1) 居住する地域の児童生徒と共に学び、好ましい人間関係を築く。
- (2) 交流及び共同学習を通して地域の児童生徒やその保護者、教職員の本校児童生徒への理解が深まるようにする。
- (3) 生涯を通じて、地域と結びついていく基盤を作る。

2 実施状況

学部・学年	交流及び共同学習先校名	回数	実施（活動）内容
小学部 3 年	笛吹市立石和南小学校	1	自立活動：自己紹介 レクリエーション
小学部 5 年	甲府市立伊勢小学校	2	国語・道徳：自己紹介、文章読解、意見交換
	富士吉田市立 下吉田東小学校	1	英語：リスニング 家庭科：調理実習の事前

3 成果と課題

今年度は3年生1名と5年生2名が居住地校交流を行った。3年生は初めての交流であり緊張もあったが、交流校の児童と関わり同学年の友だちの意見を聞くことで自分の考えを伝えることができるなど、成長が見られた。また、保育園まで地域に通っていたこともあり、久しぶりの再会を喜び合う姿も見られた。

5年生1名は、1・2・4年時と継続して取り組んでいる。慣れた環境でもあり、交流先の児童と和やかな雰囲気では話せる姿や交流授業にも意欲的に参加する姿が見られた。もう1名も昨年度から継続の居住地校交流となった。交流先の児童から積極的に話しかけられるなど昨年度以上の交流を行うことができた。

授業はできるだけ単発で参加できる内容を準備していただき、ありがたかった。本校の児童生徒が使用する教科書は点字や拡大に対応した教科書会社を採択しており、居住地校とは異なる教科書を使用している教科となっている。授業内容については、事前に十分な打ち合わせを担任間で行う必要がある、忙しい中で交流に向けた確認をする必要がある。

居住地校交流については、地域とのつながりも大事にしたいという保護者の思いもあり学校間で連携しつつ保護者主体で行っている。続けていくことで、地域での共生の基盤を築いていってほしい。

I 学校概要

1 学校の概要

学校名	山梨県立ろう学校
所在地	〒405-0016 山梨市大野1009
電話番号	0553-22-1378
校長名	中村 知佳
交流及び共同学習主任名	渡邊 絵里那

2 学校教育目標

- ◎幼児児童生徒のたくましく生きる力と豊かな言語力を育む
 一人一人の特性に応じた適切な指導及び必要な支援の充実を図る
 自身の力を発揮し、自分が自分らしく生きる力を育成する
 物事に対し、周囲の人とともに取り組む力を育成する

II 交流及び共同学習推進会議の経過

1 交流及び共同学習推進会議構成員

No.	所 属・職 名	備 考
1	山梨市大野区・区長	会長
2	山梨市社会福祉協議会・会長	副会長
3	峡東教育事務所・主幹・指導主事	
4	山梨市教育委員会学校教育課・課長	
5	社会福祉法人加納岩福祉会加納岩保育園・園長	
6	山梨市立山梨小学校・校長	
7	笛吹市立春日居中学校・校長	
8	山梨県立山梨高等学校・校長	
9	山梨県立ろう学校・校長	

2 経過

開催時期	内 容
5月27日(火)	第1回交流及び共同学習推進会議
1月21日(水)	第2回交流及び共同学習推進会議

Ⅲ 学校間における交流及び共同学習（学校間交流）

1 目的

(1) 幼稚部

同年齢の集団との様々な活動を通して、幼児の生活に広がりをもたせ、豊かな心を育てる。

(2) 小学部

大きな集団の中での活動を重ねることで、生活経験の拡充を図り、社会性・協調性を養う。また、豊かな言語環境の中でコミュニケーション能力を高める。

(3) 中学部

同年代の集団との活動を通して、学習経験・生活経験を豊かにし、社会性・協調性を伸ばす。また、自己について考え、社会的自立を図ろうとする態度を育てる。活動を継続的に実施することで自己理解や障害認識を深める。

(4) 高等部

同年代の生徒との活動を通して、生活経験を豊かにし、好ましい人間関係を築く力を育てる。また、自己理解や障害認識を深め、社会参加に必要な思考力や判断力、表現力を養う。

2 提携校

学 部	交流及び共同学習提携校
幼稚部	社会福祉法人加納岩福祉会加納岩保育園
小学部	山梨市立山梨小学校
中学部	笛吹市立春日居中学校
高等部	山梨県立山梨高等学校

3 実施状況

学部	時期	提携校	実施学年	指導区分	内容
幼	5/27	加納岩保育園	全クラス	人間関係 環境	自由遊び、設定遊び他
	6/17				自由遊び、設定遊び他
	11/5				みんなで遊ぼう（運動遊び）
	11/18				自由遊び、設定遊び他
	12/9				自由遊び、設定遊び他
	1/20				自由遊び、設定遊び他
	2/10				自由遊び、設定遊び他
小	前期	山梨小学校	全学年	特別活動	メッセージカードの交換
	5/13		3年	社会・生活	農家体験（ぶどう）

小	5/16	山梨小学校	2年	特活	「きこえの学習会」
				生活	さつまいもの苗植え
	6/4		1年	生活	「春を探そう」(万力公園)
	7/2		4年	特別活動	きこえと手話の学習会 レクリエーション
	9/11		4年	特別活動	遠足(富士山レーダードーム館、湧水の里水族館)
	9/24		3年	社会・生活	農家体験(ぶどう)
	10/23		6年	特別活動	手話の学習会
	10月		全学年	体育	交流持久走大会試走
	11/6		全学年	体育	持久走大会
	11/19		全学年	特別活動	交流ふれあいまつり
	11/26		2年	生活	さつまいも掘り
	11/29		5年	社会・特別活動	オンライン自動車工場見学 レクリエーション
	1月		1年	図工	造形活動
中	5月	春日居中学校	全学年	自立活動	自己紹介カードの交換
	6月		全学年	特別活動	部活動・福祉委員会との交流
	9月		全学年	特別活動	春日居中学校学園祭への参加
	10/11		全学年	特別活動	ろう学校運動会に招待
	1月		全学年	美術 国語	美術作品の交換・鑑賞 席書き大会の作品交換・鑑賞
高	6/4	山梨高校	全学年	放課後	顔合わせ会
	6/26 27 ビデオ参加		全学年	自立活動	山梨高校学園祭「梨窓祭」 現場実習と重なったためビデオメッセージによる参加。
	10/31 中止		全学年	体育	山梨高校「梨窓 WALK」 (強歩大会)熊の危険を考え中止。

4 学校間交流の様子

(1) 幼稚部

- ・今年度も、猛暑により6月の活動を室内遊びに変更して実施した。今年度は運動会の関係で10月の交流がなく、11月に2回行った。
- ・5月及び11月の交流では、加納岩保育園の園庭にて、保育園の縦割りグループで、自由遊びや設定遊び(5月しっぽとり・11月けいどろ)を行った。本校の幼児もあそびの準備運動でリズム体操に取り組んだことで、交流の場でも楽しく体を動かす様子が見られた。

今年度は、手話歌（5～10月「手のひらを太陽に」11～2月「小さな世界」）に取り組んだ。加納岩保育園でも事前に練習していただき、一緒に元気よく楽しく歌ったり、手話表現をしたりすることができた。

- ・6月の交流は、加納岩保育園の遊戯室にて室内遊びを行った。室内遊びでは、音楽遊び（「あのはしがおちるまえに」）やゲーム（「椅子取りゲーム」）、風船運びリレーを行った。5月の園庭での自由遊びの時、ろう学校と加納岩保育園の年長児同士と一緒に遊ぶ様子が見られた。6月の室内遊びでは、年長児以外も積極的に関わって活動する様子が多く見られた。
- ・11月の交流では、ろう学校の体育館でゲーム大会（リレー、オセロ、綱引き、風船運びリレー）を行った。大勢で活動を行うことができ、迫力のある雰囲気の中で競技を楽しむことができた。

・各クラスの様子 もも組

初めての交流だったため、はじめは緊張した様子で加納岩保育園の子と関わっていたが、回数を重ねるごとに積極的に交流することができるようになった。一人学級なので同学年の友達と関わるのが良い刺激になった。

たんぼぼ組

加納岩保育園に行くことを毎回楽しみにしていた。昨年度よりも見通しをもって交流に参加することができ、ゲームやリズム体操を元気に行うことができた。

すみれ組

これまでの交流の積み重ねにより、活動に見通しを持ち、落ち着いて参加することができた。緊張したりいつもと違う雰囲気を感じたりしながらも、みんなの前で自己紹介をしたり、いろいろな遊びに参加したりすることができた。自分から加納岩保育園の園児に声をかけ、遊びに誘い、一緒に遊ぶことを楽しむ幼児もいた。



加納岩保育園園庭での「リズム体操」



室内での「椅子取りゲーム」

(2) 小学部

- ・1年生は生活科の授業で万力公園に行き、グループに分かれて、春探しビンゴを行った。その後、遊具で遊んだり動物を見たりして交流を深めた。緊張する様子が見られたが、山梨小の児童からたくさん声をかけてもらい、一緒に活動したり、場を共有したりすることができた。

- ・2年生は難聴を理解するための授業やさつまいもの苗植え・収穫を行った。難聴を理解するための授業では、本校の教員が山梨小の児童に難聴児のきこえやコミュニケーションの方法について話した。児童は口形が同じ言葉のクイズや簡単な手話などに興味をもって聞いていた。さつまいもの苗植えでは活動中に山梨小の児童から声をかけてくれることが多く、簡単なやり取りができていた。さつまいもの収穫では、土から顔を出す大きなさつまいもと一緒に歓声をあげたり、たくさんの友達と協力して掘ったりする様子が見られた。また、山梨小の友達の様子を見て自ら片づけを行う様子が見られた。
- ・3年生は農業体験を行った。5月はぶどう農家の方による、ぶどうの生育や山梨地区の果樹栽培についての学習やつる付け体験等を行った。ぶどうのつる付け体験では山梨小の班に1人ずつ本校の児童が入って行った。山梨小の友達が言葉をかけてくれたため、話をしたりつるや葉を観察して気づいたことについてやりとりしたりする様子が見られた。9月はぶどう農家の方による、畑の様子の変化についての質疑応答、ぶどうの食べ比べを行った。前回までに一緒に活動した山梨小の友達が親しく話かけてくれたため、本校の児童も嬉しそうに応じ、一緒にぶどうを食べてやりとりする様子が見られた。
- ・4年生はきこえと手話の学習会やレクリエーションを行った。また、遠足を合同実施した。聴こえと手話の学習会は、本校の教員が山梨小の児童に向けて行った。学習会に参加していた本校の児童が自分の聴こえについて積極的に伝える姿が見られた。山梨小の児童は手話に興味をもち、学習会後に本校の児童に手話で話しかけ、趣味や好きな食べ物の話をしたり自己紹介をしたりしていた。遠足では本校の児童は山梨小の班に入り、館内を一緒に見学した。一日中一緒にいることで多くの会話が生まれ、深く交流する様子が見られた。
- ・5年生は、オンライン自動車工場見学とレクリエーションを行った。オンライン自動車工場見学はオンラインでトヨタ自動車の工場に働いている方と映像やクイズ、会話をしながら自動車工場の見学をした。字幕つきだったため、本校の児童は画面を見ながら内容を理解することができた。レクリエーションでは山梨小の児童にろう学校やデフリンピック、手話についてのクイズを出題した。本校の児童は、大勢の前で発表する機会をもつことができた。また、山梨小の児童は手話やデフリンピック、ろう学校について関心をもつきっかけになった。
- ・6年生は交流持久走大会、交流ふれあいまつりにむけて、児童同士の交流を促進するために手話の学習会を行った。グループ活動をしながら自己紹介ができるようになり、児童同士の交流の場面も多く見られた。また、交流持久走大会や交流ふれあいまつりでも積極的に手話で挨拶をしようとする様子が見られた。今年度は交流の実施時期が運動会後になったが、大きな交流行事の前に実施できたので、コミュニケーションの促進につながった。
- ・持久走大会では、同級生に刺激をもらいながら全員が目標を達成することができた。走る速さについて同級生の中で自分がどのくらいの位置にいるのか分かり、励みになった児童がいた。周囲の友達の動きを見ながら行動したり、山梨小の児童と一緒に他の学年の児童を応援したりして、集団を意識して行動することができた。
- ・交流ふれあいまつりでは、今年はシルエットクイズという新たな遊びの店を考えたが、山梨小の児童にも好評で、本校の児童も楽しんで仕事に取り組むことができていた。山梨小の児童を見て、廊下での呼び込みや客への声かけをする等、山梨小の児童を意識し、行動する姿が見られた。



1 学年交流 「春を探そう」



2 学年交流 「さつまいも掘り」



「交流ふれあいまつり」

(3) 中学部

- ・ 交流実施前に、両校生徒で自己紹介カードの交換を行った。事前にお互いの情報を共有する中で交流会を楽しみにする様子が見られた。6月の交流会では春日居中学校において福祉交流委員会との交流を行った。グループごとに分かれての自己紹介ゲームを通して、手話や筆談をしながらお互いに知り合うことができた。その後、卓球部と美術部に分かれて部活動交流を行い、一緒に練習をしたり制作をしたりするなどして交流を深めた。
- ・ 9月には春日居中学校学園祭に参加し、ろう学校の生徒たちが自分たちのきこえについての話や今年度開催されたデフリンピックに関する発表を行った。また、春日居中学校のさまざまなテーマの演劇や合唱の発表を鑑賞した。発表では、きこえについての話やデフリンピックに関するクイズ、手話パフォーマンスなど、ろう学校や手話について知ってもらいよい機会となった。
- ・ 10月にはろう学校の運動会に福祉交流委員会の生徒を招いた。綱引きに参加してもらい、力を合わせ、学校の枠を越えた一体感と友情を深め、思い出に残る良い機会となった。



福祉交流委員会との交流



部活動交流



春日居中学校学園祭参加

(4) 高等部

- ・ 今年度の交流を始めるにあたり、山梨高校生徒会役員が来校し、本校高等部生徒3名と顔合わせを行った。お互いに自己紹介をした後、梨窓祭（山梨高校学園祭）で紹介する本校紹介ビデオを撮影したり、レクリレーションで親睦を深めたりすることができた。実際に会うことで親近感がわき、笑いが絶えない楽しい時間を過ごすことができた。会終了後、校内を案内して山梨高校生徒に学習環境を知ってもらった。

- ・梨窓祭にむけての取り組みでは、学校紹介のビデオの内容を考えた。高等部としての仲間意識を培い、一体感を高めることができた。
- ・本校第Ⅰ期現場実習日程と重なったため梨窓祭に参加することはできなかった。しかし、梨窓祭でろう学校生徒による学校紹介のビデオが上映されたことで、山梨高校の生徒とともに疑似的に参加している意識を持つことができた。また、事後学習で梨窓祭の様子を紹介した時には、本校の運動会や学園祭を実施する上で大いに参考になった様子であった。
- ・梨窓 WALK（山梨高校の強歩大会）は開催前日に、県内でも熊の目撃情報が増えてきた時期でもあり、安全対策上中止となった。参加生徒全員が 20k m 完走を目標としていただけに残念であった。



顔合わせ会

5 成果と課題

(1) 幼稚部

①成果

- ・同年齢と接する機会がもてたこと、大きな集団活動を体験できたことは、よい刺激となった。
- ・大きな集団が苦手な幼児も、活動を重ね少しずつ参加することができるようになった。保育園児に誘われて遊ぶことができたことは本校幼児にとって大きな成長であった。
- ・加納岩保育園の先生方に本校の幼児と保育園児をつなげるような声かけをしていただいたり、遊びに誘っていただいたりして楽しく活動ができてよかった。今後もお願いしたい。
- ・回数を重ねることで、園児と同じ遊びで交流する場面が増え、学校で遊びの中で事前に取り組むことで、ルールのある遊びを一緒に楽しむことができた。

②課題

- ・今後、活動内容（設定遊びや室内遊び等）を実態に合わせて検討していく必要がある。
- ・自由遊びでは、広い園庭のいろいろな遊具で遊べる機会となり幼児は楽しんだが、保育園児と同じ遊びで交流できない幼児もいた。自由遊びの時間や遊び方の工夫をしていきたい。
- ・本校の幼児数が減少することで、今年度までのような交流が難しくなることも考えられる。交流の回数や活動内容等を検討していく必要がある。

(2) 小学部

①成果

- ・各学年で交流前に聴こえと手話について学習会を行うことで、接し方を意識し、進んでろう学校の児童とやり取りを行う山梨小の児童の姿が見られた。大人数を目の前に緊張している本校の児童の緊張がほぐれ、活動につなげることができた。
- ・グループでの活動時や休憩時に児童同士のやり取りが多く見られた。グルーピングを行ったり自由時間を確保したりし、今後もより深い交流を行っていきたい。
- ・毎年決まった活動ではなく、児童の実態に合った活動を行うことができた。
- ・同年齢の友達の考えや興味のあるものを知り、良い刺激を受けることができた。
- ・高学年になると、交流の積み重ねがあり、児童同士の関わりが増えてきている様子が見られた。

②課題

- ・関わるきっかけがあっても互いに伝わりにくい場面が多くあった。教員が間に入ったり互いに言い直したりすることでさらに児童同士のコミュニケーションの成立を目指していく。
- ・児童同士の関わりが少ない活動があったので、グルーピング等工夫し、関わりを増やせるよう、計画・実施する。

(3) 中学部

①成果

- ・ろう学校の生徒にとっては、自分のきこえの伝え方について考えたり、デフリンピックについて伝えたりできる貴重な機会となった。春日居中学校の生徒にとっても、手話や聴覚障害について学ぶことで、理解が深まり、有意義な交流となった。春日居中学校の学園祭の発表の中には字幕用のスクリーンが用意されていたり、学年によって手話を含めた発表もあったり、ろう学校の生徒にも分かりやすく、学園祭と一緒に楽しむことができた。交流を重ねることで、お互いを思いやる心を育み、ろう文化や手話について理解を深めることができた。

②課題

- ・交流の成果を高めるために、ねらいを明確にし、双方で共有したうえで計画的に進めることが重要である。
- ・与えられた場面での交流だけでなく、教師を介さずにお互いにコミュニケーションを図れるように伝え方や聞き方を工夫していきたい。そのうえで、伝わることの感動や楽しさを感じるとともに、お互いに認め合いができる交流を今後も続けていきたい。

(4) 高等部

①成果

- ・今年度は3年生のみの在籍だったため、これまでの交流の経験をいかして交流に対して見通しや期待感をもち実施することができた。実際の交流会のときにも生徒自らが積極的に山梨高校生徒に関わりをもつ場面も見られ、楽しく交流ができた。
- ・事前の顔合わせ会では、自分たちのきこえやろう学校内部の説明ができた。相手に自分たちのことを知ってもらうことができた。

②課題

- ・知的代替教育課程の生徒のみの在籍生となった。校内での事前学習や事後学習を丁寧に行い、ねらいを明確にした上で交流することが大切である。
- ・昨年度から梨窓祭の日程が変更となり、本校の学校行事期間中と重なり生徒たちが実際に学園祭に参加することはできなかったが、事前に紹介ビデオ撮影を行うことで間接的な交流を図った。学園祭当日は本校教員が参加させていただき、ビデオ撮影をしたものを後日見ることで梨窓祭の様子を知ることができた。
- ・両校の担当教員の事前の打ち合わせを丁寧に行いスムーズな運営をしていきたい。

IV 地域における交流活動（地域交流）

1 目的

(1) 幼稚部

地域の方々との活動を通して、豊かな心を育てる。

(2) 小学部

地域の人たちと交流活動を重ねることで、生活経験の拡充を図り、社会性・協調性を養う。また、地域や社会に目を向ける意識や態度を育てる。

(3) 中学部

地域の人たちとの交流活動を通して、学習経験・生活経験を豊かにし、社会性・協調性を伸ばす。また、自己について考え、社会的自立を図ろうとする態度を育てる。

(4) 高等部

地域の方たちとの交流活動を通して地域に目を向け、社会経験を豊かにし、社会で共生していこうとする意欲を養う。

(5) 寄宿舎

地域の方々と交流活動を行うことで、コミュニケーション方法を身に付け、人間関係に広がりをもたせたり社会性を養ったりする。

2 交流先

学 部	地域交流先
幼稚部	山梨陶磁会
小学部	山梨市立養護老人ホーム「晴風園」
中学部	JA フルーツ山梨 加納岩支所
中高等部	大野区
寄宿舎	大野区ゲートボール愛好会、手話サークル「ふえふき」

3 実施状況

学部	時期	地域交流先	実施学年	指導区分	内容
幼	5/22	山梨陶磁会	全クラス	人間関係 環境	親子陶芸教室（成形）
	9/18				親子陶芸教室（釉薬がけ）
小	6/19	山梨市立養護老人ホーム 「晴風園」	全学年	自立活動	メッセージカード
	9/10		全学年	自立活動	敬老の日のお祝い
中	5月	JA フルーツ山梨 加納岩支所	1年	総合的な 学習の時間	桃の袋かけ体験
	7月		1年	総合的な 学習の時間	共選所の出荷見学
中高	12/22	大野区	全学年	特別活動	清掃活動
寄宿	5/7	大野区ゲートボール愛好会	宿泊舎生		自己紹介、寄宿舎見学、 手話講座等
	9/24	手話サークル「ふえふき」	宿泊舎生		レクリエーション等 (企画：サークル)
	11/25	大野区ゲートボール愛好会	宿泊舎生		自己紹介、寄宿舎見学、 手話講座等
	1/21	手話サークル「ふえふき」	宿泊舎生		レクリエーション等 (企画：ろう学校)

4 地域交流の様子

(1) 幼稚部

- ・陶芸教室が初めての保護者に、作品作りを積極的に行えるように、過去の陶芸教室の様子や作品写真を見せて当日に臨めるようにした。
- ・事前に、親子で作るものやイメージ、釉薬の色等を話し合ってくるように保護者に伝えた。当日は、講師にイメージを伝え、アドバイスを受けながら作る様子が見られた。
- ・講師に、粘土を切って積み上げていく様子を実際にやって見せてもらった。また、途中で子供達の作った作品をどのように活かしていくか等のアドバイスを受けながら活動した。
- ・子供達は粘土の感触を十分楽しみ、保護者も子供達の作った形を生かしながら成形に取り組んでいた。親子で熱中して取り組んでいる様子が見られた。
- ・釉薬塗りでは、焼くとどのような色になるのか見本を見てから、塗りたい色を選び塗った。重ねて塗ってもよい、塗っていないところもあってもよいことを講師から聞き、親子で楽しんで塗る様子が見られた。
- ・幼児や保護者にとって、作品が焼き上がったときのイメージを持つことは難しいが、経験豊富な講師から「焼くと割れてしまうからもう少し厚くした方が良い」「釉薬の色が薄いから色をはっきりさせるならもっと重ねて塗った方が良い」といった細かく適切なアドバイスを頂いたことで、焼いた際に割れてしまったり色が出なかったりといった失敗はほとんどなく、素敵な作品が出来上がった。



アドバイスを頂きながら色々なものを作った



さまざまな色の釉薬を塗って楽しんだ

(2) 小学部

- ・6月は5,6年生で小学部全員のメッセージ入りの壁面飾りを届けた。晴風園の方々から喜びやお礼の言葉をいただき、児童は満足そうな表情を浮かべていた。晴風園の方々から次回の交流を楽しみにしていると伝えられ、児童は期待に満ちている様子だった。
- ・9月は小学部全員で晴風園を訪問した。敬老の日のお祝いの壁面飾りをお渡しし、歌を披露した。また、一緒にダンスや風船バレーを行った。晴風園の方々と目を合わせて笑顔で歌ったりダンスしたりする様子が見られた。風船バレーでは優しく風船を返す姿もあり、相手に寄り添う様子が見られた。



6月の訪問



9月の訪問



(3) 中学部

- ・JA フルーツ山梨加納岩支所の御協力をいただき、桃の摘果体験、共選所の出荷見学、桃の選別作業体験などを行った。体験を通して、スタッフの皆様から作業の仕方を教えていただき、交流を深めることができた。丁寧な作業や桃づくりへの思い、大変さを知り、農業の大切さと食への感謝の気持ちが深まった。



桃の選別作業体験

(4) 中学部・高等部

- ・前年度からの試みで、中学部、高等部の生徒たちと大野区の地域の方々と、学校前の河川敷のごみ拾いを行った。昨年度は生徒会の活動として学校周辺のごみ拾いを行った。河川敷のごみの多さから、地域の方たちにも知っていただきたいという生徒たちからの提案で、地域交流の目的も併せての行事となっている。大野区の方々には、回覧を通して呼びかけを行い、とても充実した交流となった。地域の方々と共に、同じ目標に向けて取り組むことで、地域の方々と一体感を得られ、同じ地域に在籍するろう学校の生徒について改めて知っていただく機会にもなった。



地域の方々とはじめの会



生徒と地域の方と協働作業



集めたごみを分別

(5) 寄宿舎

- ・大野区ゲートボール愛好会との交流会では、今年度より年2回実施した。ゲートボールでの交流を2回目に行う予定だったが、雨天だったため寄宿舎での実施となった。両日とも自己紹介、寄宿舎案内、手話講座を行った。大野区の方々に寄宿舎に来ていただくのは初めてだったため、グループに分かれて寄宿舎案内を行った。舎生たちはこれまでの経験もあり、主体的に案内することができていた。手話講座は、舎生が内容を考え日常で使う手話や指文字を伝えることになった。手話や指文字の見本を見せてその意味を伝えたり、大野区の方の手を取って指の形を誘導したりと丁寧に伝えようとする様子が見られた。
- ・手話サークル「ふえふき」との交流会を行った。第1回目は手話サークル側が内容を企画し、食堂にて自己紹介、レクリエーション、ぶどうの名前の紹介、茶話会を行った。レクリエーションでは「何の仕事をしていますか」といった職業をジェスチャーで表現するゲームを行った。お互いのジェスチャーをみて大笑いするなど和気あいあいとした雰囲気で行うことができた。ぶどうの名前の紹介では、サークルの方が育てているぶどうの種類の名前を紹介していただき、様々なぶどうの名前を知ることができた。茶話会では「夏の思い出」というテーマのもと手話や口話を交えて会話した。お互いの話に質問をするなど話題が広がり、有意義な時間を過ごすことができた。第2回目は、寄宿舎が内容を企画して、1月21日(水)に寄宿舎内にて実施予定である。



大野区ゲートボール愛好会の方々との交流会の様子



手話サークル「ふえふき」との交流会の様子



5 成果と課題

(1) 幼稚部

① 成果

- ・山梨陶磁会の指導による「親子陶芸教室」は27年目となる。親子で関わりながら、幼稚部段階の子供の豊かな発想を大切に自由な作品作りが楽しめる場となっている。活動が難しい陶芸であるが、本校には施設設備があるので活用し、さらに専門家から教えていただく貴重な機会でもあるので今後も継続していきたい。
- ・初めて作品作りを行う保護者に、事前に陶芸教室の様子や作品写真、釉薬の種類の表を見せたことで、イメージ作りに役立ったと思われる。また、毎年行うことで、子供達も保護者も見通しがもて、学年が上がると自分の作りたい物を考えてから参加するようになっていく。
- ・陶芸釜の使用マニュアルを見ながら、本校職員でスムーズに素焼き、焼成ができた。トラブル（割れ、脱落等）についても講師にアドバイスをいただき対応できた。
- ・イメージ、想像力が豊かな作品が多く、講師の先生からこの年齢でしか表現できない作品に、とても感動したと評価をいただいた。
- ・講師の先生より「陶芸作品は時間を形として残せるものである」という話があった。その時の子供達の様子を書き入れておくと、後でその作品を見た時、その年に戻ることができる。幼少期に作品を作り残しておく、ということをお願いしていきたい。

②課題

- ・釉薬の塗り方の工夫や作品をつくる際に割れないようにするための留意点等について講師から話を聞き、それを記録に残し、引き継いでいく。
- ・陶芸による交流が継続しスムーズに行われるようにするために、施設、設備等の維持管理、材料・道具等の補充をする。
- ・今年度は、1人ずつ作品発表を行い、皆に自分の作品を見てもらえる機会となった。来年度以降も、1人ずつ発表する時間を確保できるように調整し、終わりの会で1人ずつ自分の作品を発表する機会を設けていきたい。人前で表現するよい機会となっているので実施していけるとよい。
- ・家庭の事情で、保護者が参加できない場合も以前より増えている。親子での活動の回数を検討するなど、状況に応じた参加方法を検討する。

(2) 小学部

①成果

- ・地域のお年寄りと交流することで、同じ地域で過ごしている身近な存在として親しみを感じることができた。
- ・自分たちの訪問を心待ちにしている人がいることを確認することができた。
- ・お年寄りとの関わりの中で、相手を思いやる心や寄り添う態度を養うことができた。
- ・自分たちの歌や壁面飾りが喜ばれていることを実感し、自信につながった。
- ・温かい言葉や笑顔に触れることで感謝の気持ちをもつことができた。

②課題

- ・施設内では感染症予防のためマスクを着用した。今後も感染症予防等について、打ち合わせを丁寧に行っていく必要がある。
- ・9月は気温が高く、水筒持参で出発時や到着時に水分補給を行った。また徒歩での移動中はマスクをはずすようにした。今後も気温が高いことが予想されるため、熱中症予防に努める必要がある。

(3) 中学部

①成果

- ・桃に関する作業を体験したり、共選所の見学をしたりすることで、山梨の産業を学ぶとともに桃への興味関心を持ち、たくさんの質問をすることができた。また、質問をすることで、新たな知識を身につけることができた。今回の活動の様子や学んだことを総合的な学習の時間で発表することができた。

②課題

- ・今後もスタッフの皆様と連携を密にして、目的・内容をより深めていく。
- ・今年度、1年生1名の交流であったため、活動の内容が限られてしまった。重複クラスの生徒も参加し、活動の幅を広げるのはどうか。

(4) 高等部

①成果

- ・地域交流という目的だけでなく、ボランティアの活動にもつながり、生徒たちにとって、活動を通して様々な視点で考える良い活動となり、社会に目を向けられる機会ともなった。地域の方々と同じ目標に向けて取り組むことで、活動終了後にごみ問題や不法投棄等、地域の課題も見え、同じ視点で課題に向き合うことができた。

②課題

- ・当日にならないと、地域の方がどのくらい来てくださるのか把握することが難しいが、貴重な交流の機会となっている。

(5) 寄宿舎

①成果

- ・大野区ゲートボール愛好会との交流会では、初めて寄宿舎に来ていただく方々が多いため寄宿舎を案内し、普段の生活について知っていただく機会となった。
- ・舎生が内容を考えた手話講座を実施したり、円滑なコミュニケーションをとるために配慮してほしいことを伝える機会をもったりした。大野区の方々に聴覚障害やコミュニケーション方法について知っていただく機会となった。
- ・伝えたい内容を筆談で行い、コミュニケーション手段を選択し相手に合わせて行動していた舎生もいた。
- ・手話サークル「ふえふき」との交流では、様々な年代や手話の経験年数が違った方々と交流することができた。サークルの方々からの手話での話題提供をきっかけに、会話を楽しむなど主体的にコミュニケーションをとり合う様子が見られた。
- ・高等部の作業班で行っているコーヒーの販売を通して、ろう学校の取り組みについて知っていただくことができた。

②課題

- ・大野区の方々との交流は今後も年2回を継続する。ろう学校の寄宿舎や聴覚障害について知ってもらうだけでなく、大野区の地域のことについても知る機会をもつなどお互いのことをより理解できるよう工夫していく。
- ・大野区のゲートボール愛好会の方たちとの交流では、2回目がゲートボールの交流であった。しかし、実施日時が11月末の放課後であったため、日没が早く活動に十分な時間がかげられないことを考慮し、来年度からは1回目にゲートボールの交流を行う計画である。5月に行うので、熱中症対策などに留意する必要がある。
- ・お互いが円滑にコミュニケーションがとれるよう、舎生が相手によってコミュニケーション手段を選び交流できるようにしていく。そのために、自分の言ったことが伝わっているか、相手の言っていることが伝わらなかった場合の方法など、コミュニケーションにおけるマナーについて事前に舎生と確認し、普段の生活からも意識できるようかかわっていく。

V 居住地の学校等における交流及び共同学習（居住地校交流）

1 目的

居住地校との交流及び共同学習を通して、児童生徒の経験を深め、社会性を養い、居住地での好ましい人間関係を形成し、その能力と可能性を最大限に伸ばして社会生活への円滑な移行を図るための基礎を養う。

2 実施児童・生徒

学部・学年	交流及び共同学習先校名	回数	実施（活動）内容
小学部3年	甲斐市立双葉東小学校	9	学級活動、書写、国語、音楽、算数など（半日～終日参加）
中学部3年	北杜市立長坂中学校	2	国語、数学、社会、理科、英語、総合的な学習の時間、朝の会、帰りの会、給食、掃除、部活動

3 成果と課題

<小学部>

① 成果

- ・年度の初めに聞こえにくいことやコミュニケーションについて交流学級の児童に話す機会を作った。指差しやジェスチャーなどで伝える様子があった。
- ・集団授業で他の児童の考え方や作品に触れることができ、よい刺激となった。
- ・地域の仲間と触れ合うことで、親しい友達ができ、よい関係が続いている。
- ・3年目の交流であり、休み時間の児童同士の自然な関わりが増え、安心して交流できた。
- ・相手校の児童も、聞こえにくいことに配慮したゲームを考えるなど、聴覚障害への理解が少しずつ広がっていた。
- ・交流日の予定など詳しく教えていただき、児童は見通しをもって登校できていた。

② 課題

- ・今後も居住地校交流のあり方を両校で確認し、相手校と連絡を密にとる。

<中学部>

① 成果

- ・朝の会、帰りの会や授業（国語、英語、数学、社会、理科、総合的な学習の時間）、部活動（卓球部）に参加することができた。
- ・一斉授業で多くの友達がいる雰囲気を感じられる良い機会となった。授業では、積極的にUDトークを活用したり、もう一度聞き直したりする様子が見られた。休み時間には、積極的に同級生に声をかけ、やりとりを楽しむ様子が見られた。
- ・長坂中学校卓球部の練習に参加したことで、本校の部活動との違いを知り、卓球を通して交流を深めることができた。

②課題

- ・実り多い交流になるよう積極的に関わろうとする態度を養う。
- ・実施予定前に、綿密に授業内容などの確認をするために、連絡を密にとる。



I 学校概要

1 学校の概要

学校名	山梨県立甲府支援学校
所在地	〒400-0064 山梨県甲府市下飯田 2-10-3
電話番号	055-226-3322
校長名	相山 洋幸
交流及び共同学習主任名	清水 亜希子

2 学校教育目標

- 健康で心豊かな人
- 自ら感じ、考え、表現する人
- 認め合い、伝え合い、助け合う人
- 自立に向けてあゆむ人

II 交流及び共同学習推進会議の経過

1 交流及び共同学習推進会議構成員

No.	所 属・職 名	備 考
1	甲府市池田地区自治会連合会・会長	会長
2	甲府市新田地区自治会連合会・会長	副会長
3	池田地区シニアクラブ連合会・会長	副会長
4	池田おやなぎ連・会長	
5	甲府市立池田小学校・校長	
6	甲府市立新田小学校・校長	
7	甲斐市立敷島中学校・校長	
8	山梨県立甲府城西高等学校・校長	
9	山梨県立甲府支援学校・PTA 会長	
10	山梨県立甲府支援学校・校長	

2 経過

開催時期	内 容
5月27日（月）	今年度の計画について
2月17日（火）	今年度の活動報告について

III 学校間における交流及び共同学習（学校間交流）

1 目 的

- 小学校、中学校、高等学校との交流及び共同学習を実施することにより、
- (1) 児童生徒の経験を広め、積極的に活動する態度を養う。
 - (2) 児童生徒の社会性を養い、豊かな心をはぐくむ。
 - (3) 互いを理解し合い、共に学び高め合う機会を持つ。

【各学部の目的】

(1) 小学部

- ①大きな集団やたくさんの友達と活動し、新しいことを体験したり学んだりする。
- ②自分からかかわろうとしたり、自分の気持ちを表したりする。

(2) 中学部

- ①経験を広めると共に、新しいことを学んだり挑戦したりする。
- ②同世代の生徒たちの考えに触れ視野を広げると共に、自分の考えを表現する。

(3) 高等部

- ①いろいろな活動をすることで経験を拡大し、社会性を育て主体的に行動する力を身につける。
- ②同世代の生徒たちの考えや行動に触れ自分の考えを表現したり、自分を見つめ直したりする。

2 基本方針

- (1) 共に学び合い、共に育ち合う場となるような交流及び共同学習を目指して、その方法や内容などを両校職員の共通理解のもとに探っていく。
- (2) お互いが共に学習することで、相互理解を深め共生社会の実現の一助となるよう努める。
- (3) 校内だけでは体験できない活動を設定できる場として、交流及び共同学習の内容について両校職員で創意工夫していく。
- (4) 両校児童生徒の変容、成長等を把握し、児童生徒のねらいに対する評価を交換し合う。

3 提携校

学 部	交流及び共同学習提携校
小学部	甲府市立池田小学校、甲府市立新田小学校
中学部	甲斐市立敷島中学校
高等部	山梨県立甲府城西高等学校

4 実施内容

学部	時期	提携校	実施学年	指導区分	内容
小	6/19	甲府市立池田小学校	1年生	自立活動 国語、音楽 図画工作、生活	自己紹介クイズ、どっちかなクイズ、ボッチャ、合唱・合奏、校内ウォークラリーなど
	6/18		2年生		
	6/4		3年生		
	6/25		4年生		
	6/11		5年生		
	11/18		6年生		
	11/12・13		全学年	自立活動 図画工作、生活	甲養祭展示発表での作品交流 ポスター配付

	5月	甲府市立 新田小学校	全学年	自立活動 国語、音楽 図画工作、生活	自己紹介カード、ビデオ メッセージによる交流 共同作品の交換
	5/12				第1回新田小児童と本校 教員との話し合い活動
	5/26		全学年	自立活動 生活、音楽、体育、 国語、図画工作	第1回交流会 新田小5年生の各班と本校 の学級ごとの直接交流
	9/8				第2回新田小児童と本校 教員との話し合い活動
	9/24		全学年	自立活動 生活、音楽、体育、 国語、図画工作	第2回交流会 新田小5年生の各班と本校 の学級ごとの直接交流
	11/12・13		全学年	自立活動 図画工作、生活	甲養祭展示での作品交流 ポスター配付
中	7/3	甲斐市立 敷島中学校	全学年	自立活動 特別活動	第1回交流会 敷島中学校1年生と本校と 直接交流
	11/12・13		全学年	自立活動 美術	甲養祭展示での作品交流 ポスター配付
	12/4		全学年	自立活動 音楽、美術	第2回交流会 敷島中学校1年生と本校と オンラインでの交流
高	4/30	山梨県立 甲府城西 高等学校	全学年	自立活動 美術	甲府城西高へ贈呈する応援 旗製作、贈呈
	11/12・13		全学年	自立活動 美術	甲養祭展示での作品交流 ポスター配付
	9月～ 12月		全学年	自立活動、音楽	自己紹介カードの交換 クリスマスカードの交換
	12/19		全学年	自立活動、各教科	音楽集会 (感染症流行のため中止)

5 学校間交流の様子

(1) 小学部

①池田小学校との交流及び共同学習

1年生は本校児童の自己紹介クイズを行った。正解すると大喜びし、とても盛り上がった。2年生はポッチャを行い、池田小学校の児童に支援してもらいながら一緒に活動することができた。3年生のどっちかなクイズでは、グループで活動した。友達と相談しながら答えを考えたり、提示されたカードを選択したりすることができた。正解した際の声に反応してうれしそうな表情になる児童が多かった。4年生のじゃんけん列車は、池田小学校の児童が積極的にかかわってくれ、本校児童は嬉しそうな表情で受け入れていた。5年生の野菜の〇×クイズでは、表情や発声で答えたり、池田小学校の児童と一緒に移動して正解するとハイタッチしたりする場面が見られた。6年生の修学旅行クイズは、大きく映し出された選択肢の画面をよく見たり、出題する児童の声を聞いたり、積極的に挙手して参加したりしていた。どの学年も池田小学校の合唱や組み立て体操の発表、一緒に合唱・合奏する活動があり、いつもと異なる雰囲気や迫力を感じて覚醒を高めたり、表情が緩んだり、一緒に歌ったりして楽しく交流することができた。



②新田小学校との交流及び共同学習

5月と9月に2回の交流を実施した。本年度も、1回目は体育館に全員が集まり、全体会をした後にグループごとに活動し、2回目はグループごとに教室に分かれて活動し、直接交流を実施することができた。交流の実施前には、本校の教員が新田小学校を訪問し、新田小学校の児童と一緒に交流でどんなことをしたいかなど、活動内容を考えた。

1回目の交流の全体会には、訪問学級の児童もリモートで参加した。その後グループごと教室に分かれて〇×ゲームやボウリングなどを行った。2回目の交流では、玄関で甲府支援学校の代表児童が、新田小学校の児童をお迎えし、グループごと教室に分かれて、リコーダーの演奏やダンスなどを行い、交流を深めることができた。



(2) 中学部

第1回の交流では、敷島中学校の生徒が本校に来校し、直接交流を行うことができた。実施時期が7月と暑い時期であったため、二つの教室に分かれて行った。全体会をリモートで二か所の教室をつないで行い、活動はそれぞれの教室で行った。自己紹介を兼ねた「サイコロトーク」と特別ルール「甲府支援ボッチャ」を行った。「サイコロトーク」では、サイコロを転がして出た目に書かれた質問に答えて互いのことを知ることができた。「甲府支援ボッチャ」では、互いにチームごと協力してボールを転がす様子がよく見られた。

本年度は、第2回の交流も感染症対策に配慮しながら直接交流を実施することができた。敷島中学校の生徒が考えてくれたオリジナルルールの「ボウリング」と「成果発表」を行った。「ボウリング」では、数種類のボールの中からどのボールを投げるかサイコロを振って種類を決め、ペアとなって投球した。1回目よりも深い協力的な姿勢が見られた。「成果発表」では、甲養祭ダンスと敷島中学校は合唱の発表を行い、互いに一年間の成果を発表し合った。

また、二回の交流会以外にも本校の学園祭の『甲養祭』、敷島中学校の学園祭である『年輪祭』に互いに作品を展示し、作品交流を行った。



(3) 高等部

4月と6月に直接交流、10月と11月に間接交流を行った。甲府城西高校での壮行会に参加して高校総体に向けた応援旗を贈呈した際には、本校児童生徒会役員から直接手渡すことができた。また、6月にYCC 県民文化ホールで行われた甲府城西高校の学園祭「希城祭」には本校1年生が訪問した。また、本校高等部各クラスの紹介カードを作ったり、本校の学園祭である「甲養祭」のために作品を借用したりして展示する交流も行った。



6 成果と課題

(1) 小学部

①池田小学校との交流及び共同学習

本年度は、どの学年も直接交流することができた。5月の職員打ち合わせ等で活動内容を検討し、両校の児童が楽しめる内容の交流となった。児童や学校に関するクイズは、楽しみながらお互いのことを知るよい機会となってよかった。また、クイズやボッチャなどグループでの活動にすることで、より積極的なかわりが見られた。池田小学校の児童からは、「相手のことがわからなくて苦い思いをした子もいたかもしれないけれど、次回の交流会でその経験を生かして接することが大切だと思った」という感想もあった。学年が上がるごとに、池田小学校の児童が本校の児童のことを考えてクイズを考えたり、お互い相手のことを考えて行動したりしており、毎年交流を積み重ねていくことの意義を感じている。6年生は様々な行事があり、今年度は忙しい時期での交流となってしまったが、打ち合わせを丁寧に行い、無理なく続けられる内容や方法を考えて交流を実施していきたい。

②新田小学校との交流及び共同学習

打ち合わせ前に事前に子供たちからの交流内容の計画書を送ってもらい、担当職員が確認することでスムーズに打ち合わせを行うことができた。全体会は1回目の始めの会のみにするすることで、グループごとの活動を行う時間を確保し、限られた時間の中ではあるが充実した時間を過ごすことができた。本校の児童の実態に応じて、様々な活動が計画されていた。打ち合わせ後に活動内容の変更をお願いすることもあったが、新田小の児童が計画を練り直してくれ、両校の児童が仲良く楽しい交流を行うことができた。

新田小学校とは、2回交流を行うことができるので、1回目の反省を両校で共有し、2回目にはよりよい交流ができるようにしたい。

(2) 中学部

今年度は、1回目、2回目ともに直接交流を行った。1回目の直接交流では、生徒同士のかかわりの中で、互いに寄り添う姿も見られ、交流を深めることができた。本校の生徒も友達の声を直接聞いたり、触れ合ったりする中で、交流を実感することができ、笑顔も多く見られた。

今年度は、2回目の交流も感染症対策をしながら、直接交流を実施した。来年度も感染症の状況や生徒の健康状態を考慮しながら直接交流の実施を検討していきたい。また、2回目の活動については、敷島中学校の生徒に活動内容を考えてもらうことで、積極的な生徒同士のかかわりが見られた。

(3) 高等部

今年度は感染症の影響で12月の交流が中止になったため昨年度に比べて直接交流の機会が少なかった。実施した交流については相手校の生徒を意識して事前学習を行い、充実し

た時間を過ごせたと感じる。間接交流においても写真やメッセージを見ることで生徒が見通しをもって活動に取り組むことができた。

交流及び共同学習の計画及び実施については、各授業で横断的に事前事後学習に取り組んだり、当日の詳細な動きについて確認したりし、校内においても教員間で協力する必要がある。また、相手校に関しても交流活動ごとに担当教員が異なるため、綿密に連絡を取り合い、有意義な交流を実施していけるようにしたい。

IV 地域における交流活動（地域交流）

1 目的

- (1) 交流を通して、児童生徒の経験を広げ、自己表現できる豊かな人間性を育てる。
- (2) 地域社会の方々に、学校や児童生徒の様子を理解してもらい、共に生きていくことの大切さを学び合う場とする。

2 基本方針

- (1) 交流及び共同学習を計画的、継続的に実施するために、学校や地域の関係団体（関係機関）等の関係者によって構成する連絡組織を設ける。
- (2) お互いが共に活動することで、相互理解を深め共生社会の実現の一助となるよう努める。
- (3) 児童生徒の実態を踏まえ、一人一人が十分に力を発揮でき、成長できる活動が行えるよう創意工夫する。
- (4) 児童生徒の変容、成長等を把握し、地域の方々にわかりやすく伝えながら、その意義を認め合いかわりが深まるようにする。

3 交流先

学 部	地域交流先
寄宿舎	池田地区シニアクラブ連合会
全学部	池田おやなぎ連 池田地区文化協会 新田地区文化協会

4 実施内容

学部	時期	地域交流先	実施学年	指導区分	内容
寄宿舎	7/5	池田地区シニアクラブ連合会	全舎生	舎生会行事	夏まつり
	1/19	池田地区シニアクラブ連合会	月曜日舎生	舎生会活動	新年お楽しみ会
全学部	6月	山梨中央銀行下飯田支店作品展示	全校	自立活動美術	窓口のギャラリーに作品を展示
	1/22	池田おやなぎ連	小学部	自立活動音楽	自立活動（音楽活動）での交流 （都合により中止）
	10/18～19	池田地区文化協会	小学部 高等部	自立活動 図画工作 美術	池田地区文化祭作品展示
	10/26	新田地区文化協会	中学部 訪問学級	自立活動 図画工作 美術	新田地区文化祭作品展示

5 地域交流の様子

(1) 寄宿舎

7月4日の夏まつりに池田地区シニアクラブから8名の方に参加いただき、直接交流を実施することができた。「パラバルーン」や「クイズ」、「よっちゃばれ」を踊って交流を深めることができた。活動を通して舎生とシニアクラブの方が一緒に協力し、活動を楽しむ様子が見られた。

1月19日には、2回目の地域交流会として新年お楽しみ会へ池田地区シニアクラブの7名の方に参加をしていただき実施した。舎生とシニアクラブの方とペアを組んで、カラーシートの上に置かれたボールを得点の書かれた的を目指して投げる「ピンボールゲーム」をして交流を行った。「せーの」や「もう一回頑張ろう」など息を合わせようと声をかけ合ったり他のペアと一緒に応援したりと、交流を深めることができた。



(2) その他

甲養祭での作品交流では、学校間交流を行っている全ての提携校と地域の文化協会の方々から作品をお借りし、展示発表を行った。

10月には、池田地区文化協会による池田地区文化祭と新田地区文化協会による新田地区文化祭が開催された。池田地区文化祭には、本校の小学部と高等部の児童生徒の作品を展示し、新田地区文化祭には、本校の中学部と訪問学級の生徒の作品を出展した。地域の方に本校の児童生徒の作品を見ていただく機会ができた。

昨年度に引き続き、本年度も本校の近隣にある山梨中央銀行下飯田支店の窓口に作品を展示させていただいた。6月中の約1か月間展示させていただき、多くの方に本校の児童生徒の取り組みを知っていただく貴重な機会となった。

池田おやなぎ連との交流については、小学部の自立活動（音楽活動）/音楽の時間に学校にお招きし、直接交流を行う予定であったが、諸事情により中止となった。

6 成果と課題

寄宿舎では、今年度も2回の直接交流が実施できてよかった。活動を通して、池田地区シニアクラブの方と舎生が協力しながらゲームをしたり、楽しく会話をしたりと交流を深めることができた。今後もかかわりやすい活動を計画していく。

池田おやなぎ連の方との交流については、本年度も甲養祭ではなく、小学部の一部の児童と直接交流を計画した。来年度も甲養祭に限らず、多くの児童生徒と交流できる場を設定できるよう検討していきたい。

V 居住地の学校等における交流及び共同学習（居住地校交流）

1 目的

- (1) 居住地の児童生徒と相互に理解を深めることを目的とする。
- (2) その後の地域における直接的、間接的交流に発展することを目指す。

2 実施状況

学部・学年	交流及び共同学習先校名	回数	実施（活動）内容
小学部 1 年	市川三郷町立六郷小学校	1	授業見学（音楽） 「甲養祭」のポスター配付
小学部 2 年	山梨市立山梨小学校	1	集会への参加 「甲養祭」のポスター配付
小学部 3 年	昭和町立常永小学校	3	授業への参加（図工） 「甲養祭」のポスター配付
小学部 5 年	甲府市立大國小学校	1	「大國まつり」へ参加 「甲養祭」のポスター配付
小学部 5 年	甲州市立奥野田小学校	1	授業への参加（図工） 「甲養祭」のポスター配付
小学部 6 年	山梨市立加納岩小学校	1	オンラインでの交流 授業に参加（特別活動） 「甲養祭」のポスター配付
中学部 1 年	甲州市立塩山中学校	1	授業見学 「甲養祭」のポスター配付
中学部 2 年	甲府市立東中学校	1	合唱祭に参加 「甲養祭」のポスター配付
中学部 2 年	甲府市立北西中学校	1	合唱祭に参加 「甲養祭」のポスター配付

3 成果と課題

今年度は9名の児童生徒が居住地校交流を希望し、直接交流を実施することができた。昨年度からの継続の7名の児童生徒に加えて、2名の児童が新規で希望し、交流を実施した。また、交流回数についても昨年度は年間で1回の児童生徒がほとんどであったが、今年度は、3回交流校を訪問し、交流する児童もいた。活動内容については、普段の授業の様子の見学や行事への参加が主であった。

交流校に訪問する前に、オンラインで交流を行ったり、自己紹介の手紙やDVDを渡したりすることで、事前に交流校の児童生徒に本校の児童生徒のことを知ってもらうことができた。6年生の児童が実施したオンラインでの交流では、相手校の児童から本校の児童が好きなことや「ボールが投げられるか」などのできることなどの質問があり、教員同士ではなく、児童同士で活動内容の話し合いができ、高学年らしい交流ができた。

交流当日は、名前を呼んでくれたり、バギーを押してくれたりとすることがうれしくて笑顔や楽しい声を出すようすが見られた。病院など地域の施設で本校の児童と会ったことがあると話してくれる児童もおり、本校の児童の存在を意識して過ごしてくれていることを感じる場面もあった。交流校での行事に参加することを楽しみにしている児童もおり、参加する回数を重ねるうちに、友達とのかかわりや学校の雰囲気慣れ、見通しをもって活動に参加することができた。

居住地校交流の実施においては、活動場所や移動方法に配慮が必要であるが、本校の児童の実態などを丁寧に伝え、打ち合わせをすることで、柔軟に対応できるようにしていきたい。また、発作などの対応に配慮が必要な児童生徒の実施においては、担任間だけでなく、相手校の養護教諭にも協力していただく必要がある。今年度は養護教諭にも打ち合わせに同席していただき、本校の児童の実態や緊急時の対応などについて説明させていただくことができた。

今後の居住地校交流の実施に向けて、日常の中で自然なかかわりがもてるような交流の実施方法を検討し、双方に無理なく継続した交流ができるよう取り組んでいきたい。

I 学校概要

1 学校の概要

学校名	山梨県立あけぼの支援学校
所在地	〒407-0046 韮崎市旭町上條南割3251-1
電話番号	0551-22-6131
校長名	中込 昭彦
交流及び共同学習主任名	清水 絵美

2 児童生徒数（令和7年5月2日現在）

学部	小学部								中学部					高等部				計
	1	2	3	4	5	6	重複	訪問	1	2	3	重複	訪問	1	2	3	重複	
学級数	1						5	1	1			3	1				6	18
人数	1						15	2	1			9	1				16	45

3 学校教育目標

「いきいきと～Full of life～」を校訓とし、教育と医療・福祉が密接に結びついた特色ある教育を実現し、質の高い自立と社会参加に向けて可能性を最大限に引き出す教育を行う。

II 交流及び共同学習推進会議の概要

1 交流及び共同学習推進会議構成員

No.	所 属・職 名	備 考
1	山梨県立あけぼの支援学校・教育振興会会長	顧問
2	山梨県立あけぼの支援学校・校長	会長
3	韮崎市旭町上條南割地区・代表区長	副会長
4	韮崎市立甘利小学校・校長	副会長
5	韮崎市旭町上條南割地区・老人会会長	
6	韮崎市福祉課・課長	
7	富士川町立増穂南小学校・校長	
8	韮崎市立韮崎西中学校・校長	
9	甲府市立甲府商業高等学校・校長	
10	学校法人日本航空高等学校・校長	
11	山梨県立韮崎工業高等学校・校長	
12	山梨県立あけぼの支援学校・PTA会長	

2 年間計画

開催時期	内 容
6月24日(火)	前年度の地域交流・学校間交流紹介、今年度の地域交流・学校間交流・居住地校交流・交流及び共同学習推進会議開催について等
2月 3日(火)	今年度の地域交流・学校間交流・居住地校交流の活動報告、来年度の交流及び共同学習推進会議について等

Ⅲ 学校間における交流及び共同学習（学校間交流）

1 目 的

(1) 本校の目標

- ①小学校、中学校、高等学校との交流及び共同学習を通して児童生徒の経験を広め、社会性を育み、豊かな人間性を養う。
- ②児童生徒のふれあいを通してお互いの存在を理解し、大切にしていこうという気持ちを育てる。

(2) 小学部

- ①同年代の児童との活動を通して、雰囲気を感じて自分の意思や感情を表現することができる。
- ②日頃の活動を生かした交流及び共同学習を行いながら、お互いの理解やかかわり合いを深める。

(3) 中学部

- ①同年代の生徒との活動を通して経験を広め、また他校の生徒達の考え方等に触れて視野を広げる。
- ②日常の学習活動や生活とは異なる集団活動の中で、かかわりや刺激を受け止め、生徒自身の意思や感情を表現できるようにする。

(4) 高等部

- ①他校の生徒と活動する機会を通して経験を広め、社会性を育てる。
- ②同世代の生徒達と活動したり、他校の生徒達の考え方等に触れたりして、お互いの理解を深める。
- ③交流及び共同学習会の雰囲気を感じ、他校の生徒からのかかわりに、自分なりの表現で応じることができるようにする。

2 基本方針

(1) 本校の基本方針

- ①共に学び合い、共に育ち合う場となるような交流及び共同学習を目指して、その方法や内容等を両校教師の共通理解の基に探る。
- ②提携校の児童生徒に本校児童生徒について理解してもらおうと共に、提携校に対する理解も深めるよう努力する。
- ③障害が重度重複化、多様化する中で、一人ひとりを生かすことができる交流及び共同学習のあり方について検討する。
- ④両校児童生徒の反応、変容等を把握し、意義のある交流及び共同学習の実践に努める。
- ⑤保護者や地域社会への啓蒙のための方法について検討する。

(2) 小学部

- ①提携校と交流及び共同学習に関する目標を明確にした上で、学習形態や指導内容等を綿密に話し合い、相互理解の基に実施する。
- ②甘利小学校は児童数が多いので、形態や内容等について相互の教師で話し合いを深めながら工夫して実施していく。
- ③増穂南小学校とは、これまでの積み重ねや少人数の良さを生かし、学年交流の形態を主に実施する。
- ④作品展等の間接交流を工夫して行う。(あけぼの祭、ゆずっ子文化祭で作品交流)
- ⑤日常的な学習や活動を生かした交流及び共同学習が実施できるように工夫する。
- ⑥両校職員が交流及び共同学習に対する基本的な考えを共通確認することや互いの意思疎通を図るために、打ち合わせ会では、ビデオ等を活用しながら話し合いを深めていく。
- ⑦交流及び共同学習を楽しみにできるように、ビデオレターや紹介カード、児童情報カード等を作成し、お互いに事前の指導に役立てるようにする。

(3) 中学部

- ①交流及び共同学習の目標や生徒個々の実態を踏まえた上で、活動内容を設定する。
- ②紹介カード等で生徒間の相互理解を図ったり、それぞれの学園祭で生徒の作品を展示し合い、作品を通して理解を深めたりすることができるようにする。
- ③内容や実施方法は両校で綿密に打ち合わせを行い、生徒が主体的に企画・運営する部分を設け、充実した交流及び共同学習ができるように工夫する。

(4) 高等部

- ①お互いの理解をより深めること、お互いに刺激し合うこと、実年齢に伴ったかわりを考え、交流及び共同学習を行う。
- ②3校間のつながりを大切にしながら交流及び共同学習を実施し、お互いに刺激し合えるように設定する。また、全ての生徒にとって充実した交流及び共同学習会となるように努める。特に、各校ごと1名の生徒を担当として位置付けることでかわりを深め、相互に生活年齢に即した対応や活動内容の設定等を心がけていく。
- ③3校間で事前に活動の打ち合わせを綿密に行い、生徒間の相互理解が図れるように事前に情報交換をしておく。当日生徒が主体的に運営する部分を設け、充実した交流及び共同学習ができるように工夫する。また、可能な限り事後学習を行う。
- ④第1回目の交流及び共同学習は、本校が企画運営を行う。第2回目は、甲府商業と日本航空高等学校が主体となり、隔年で企画・運営にあたる。

(5) その他

交流及び共同学習の実施にあたっては、教育課程上の位置付けや指導の目標などを明確にして適切な評価を行い、次の交流及び共同学習へ生かしていく。また、個別の指導計画や指導要録へ記載する。

3 提携校

学 部	交流及び共同学習提携校
小学部	蕪崎市立甘利小学校（5年生）、富士川町立増穂南小学校
中学部	蕪崎市立蕪崎西中学校（福祉ボランティア委員）
高等部	甲府市立甲府商業高等学校（インターアクトクラブ）、 学校法人日本航空高等学校（国際クラブ）
全校	山梨県立蕪崎工業高等学校（木材加工班 3年生）

4 実施状況

学部	時期	提携校	実施学年	指導区分	内容
小	6/26	富士川町立 増穂南小学校	全学年	特別活動	合唱の発表、ゲーム、造形活動等
	11/5	蕪崎市立甘利小学校 （5年生）	全学年	特別活動	自己紹介、手作りおもちゃ と一緒に活動等
中	6/27	蕪崎市立蕪崎西中学校 （福祉ボランティア委員）	全学年	特別活動	自己紹介、合奏、ゲーム等
高	6/16	甲府市立 甲府商業高等学校 （インターアクトクラブ） 学校法人 日本航空高等学校 （国際クラブ）	全学年	総合的な 探究の時間	学校紹介、ハンドベル演 奏、クイズ等全体での活動
	12/10	甲府市立 甲府商業高等学校 （インターアクトクラブ） 学校法人 日本航空高等学校 （国際クラブ）	全学年	総合的な 探究の時間	ボッチャ、かるた等グルー プごとの活動
全 校	7/2	山梨県立 蕪崎工業高等学校 （木材加工班 3年生）	希望 グループ	特別活動 総合的な 学習の時間	自己紹介、授業交流等
	1/14	山梨県立 蕪崎工業高等学校 （木材加工班 3年生）	希望 グループ	総合的な 探究の時間	教材受け入れ式、授業交流

5 学校間交流の様子

(1) 小学部

増穂南小学校、甘利小学校とそれぞれ交流を行い、今年度は6年ぶりに対面での交流が実現できた。交流の事前学習として本校教員が両校に赴いて本校の様子等を伝える福祉講話を行った。福祉講話では、本校児童生徒の登校の様子や校内の施設の様子等の映像を紹介したり、車いす体験やボッチャなどの体験学習を行ったりした。また、事前に本校の児童の自己紹介カードや紹介動画を送り、一人ひとりの好きなことや興味のあること等を知ってもらう工夫を行った。



6月26日に行った増穂南小学校との交流会では、全体会でお互いに合唱や歌を発表した後、グループごとに手遊びやゲーム、造形活動などを行った。「やっと会えたね」と一緒に活動を楽しみながら、やりとりをしたり、ゲームで盛り上がったりと、対面だからこそわかる表情や反応を通してお互いの理解をより深めることができた。

11月5日の甘利小学校との交流では、まずお互いに歌の発表を行った。72名の迫力のある甘利小学校児童たちの歌声を間近で聴くことができ、本校の児童たちは嬉しそうな表情を見せていた。後半は本校の児童のために甘利小学校の児童が自分たちで作成した教材を通じて、個別にじっくりとかかわることができた。同じ場で時間を共にすることで距離が縮まり、児童同士で自然とやりとりする場面も多く見られた。



(2) 中学部

韮崎西中学校福祉ボランティア委員会の生徒28名との交流会を、6月27日に行った。5月中旬には、自己紹介の動画撮影や自己紹介カードの交換を行う等の事前学習を実施した。本校の生徒は、自己紹介カードを通じて交流する韮崎西中学校の生徒がどのような人かを意識しながら、活動内容を考えて選ぶ様子が見られた。当日は、両校それぞれ4グループごとに、ボウリング大会、風船バレー、ダンス等を行った。活発に発表したり質問に答えたりし合うことで、互いの存在を身近に感じながら活動に取り組むことができた。生徒達はとても良い表情をしてお互いを見つめたり、声や音楽に聴き入ったりして、楽しい時間を共有することができた。両校生徒共に声をかけ合いながら笑顔溢れる交流になった。この交流を通して、本校の生徒は他者との関わりの中で自分の想いや感情を表現する力を育み、相手の反応を受け止める経験を積むことができた。一方、韮崎西中学校の生徒にとっても本校との生徒との関わりを通して、多様な価値観や表現の仕方に触れ、思いやりや共感の心を育てる貴重な機会となった。お互いが違いを認め合い、協力しながら活動することで、共に学び合う姿勢が自然と育まれた交流会となった。



(3) 高等部

甲府市立甲府商業高等学校インターアクトクラブ、日本航空高等学校国際クラブのみなさんに来校していただき、三校間で交流を行った。

1回目は6月16日に本校ほほえみホールに参集し、甲府商業高等学校のハンドベル演奏と航空高等学校によるクイズを行った。事前に自己紹介カードを交換し、グループ分けをしていたことで、個々の関わりを持ちながらクイズの答えを一緒に考えたり写真撮影をしながら会話したりすることができた。対面で直接交流できたので、本校生徒は生き生きと他校生徒と関わることもできた。



あけぼの祭では活動を紹介する壁新聞を作成していただき、掲示することができた。あけぼの祭後しばらく掲示したり、教室に持って行って2回目の交流に向けた事前学習の資料として活用したりすることもできた。

2回目は12月10日に行った。ほほえみホールに参集しはじめの会を行った後、各グループに分かれてボッチャ・かるた・創作活動に取り組んだ。笑顔で楽しそうに取り組む様子が見られた。



(4) 葦崎工業高校との交流

葦崎工業高校の3年生による卒業制作を通じて、本校の児童生徒が使用する教材の製作を依頼し、両校の交流を図っている。教材制作を通じて、互いの理解を深める貴重な機会となっている。今年度は、小学部がプリンター・学習用サブテーブル、中学部がキーボード置台、二段ケース、高等部が台付二段ケース、足湯台の製作を依頼した。



1回目の交流会は、7月2日(水)に本校にて対面交流で実施した。両校の参加児童生徒を5つのグループに分かれ、自己紹介や授業交流を通じて積極的に関わり合った。葦崎工業高等学校生徒の生徒が本校の授業に参加し、体育的な活動や美術的な活動を共に体験した。活動を通して、児童生徒は互いの個性や考え方に触れ、交流の中で多様性を受け入れ合う姿が見られた。終始和やかな雰囲気の中で進行し、両校にとって有意義な学びの場となった。



1月14日(水)には、教材教具受け入れ式を実施した。今回の交流では、同校の生徒が卒業制作として作成した教材を、本校児童生徒が直接受け取る機会を設けた。式では、制作者である生徒から教材の工夫点や制作過程における工夫について説明を受けると共に、実際に教材を使用している様子を紹介した。児童生徒は感謝の気持ちを言葉や態度で伝えながら、教材への理解と関心を深めることができた。また、グループごとの交流も行われ、相互に話を聞いたり、教材の活用場面を共有したりすることで、交流の意義を実感する時間となった。児童生徒の表情からは喜びや感謝の気持ちが感じられ、心温まる交流となった。

6 成果と課題

(1) 小学部

今年度は、対面での交流が実施できたことが大きな成果である。6年ぶりの対面交流ということもあり、感染症対策や事前の密な連絡のやり取りを経て実施することができた。

増穂南小学校との交流では、本校の児童と1年生から6年生までが毎年継続して交流を行っている。昨年度までは手紙やリモートでの交流であったが、増穂南小学校の児童達が、これまで交流してきた本校の児童のことをよく覚えている様子で、実際に会って交流できたことをとても喜んでいて、本校の児童にとっても、同年代の子どもたちからのかわりは刺激的で、どの児童も良い表情で参加しており、良い経験となった。「また来年会おうね」と継続してきたからこそ生まれる関係性が築かれていると感じた。

甘利小学校5年生との交流では、どんな教材を作れば喜んでもらえるかを甘利小学校の児童が真剣に考えて作ってくれたことが伝わり、本校児童もとても嬉しそうな表情を見せていた。また、今年度はその教材を使って一緒に遊び、お互いの反応や表情を間近で感じながらやりとりできたことで、どちらの児童にとってもよい経験となった。お互いに顔を見合い、一緒に笑い合ったり、楽しんだりする姿が見られ、心を通わせることのできる交流となった。甘利小学校の児童の人数が多いため、感染症対策の徹底やグループ活動の工夫などは来年度も必要であると考えた。

今後も交流の形式に柔軟に対応しながら、相互に協力し、互いの理解を深め相手のことを思いやれる交流を目指していきたい。

(2) 中学部

葦崎西中学校との交流は、感染状況に応じた柔軟な対応を模索しながら、今年も感染症の生徒がいなかったため、対面での交流を実施することができた。他校の同年代の生徒の様子や考えに触れることができ、本校の生徒にとっては新たな刺激となり、社会性や対人理解を深める貴重な機会となった。本校の生徒は、日常と同じグループで活動することで、安心して交流に参加することができた。グループごとの活動により、交流時間を十分に確保でき、活動内容も生徒の特性に合わせて調整することが可能となった。交流会では、豊かな表情や言葉、身体の動きによって意思や感情を表現する姿が見られ、相手校の生徒とのやりとりを通じて、自己表現力や他者との関わり方を学ぶことができた。

一方、葦崎西中学校の生徒にとっても、障害のある生徒との交流を通して、多様な価値観や表現力に触れることで、思いやりや共感の心を育む学びの場となった。実際に、福祉ボランティア委員会に所属する生徒の多くが、本校との交流を目的として活動に参加しているという声もあり、交流が生徒の意識や行動に影響を与えていることがうかがえる。

今後の課題としては、感染症防止対策の継続が必要であり、相手校の生徒が本校に来校することが難しい状況では、オンライン交流の計画も同時に行う必要がある。また、自己紹介カードや動画等の事前教材の充実を図ることで、交流相手への理解をより深めることができる。交流の目的や活動内容を明確にし、限られた時間の中でも達成感を得られるような計画が求められる。さらに、交流後の振り返りや成果の共有を通じて、次年度以降の活動に生かすサイクルを確立することも課題のひとつである。

交流活動は、お互いの学びを深め、社会性や共感力を育てる教育的な意義を持つ場である。今後も、形式にとらわれず、柔軟に交流のあり方を検討しながら、継続的で実りある関係づくりを目指していきたい。

(3) 高等部

甲府商業高等学校と航空高等学校と本校の三校での交流のため、日程調整や感染症対策など難しい部分もあったが、何度か話し合いを重ねることで無事に開催することができた。1回目は全体での交流会、2回目はグループごとの交流会とした。初めて参加した相手校の生徒は障害のある生徒との関わりが初めての場合が多く、最初はどのように関わったらよいか様子を見ていた生徒もいたが、本校教員と一緒に活動しながら関わり方を提示すると、時間が経つにつれて声をかけたり手を支えてくれたり等、自然に関わる姿が見られるようになった。複数回参加できている生徒は本校生徒との関わりにも慣れ、積極的に関わりを持とうとする様子が見られた。同世代の高校生と関わる機会が少ない本校生徒にとってよい刺激となり、普段とは違った生き生きとした反応を見せる生徒が多かった。

クイズやゲーム等と一緒に取り組む中で、様々な会話が生まれ、貴重なコミュニケーションの機会となっている。今後も交流を継続していくために、よりよい内容を検討していきたい。

(4) 全校（葦崎工業高等学校との交流）

葦崎工業高等学校との交流は、対面で実施することができ、双方の児童生徒が直接様子を見合う中で相互理解を深める貴重な機会となった。その場で質問や回答を交わすことで自然なコミュニケーションが生まれ、和やかな雰囲気の中で交流を楽しむことができた。また、互いに理解しようとする姿勢や感謝の気持ちを育み、交流の意義を実感することができた。さらに、小学部・中学部・高等部それぞれの実態や目標に応じた活動を計画し、実施できた点も成果である。1月の教材受け入れ式も対面で行うことができ、当日は葦崎工業高校に制作を依頼した生徒用机や二段の棚等を実際に活用している様子を見ていただいた。さらに、葦崎工業の生徒からは制作過程で工夫した点や困難だった作業について具体的な説明を受け、教材製作に込められた思いや技術を共有することができた。この交流により、児童生徒は大切に扱おうとする意識を高めることができたと感じている。また、直接顔を合わせることで双方の学校の取り組みを理解し合う時間となり、互いの気持ちを伝え合うことができた。今後は、感染症予防対策を継続しながら、対面とオンラインの計画を立て、より安全で効果的な交流方法について両校で協議し、計画を進めていきたい。

IV 地域における交流活動（地域交流）

1 目的

(1) 本校の目標

- ①地域の方々と共に活動する中で、生活経験や対人関係を豊かにし、社会に積極的に関わろうとする力を育てる。
- ②地域の方々からのかかわりを受け入れたり、自分からも何らかの表現を返したりして、一緒に活動を楽しむことができるような気持ちを育てる。
- ③地域の方々の趣味や特技を生かすことで交流及び共同学習や授業をより充実させると共に相互理解を促進する。

2 交流先

学 部	地域交流先
小学部	旭町上條南割地区の方々及び老人会の方々
中学部	旭町上條南割地区の方々及び老人会の方々
高等部	旭町上條南割地区の方々及び老人会の方々

3 実施状況

感染症防止対策のため、コロナ禍以降、直接的に触れ合う交流が実施できていない。そこで、昨年度から「あけぼの掲示板」として本校の交流の様子や児童生徒の作品等をまとめた掲示物を配付している。今年度も、学校近隣にあるセブンイレブン（葦崎旭町店）に御協力いただき掲示させていただいている。また、南割地区（4地区）に配付し、回覧版で回覧していただいている。年に2回（前期末、後期末）発行しており、「あけぼの掲示板」を見ていただくことで、本校児童生徒のことを知っていただき、理解を深めていただく機会にしたいと考えている。



4 課題

本校の実情から、来年度以降も感染症防止対策のため直接触れ合う交流会は実施することが難しい状況が考えられる。しかし、地域の方々と繋がり合っていくことは児童生徒にとって今後も必要なことである。今後も地域交流として継続して取り組んでいける一つの方法として、まずは地域の方々に本校の児童生徒を知っていただくことを目的に、地域のお店や回覧板で情報発信を続けていきたい。今後、掲示をしていただくスペースやお店を増やしたり、本校の情報を継続して回覧していただいたりすることでより身近に本校のことを感じたりしていただけるよう、内容等工夫をしていく必要がある。

V 居住地の学校等における交流及び共同学習（居住地校交流）

1 目的

- (1) 同年代の小中学校の児童生徒と共に活動することにより、相互理解を深める。
- (2) 居住地域における交流及び共同学習を通して、日常的な地域での社会参加へ発展させていく。
- (3) 将来的な視点に立ち、より充実した人間関係の基盤を整える。

2 実施状況

学部・学年	交流及び共同学習先校名	回数	実施内容
小学部・3年	甲府市立伊勢小学校	3	演劇教室・運動会・6年生を送る会
小学部・5年	甲府市立池田小学校	1	音楽（自己紹介など）
中学部・1年	北杜市立白州中学校	2	合唱祭・ボッチャ

3 成果と課題

小学部3年生の児童1名は、特別活動として演劇教室、運動会等に参加した。演劇教室では、伊勢小学校の児童と一緒に体育館で演劇を鑑賞し、休み時間には交流学級の友達が本児童の所に集まり、話をして関わる事ができた。秋には運動会にも参加し、交流学級の待機場所から一緒に観覧したり、応援したりすることができた。

小学部5年生の児童1名は、音楽の授業に参加した。本校児童が自己紹介カードを使って自己紹介をした後、友達と一緒に様々な楽器を使ってリズムを作り、母親と一緒に演奏をして楽しむことができた。秋に2回目の交流を予定していたが、感染症の流行のため、実施が難しかった。代わりに手紙のやりとりを行い、間接的に交流を行った。

中学部1年生の生徒は、合唱祭や学級活動に参加した。学級活動では、ボッチャを行った。本生徒は少し緊張していたが、交流学級の生徒たちと一緒に楽しく活動することができた。また、相手校の生徒達にとっては、ボッチャという競技が珍しく、障害者スポーツを知る良い機会となった。

今年度は、居住地校交流の希望者が少なかったため、来年度に向けて改めて全校にアナウンスし、希望者を募っていきたい。

I 学校概要

1 学校の概要

学 校 名	山梨県立わかば支援学校
所 在 地	〒400-0226 南アルプス市有野 3346-3
電 話 番 号	055-285-1750
校 長 名	金丸 学
交流及び共同学習主任名	山本 恵

2 学校教育目標

たくましい力 ゆたかな心

II 交流及び共同学習推進会議の経過

1 交流及び共同学習推進会議構成員

No.	所 属・職 名	備 考
1	南アルプス市教育委員会・教育長	
2	南アルプス市社会福祉協議会地域福祉課・課長	
3	南アルプス市源地区自治会連合会（交流及び共同学習推進会議担当）・有野西自治会長	会長
4	南アルプス市立白根源小学校・校長	副会長
5	南アルプス市立楡形中学校・校長	
6	南アルプス市立白根御勅使中学校・校長	
7	早川町立早川中学校・校長	
8	山梨県立農林高等学校・校長	
9	山梨英和中学校・高等学校・教頭	
10	山梨県立白根高等学校・校長	
11	山梨県立わかば支援学校・校長	

2 経 過

開催月日	内 容
5月26日（月）	今年度の交流計画について
2月6日（金）	今年度の実施報告及びまとめや次年度の方向性について

Ⅲ 学校間における交流及び共同学習（学校間交流）

1 目的

(1) 全体

小学校、中学校、高等学校との交流及び共同学習を通して、

- ①様々な活動を通じて、より豊かな人間性を養い、協調性や社会性を育てる。
- ②交流提携校の児童生徒に障害のある児童生徒への理解や認識を深めるようにする。
- ③互いに仲間としての意識をもち、共に学ぶ楽しさを味わうとともに、好ましい人間関係を育てる。

(2) 小学部

- ①互いの存在を知り合う。
- ②同学年児童とともに活動する中で、楽しく過ごす。
- ③友達を意識し、自分からかかわろうとしたり、かかわりを受け入れようとしたりする気持ちを育む。

(3) 中学部

- ①同世代の生徒との交流及び共同学習を行う中でより豊かな人間性を養う。
- ②同世代の生徒とのかかわりを広げ、共に学ぶ楽しさを味わう。
- ③活動を通して、互いの個性を認め合いながら、人とかかわろうとする気持ちを育てる。

(4) 高等部

- ①互いの存在を知り合い、同世代の生徒の考え方等にふれることで、同じ高校生としての意識を高める。
- ②同世代の生徒との活動や作品交流を通して、互いの理解を深める。
- ② 活動を通して、互いの個性を尊重しながら、人とかかわろうとする気持ちを育てる。

2 提携校

学 部	交流及び共同学習提携校
小学部	南アルプス市立白根源小学校
中学部	南アルプス市立楡形中学校、南アルプス市立白根御勅使中学校、早川町立早川中学校
高等部	山梨県立農林高等学校、山梨英和中学校・高等学校、山梨県立白根高等学校

3 実施状況

学部	時期	提携校	実施学年	指導区分	内 容
小	12月 3日(水)	南アルプス市立白根源小学校	1年	生活	ふれあい遊び・ゲーム等
	9月 22日(月)		2年	生活	学校探検・ゲーム等

	6月25日(水)		3年	生活	発表・ゲーム
	12月18日(木)		4年	生活	発表・ゲーム
	12月19日(金)		5年	生活	ゲーム
	12月5日(金)		6年	生活	ゲーム
中	6月17日(火)	南アルプス市立 楡形中学校	1年	総合的な 学習の時間	校歌、クイズ、ゲーム
	10月23日(木)			総合的な 学習の時間	歌、ダンス、グループト ーク、レクリエーション
	7月1日(火)	南アルプス市立 白根御勅使中学校	2年	総合的な 学習の時間	学校紹介、ゲーム、応援、 ダンス
	12月9日(火)			総合的な 学習の時間	発表、ゲーム
	10月16日(木)	早川町立 早川中学校	3年	総合的な 学習の時間	学校案内、ゲーム、発表
高	6月19日(木) 12月1日(月)	山梨県立 農林高等学校	1年	理科・道徳	田植え 脱穀・おにぎり作り
	6月28日(土) 7月14日(月)	山梨英和中学校・ 高等学校	1～ 3年	美術・ 職業(作業 学習)	作品交流
	10月9日(木) 12月12日(金)		2年	保健体育・ 道徳 音楽・道徳	自己紹介・学校案内・ ゲーム等 パイプオルガン演奏、マ ンドリン部による演奏・ 楽器体験等
	12月15日(月) ～18日(木) 12月19日(金) ～24日(水)	山梨県立 白根高等学校	1～ 3年	美術・ 職業(作業 学習)	作品交流

4 学校間交流の様子

(1) 小学部：白根源小学校との交流

① 1年生

- ・事前学習では、当日見通しをもって取り組めるように日時や内容を確認したり、交流する相手校児童の自己紹介カードを見たりして期待感を高めた。
- ・初めての交流会ということもあり、最初は両校とも緊張した表情の児童も多かったが、活動が進むとともに笑顔が見られるようになっていった。
- ・初めに小グループに分かれて交流する時間をとると、お互いの名前を覚えたり、直接触れ合ったりするなどして、交流を進めることができた。



- ・『はないちもんめ』やバルーンは友達と一緒に活動する楽しさを体験することができたようで、活動中の笑顔が増えていったように感じられた。
- ・お互いの活動を発表する場面では、お互いの発表を真剣に見たり、発表してくれた友達に大きな拍手を送ったりする姿が見られた。

② 2年生

- ・事前学習では、自己紹介カードを交換したり、日時や内容等を確認したりして、期待感をもって当日の交流に繋がるようにした。
- ・はじめの会では、互いの活動（源小：ピアノ『かえるの合唱』、わかば：第2校歌）の発表を見合うのが良かった。お互いに興味をもって見ていた姿が印象的だった。
- ・『もうじゅうがりにいこうよ』は源小で考えてくれた活動で、事前にわかばでも取り組んでいて、大変盛り上がっていた。
- ・はじめの会、終わりの会は両校で分担して行い、それぞれの活躍の場が設けられて良かった。
- ・教室案内では源小の児童が興味をもって質問したり、一緒に遊んだりすることができた。また、わかばの児童も自分の教室をすすんで紹介していて、より距離が縮まった。
- ・昨年度は、初めての交流でなかなか参加できなかった児童も、今年度は主体的に参加する姿があった。また、白根源小学校の児童も本校の児童のペースに合わせたり、優しい声を掛けてくれたりするなど、お互いに成長を感じた交流であった。



③ 3年生

- ・事前学習では、自己紹介カードの交換を行った。また、源小学校の児童が披露する「ソーラン節」について、なじみをもって鑑賞できるよう、ソーラン節について知る機会を設けた。
- ・はじめの会とおわりの会は両校で分担して行い、それぞれの児童に活躍の場を設けることができた。
- ・互いの活動の発表を見合う活動では、源小学校の迫力ある『ソーラン節』に、わかばの児童は大きな興味を示し、終了後には自然と拍手を送る姿が見られた。中には感動し、「自分も踊ってみたい」と気持ちを表す児童もいた。また、本校の「やきゅうたいそう」についても、感想発表の中で「楽しそうだった」「踊ってみたい」といった声が聞かれ、源小学校の児童が興味をもつ様子が見られた。
- ・『なかよくリレー』では、二人一組でつないだフラフープに入り、3チーム対抗でリレーを行った。源小学校の児童が、わかばの児童の実態に合わせて、走る速さを調整しながら関わる姿が見られた。わかばの児童も、友達と関わることを喜び、進んで活動する様子が見られた。「次は〇〇さんと走りたい」と声をかけ合う姿もあり、どのチームも盛り上がっていた。
- ・終了後には教室探検を行った。源小学校の児童は興味をもって質問する姿が見られ、わかばの児童も自分の教室や畑を進んで紹介するなど、主体的に関わることができた。
- ・交流が3年目となり、初めから親しみをもって関わる姿が多く見られ、全体を通して和やかな雰囲気の中で交流を行うことができた。



④ 4年生

- ・事前学習では交流校や日時、内容について学習し、ゲームの練習を行った。また、事前に自己紹介カードを交換し、廊下に掲示したことで、当日への期待感を高めることに繋がった。
- ・感染症の流行のため、直接交流の実施を見送った。動画の交換を行った。

⑤ 5年生

- ・事前学習では、日時や内容について学習したり、ゲームの練習をしたりした。また、事前に自己紹介カードを交換した。事前の学習や準備により、見通しや期待感をもって当日活動することができた。
- ・始めの会、終わりの会は昨年同様に両校で分担して行った。本校の児童は初めて司会を担当し、普段とは異なる集団の中で司会をする経験ができた。
- ・白根源小学校企画の『クリスマスプレゼントリレー』と本校企画の『いっしょに運ぼう』の2つゲームを両校の児童がペアになって行った。ペアの友達の様子を見ながらフラフープをジャンプしたり、布に入れたボールを落とさないように慎重に運んだり、両校児童が協力してゲームを楽しんだ。ゴールに向かう友達に声援を送ったり、布を離してしまった友達に布を手渡したり、児童同士が自然にかかわる様子が見られた。
- ・両校の児童共に最初は緊張している様子であったが、ゲームやダンスを通して互いに打ち解け、あちこちから笑い声が聞こえたり、沢山の笑顔が見られたりするようになり、終始和やかな交流が実施できた。



⑥ 6年生

- ・白根源小学校体育館で実施した。事前学習では、白根源小学校に本校から歩いて行くことを伝え、ストリートビューで道筋を学習した。当日行うレクリエーションの予行練習をすることで、交流への期待感が高まった。
- ・当日は白根源小学校の児童が司会進行をし、『しっぽ取り』と『フルーツバスケット』を行った。どちらのゲームも、本校児童の数だけ白根源小学校の児童と一緒にグループを作って、グループ戦であることを確認しながら活動した。そのためお互いを呼びあったり、ついて行ったりして、仲間を強く意識した活動となった。6年目の交流であり、お互いに知っている顔もあるなど、多くの児童が教師を介さないで積極的に交流していた。
- ・教師が入らずに、全員での集合写真を撮ることもできるようになった。



(2) 中学部

① 1年生：橿形中学校との交流

- ・1学期と2学期にそれぞれ1回ずつ行った。事前学習として、橿形中学校やその周辺について学習し、自己紹介カードのやりとりを行った。橿形中学校と本校の違いや、どんな友達がいるのかを知ることで、交流に向けて期待感を高めることができた。
- ・1回目の交流は、本校の体育館で行った。本校が司会進行を務め、生徒一人ひとりが係を担い、それぞれの役割を果たしながら会を進めた。はじめはお互いに緊張する様子が見られたが、各学校に関するクイズを出し合ったり、グループになって『ボール運びゲーム』に取り組んだりしながら打ち解け、楽しい時間を過ごすことができた。
- ・2回目の交流は橿形中学校の体育館で行い、橿形中学校の生徒が会を進行した。両校で合唱の発表を行い、お互いの合唱に静かに耳を傾けていた。『〇×ゲーム』では、橿形中の学園祭にちなんだクイズに楽しみながら参加をしたり、『出荷準備完了ゲーム』では協力しながら活動したりすることができた。
- ・2回の交流とも、お互いに楽しむ姿が見られ、充実した時間を過ごすことができた。他の学校の様子を知ったり、様々な友達とのかかわり方を学んだりすることができ、貴重な経験となった。



② 2年生：白根御勅使中学校との交流

- ・事前学習として自己紹介カードのやりとりをした。どのような友達がいて、どんなことが好きなのかなどを知ることで、交流への期待感を高めることができた。
- ・1回目は、本校体育館において、本校生徒が主体となって進行をした。生徒一人一人が、自分の役割を果たしながら、交流会を進めていくことができた。学校紹介では、白根御勅使中学校のキャラクターが登場したり、応援歌を披露してくれたり、普段見ることができないパフォーマンスを見ることができ、喜んでいました。『協力ボール運びゲーム』では、3～4人で一組になり、お互いに声をかけたり、ペースを合わせたりしながら、協力してボールを運ぶ姿が見られた。また、本校第二校歌と一緒に踊る様子も見られ、楽しく活動することができた。休憩時間には、生徒同士が笑顔で話をしたり、写真を撮ったりと仲良く過ごす様子も見られた。
- ・2回目は、白根御勅使中学校の体育館で行い、白根御勅使中学校の生徒が主体となって進行をした。各校の発表では、学習発表会で踊ったダンスを披露すると、大きな拍手をもらい、生徒たちも思わず笑みがこぼれていた。白根御勅使中学校の合唱発表では、きれいな歌声に静かに耳を傾けていた。『MIDAIクイズ』では、白根御勅使中学校に関する問題を出してもらい、白根御勅使中学校について知ることができた。『じゃんけん列車』では、じゃんけんをしたり、肩をもってつながったりと、両校の生徒が混ざり合っただけで触れ合う場面が多くあり、楽しく活動することができた。
- ・2回の交流とも、お互いにかかわって楽しむ姿が多く見られた。他の学校のことを知ったり、様々な友達とのかかわり方を学んだりすることができ、お互いの生徒にとって有意義な交流となった。



③ 3年生：早川中学校との交流

- ・早川中学校の全校生徒12名と交流を行った。わかばでレクリエーション内容を提案して決定し、事前に発表やレクリエーションの練習を行って気持ちを高めた。
- ・当日は、本校生徒が『第二校歌』と『修学旅行ソング』を元気に歌い、早川中は合唱で美しいハーモニーの合唱を披露してくれた後、早川町紹介クイズをして本校生徒が真剣に答えを選択して楽しむことができた。
- ・各校混合の2チームに分かれてリレーをしたりマイムマイム、タタロチカのフォークダンスを行ったりした。リレーでは声援の中、白熱した試合展開で盛り上がり、わかばの生徒が走る際に早川中の生徒が伴走したり、「がんばって！」と応援したり励ましたりして温かい気持ちでいっぱい試合展開となった。
- ・休憩時には、チームの生徒同士、積極的に話をする姿も見られ、「一緒に写真を撮ろう」と声を掛け合い、写真を撮ったり、皆でサンパを踊ったりして笑顔がたくさん見られた。最後は「また会おう！」と言葉を交わし、花道を作り拍手で早川中を見送り交流会が終了した。互いに積極的に交流し合う内容の濃い交流ができた。



(3) 高等部

① 1年生：農林高等学校との交流

- ・1回目は農林高等学校へ行き、田植えの体験をした。初めての場所、初めての出会いということもあり、最初は緊張している様子が見られた。田んぼまでの道での会話や田植えの活動を通じ、徐々に緊張も解け、会話を弾ませる様子が見られた。初めて田んぼに入り田植えをする生徒もいる中、ペアとなった農林高等学校の生徒に隣でサポートしてもらい、植え方や泥の中での歩き方を教わりながら田植えをすることができた。
- ・2回目は、本校で行った。5月に植え、獲れた米や農林高校で栽培した野菜を持ってきもらい、調理活動、会食を行った。久しぶりの再会だったが、すぐに打ち解けることができていた。調理活動では農林高等学校生徒と、本校生徒がペアになり、協力しておにぎり、焼きウインナー、味噌汁、フルーチェを作ることができた。協力してできた料理の味は格別で何度もおかわりをする生徒もいた。別れ際にはお互いに笑顔で手を振り合う姿が見られ、「また会いたい」と言葉を交わす様子も見られた。



② 2年生：山梨英和中学校・高等学校との交流

- ・ 作品交流では、本校高等部の美術部や職業（作業学習）で制作した作品を英和中学校・高等学校の学園祭に展示した。英和中学校・高等学校の生徒や来場した方々に観てもらった。また、英和高校美術部の作品を本校で展示し、高等部で鑑賞を行った。興味や関心をもって鑑賞する様子がみられた。鑑賞後には、感想やメッセージの交換を行った。
- ・ 1回目の交流は、英和中学校・高等学校の生徒会とマンドリン部の生徒と本校で行った。クラス単位のグループで、学校案内や風船リレー、『できっこないをやらなくちゃ』のダンスを行った。クラス単位のグループで活動を行うことで、互いを意識し合える場面をみる事ができた。
- ・ 2回目の交流は、英和中学校・高等学校で交流を行った。パイプオルガン演奏や讃美歌、マンドリン部による演奏や楽器体験、『学園天国』の合唱を行った。チャペルでのパイプオルガン演奏では、普段なかなか触れることがない音色を聴く貴重な体験をしたり、マンドリン部の楽しい演奏やマンドリンに初めて触れる体験をしたりと大変有意義な交流を行うことができた。合同合唱では『学園天国』を皆で楽しく歌うことができた。昼食は、グループ毎輪になって食べた。会話を楽しんだり、質問をしたりする様子がみられた。交流後には、メッセージの交換を行った。



③ 1年生～3年生：白根高等学校との作品交流

- ・ 12月15日～18日に、本校美術室において、白根高校の美術部、写真部、書道部の作品展示を行った。「色がきれい」「どうやってこんなに大きく、細かく書くのかな」「この字の書き方が好き」「この風景、僕の家と近いかも」などの感想が聞かれた。短時間ではあったが、同世代の生徒の作品に興味をもって鑑賞し、思ったことや感じたことをコメントにして渡すことができ、お互いに頑張っていることを知る貴重な機会となった。
- ・ 12月22日～24日に白根高校において本校高等部の美術部作品や作業班で作った製品を展示した。白根高校の三者懇談の期間に設定してもらったことで、白根高校生徒やその保護者の方にも見てもらうことができ、感想を書いてもらうこともできた。本校の活動の様子を知ってもらえる良い機会となった。



5 成果と課題

(1) 小学部：白根源小学校との交流

① 1年生

- ・事前に顔写真入りの自己紹介カードを交換して両校の廊下に掲示していたことで、実際に会って交流することに期待する児童も多かった。
- ・小グループでの活動もあり、お互いに親しみをもって名前を覚えたり触れ合ったりすることができてよかった。
- ・新しい友達の中でウキウキ笑顔を見せていた児童、普段男子に中において見せないような関わり方を源小の女子に対して見せていた女子児童もいて、よい刺激になった。
- ・両校の児童がお互いを認め合いながら、源小の児童がわかばの児童の動きに合わせて自分の動きを変えてくれたり、「一緒にやろう」と声をかけてくれたりする姿が見られた。
- ・地域交流からの流れを生かしてよかった。単発にならないように設定したい。
- ・今年度の交流はお互いを知るという点において、成果があった。今後、源小の児童と協力して取り組めるような活動（ゲームなど）にも徐々に取り組んでいけるとよい。また共同学習としてのねらいを含めて活動を考えていきたいと考える。

② 2年生

- ・友達と楽しく活動することができた。
- ・『もうじゅうがりゲーム』でグループになり、ペアを組む活動をしたことで、グループ内の多くの友達とかかわることができた。
- ・教室案内でわかばの友達の生活を知ることができより距離が縮まった。
- ・はじめの会やおわりの会で子供たちがそれぞれの力を発揮し、滞りなく進行することができた。
- ・子供の感想（ワークシート）からは、充実した様子やわかばの友達の優しさに感化されている様子がみられた。
- ・来年度も、お互いの学校で取り組んでいる内容を中心に直接交流できるとよい。
- ・集合や移動など細かな部分での打ち合わせがあまりできていなかった。

③ 3年生

- ・はじめと終わりの会をそれぞれ分担することで、互いに活躍の場を設けることができ、相手への関心を高めることができた。
- ・源小では運動会終了後間もない時期の交流であったため、迫力のあるソーラン節を見せていただくことができた。
- ・グループ活動を取り入れたことで、互いの名前を呼び合う姿が見られ、児童同士の距離感が縮まった。

④ 4年生

- ・事前に自己紹介カードを作成し、交換することでお互いに交流への期待感が高まった。
- ・感染症の流行のため、直接交流を実施することができなかった。延期やリモートでの実施等検討したが、急な実施するのが難しかった。事前に検討しておけばよかった。

⑤ 5年生

- ・ゲーム内容を両校でそれぞれ考えたことで、交流校の児童のことを考える良い機会になった。
- ・会の進行やゲームの企画を分担したことで、お互いに主体的な活動となった。
- ・白根源小の児童が積極的に関わってくれ良かった。本校児童がペアの友達の様子を見て動いたり、白根源小の児童が促しや励ましの声を掛けてくれたり、年1回の交流であるがお互いの成長を感じる交流ができた。
- ・役割を分担して、会の進行をしたり、ゲームの内容を考えたりすることができ、お互いに主体的な活動となった。
- ・活動後にグループの友達と話ができる時間があって良かったが、ゲーム前にアイスブレイクの時間や簡単な自己紹介があるとさらに良かった。
- ・交流校の友達のことをより知るために、事前にゲームでペアになる友達や白根源小が考えたゲームの詳細な内容がわかると良かった。

⑥ 6年生

- ・6年目の交流であり、多くの児童が教師を介さないで積極的に交流していた。来年度は中学生になるため交流はできないことを伝えるととても残念そうだった。6年間同じ友達と交流できたことがとてもよかった。
- ・6年生になり、白根源小学校まで徒歩で往復したことで、その距離の近さを実感したり、白根源小学校や体育館の大きさにびっくりしたりと、新しい経験ができた。
- ・徒歩で往復したことはよかったが、その分交流時間が少なくなってしまうという意見があった。白根源小までバスで行くことで交流時間を増やせるという良い点もあるため、各学年の実態を踏まえて毎年検討するのがよい。

⑦ 小学部全体として

- ・年度初めに両校の教職員が集まり、全体会を行ってから、学年毎に分かれて打ち合わせを実施した。前年度の反省を含め、お互いの学校の児童の様子や実態を知ることができた。また、学校行事等の日程を確認しながら日程の調整を行ったり、大まかな活動内容を話し合ったりすることができ、学校間交流を円滑に進めることに繋げることができた。
- ・低学年は、本校の授業で取り組んでいる内容を取り入れることで、見通しをもって落ち着いて活動することができ、児童同士が触れ合える内容を設定したことで、白根源小の児童を意識したり、かかわりを自然と受け入れたりする様子が見られた。
- ・中学年、高学年は、お互いにゲーム内容を考えることで、学校間交流の当日だけではなく、事前学習としてお互いに両校の児童を意識しながら準備をすることができた。4年生は感染症の流行により、動画の交換で間接的な交流を行った。子どもたちがより実感できるような交流を実施していけるとよい。
- ・今年度も本校6年生が白根源小学校に徒歩で向かい、白根源小学校の体育館で実施した。他校の児童がどのような場所で学習しているのかを知ることができた。児童にとって、新鮮で充実した時間を過ごすことができた。
- ・お互いの学校の児童がお互いに意識を高められるよう、教職員間での打ち合わせを密に行いながら、今年度の成果や課題を生かしながら、来年度も両校の児童が共に学び合える有意義な学校間交流が実施できると良い。

(2) 中学部

① 1年生：橿形中学校との交流

- ・交流会の事前学習を通して、期待感を高めて取り組むことができた。他校の同じ学年の友達とかかわる貴重な経験となり、お互いに充実した時間を過ごすことができた。
- ・1回目の交流では本校が運営を担当し、司会やゲームのルール説明など、一人ひとりが役割を果たし達成感も味わうことができた。
- ・2回目の交流では、両校とも合唱を発表し、橿形中の合唱を本校の生徒が聞き入っている様子が見られた。
- ・今後も様々な活動を取り入れながら、それぞれが人とかかわり方を学び、生活に生かしていけるとよい。

② 2年生：白根御勅使中学校との交流

- ・事前学習を通して、見通しや期待感をもって取り組むことができた。
- ・1回目の交流では、本校が主体となって運営をした。学校紹介ビデオの撮影や司会、ゲームのルール説明、会場の飾り付けなど、一人一人が自分の役割を果たしたり、友達と協力したりして会を進めることができ、生徒たちは達成感を得ることもできた。
- ・2回目の交流では、1回目の交流のことを覚えていて、お互いの名前を呼び合う姿も見られ、生徒同士の距離感が縮まった。
- ・2回の交流とも設定された活動時間だけではなく、休み時間に話をしたり一緒に写真を撮ったりして、かかわる姿が見られた。他校の同じ学年の友達とかかわる貴重な経験となり、お互いに有意義な時間を過ごすことができた。

② 3年生：早川中学校との交流

- ・事前学習を通して、ねらいを理解し見通しをもって活動に参加することができた。また、リレーやフォークダンス、発表等の準備を事前に行い、期待感を高めることができた。
- ・始めの会や終わりの会をそれぞれの学校で担当したり、本校が活動内容を提案し、早川中がクイズを行ったりすることで役割分担をし、各々の役割を果たすことができた。
- ・リレーでは本校、早川中混合で2グループをチーム分けして行い、各チームが協力してバトンをつないでゴールすることで協力して活動することができた。
- ・フォークダンスは本校生徒が輪になった所に早川中の生徒が分かれて入ることで、生徒同士が関わり合いながら楽しむことができた。
- ・休憩時間を多くとることで、ゆとりができて生徒同士が声を掛け合っ一緒に写真を撮ったり話をしたりして楽しむことができた。生徒たちが盛り上がり、自然とダンスが始まる様子も見られた。

(3) 高等部

① 1年生：農林高等学校との交流

- ・ 2回の交流を経て、生徒同士の関係が深まる場面があったり、お互いの学校を知ることができたりと良い学びの機会になった。
- ・ 1回目は田植え、2回目は植えて育ったお米を使った調理活動ということで、生徒達も意欲的に参加することができた。
- ・ 農林高校の生徒が積極的に動いてくれ、かかわりのきっかけとなりよかった。
- ・ 農林高校の生徒とかかわれた生徒とかかわりが難しかった生徒がいたので活動内容や支援方法を工夫する必要がある。
- ・ 1回目は6月、2回目は12月に実施した。6月は暑さが厳しく雨の可能性も高くなるという点、12月は感染症流行の関係で受験を控えている生徒の参加ができなくなるという点を踏まえ、来年度の実施時期を今年度よりも前倒しで実施する。

② 2年生：山梨英和中学校・高等学校との交流

- ・ 作品交流では、両校で作品展示を行ったことで、互いの作品を鑑賞する良い機会をもつことができた。感想やメッセージを交換することで、これから直接交流をすることへの意識や期待感をもつことができた。
- ・ 1回目の直接交流では、クラスを単位としたグループで、自己紹介、学校案内、ゲームに取り組んだ。小グループで活動することで、相手を意識することや仲間意識をもってゲームに取り組むことができた。ダンスでは、これまで取り組んできたダンスを英和中学校・高等学校の生徒にも練習してきてもらい楽しく踊ることができた。互いの距離が近くなったことで、2回目の交流への期待感をもつことができた。
- ・ 2回目の直接交流では、チャペルでのパイプオルガン演奏や讃美歌の合唱と本校の生徒が普段なかなか聞けない音色や雰囲気味わう貴重な機会をもつことができた。マンドリン部の演奏では、知っているアニメの歌やクリスマスの歌を楽しみながら聴くことができた。また、マンドリンの体験では、楽器に触れたり、教えてもらいながら音を出したりと初めての体験をすることができた。合同合唱の『学園天国』では、思い切り楽しみながら歌う様子がみられた。お弁当は、1回目のクラス毎のグループで食べ、互いの学校の様子などを話しながら食べることができた。普段なかなか触れない経験をし、興味や関心を深めたり、1回目と同じグループで活動することで互いの理解を深めたりすることができた。

③ 白根高等学校との交流（作品交流）

- ・ 間接的な交流ではあるが、毎年続けているので両校ともにお互いの作品を楽しみにしている生徒も多い。
- ・ 同世代の生徒の作品を鑑賞し、お互いの学校に興味関心をもったり、お互いの存在を知ることができたりする貴重な機会となった。
- ・ 鑑賞した感想をお互いに伝え合ったり、製作の様子が分かるものを掲示したりしたが、よりお互いを意識できるよう、動画や写真等で制作および鑑賞している様子がわかるよう工夫ができると良い。

IV 地域における交流活動（地域交流）

1 目的

(1) 全体

本校児童生徒と地域社会の人々とのふれあいを通し、互いを理解し、共に学ぶ。

(2) 小学部

①地域の人々とのかかわりを通して生活経験を広げる。

②地域の人々と一緒に楽しく活動する。

(3) 中学部

地域の人々とのふれあいを通して互いを理解し、伝統や文化などにふれる。

(4) 高等部

①活動を通して、地域への関心を高める。

②地域の方々の考え方にふれ、互いの理解を深める。

(5) 寄宿舍

①舎生の実態を考慮した内容や方法を検討し、相互理解を深められるようにする。

②地域社会の人々を尊重する気持ちを育て、社会参加への意識を高める。

2 交流先

学 部	地域交流先
小学部	南アルプス市社会福祉協議会の関係団体
中学部	南アルプス市社会福祉協議会の関係団体
高等部	南アルプス市社会福祉協議会の関係団体
寄宿舍	山梨県立白根高等学校奉仕部 源地区自治会連合会

3 実施状況

学部	時期	地域交流先	実施学年	指導区分	内 容
小	10月3日(金)	南アルプス市社会福祉協議会の関係団体	1	生活	わらべ歌遊び
	12月19日(金)		2		わらべ歌遊び
中	9月25日(木)	南アルプス市社会福祉協議会の関係団体	3	総合的な学習の時間	ゆる体操
高	12月5日(金)	南アルプス市社会福祉協議会の関係団体	3	社会	災害防災・茶話会
寄宿	6月4日(水)	白根高校奉仕部	舎生	余暇活動	レク・歓談
	10月15日(水)			余暇活動	部活見学・調理他・歓談
	11月17日(月)	源地区自治会連合会		余暇活動	寄宿舍案内調理・歓談

4 地域交流の様子

(1) 小学部：わらべうたの会「ゆうなの木」

- ・地域のボランティア団体の方、わらべうたの会「ゆうなの木」さんに来ていただき、1年生2年生それぞれが交流をした。いろいろな手遊びや布を使ったわらべうたを教えてもらった。どの児童も地域の方と、笑顔で楽しく活動することができた。



(2) 中学部：南アルプス市社会福祉協議会

- ・講師の河野さんをお迎えし、「ゆる体操」に取り組んだ。事前に生徒の様子を伝えると、河野さんが生徒の実態に合った内容を考えてきてくださった。
- ・事前学習では、河野さんを歓迎する横断幕を作ったり、河野さんの掛け声や動きの手本の動画に合わせて練習したりすることで、見通しを持つことができた。
- ・当日は、河野さんが生徒の反応を見ながら活動を展開してくださった。生徒が河野さんの手本を真似して筋肉を緩めて『ゆる体操』をしたり、童謡を歌いながら体をさすって『歌ゆる』をしたりすることができた。
- ・休憩時には生徒が積極的に河野さんと話をしたり、サンバを踊ったりして笑顔で楽しく交流することができた。お礼に河野さんに『第二校歌』と『修学旅行ソング』を元気に歌うことができた。
- ・河野さんの気さくな人柄もあり、生徒が積極的に関わることができて生徒から「また来て欲しい」「楽しかった」という声が多く聞かれた。



(3) 高等部：南アルプス市社会福祉協議会

- ・八田地区災害防災ボランティアの方3名が来校し、防災紙芝居や避難所に関するグループディスカッション、防災グッズの紹介などの内容で交流した。防災紙芝居では、災害時に身を守る基本的な内容をクイズも入れながら楽しく確認することができた。
- ・避難所のグループディスカッションでは、「ペットがいたら?」「ベッドが足りなかったら?」「自分が落ち着いて過ごすためには?」と考えられる様々な問題について地域の方と話し合いながら、自分事として熱心に考え、発表していた。
- ・防災グッズ紹介では、普段見ることができない、仮設トイレの体験をしたり、100円ショップで揃えられるグッズを知ったりすることができ、「こんなものがあるんだ」、「揃えてみたい」などの声が聞かれた。交流を通して、防災についても、地域の方についても知ることができた。



(4) 寄宿舎

①白根高等学校奉仕部

- ・年2回の交流を実施した。白根高校奉仕部の部員と本校寄宿舎の水曜日泊の舎生10名と交流をした。第1回は白根高3年生24名が本校に来て行われた。第2回は寄宿舎舎生10名が白根高校に出向き、1、2年生28名と引退と言われていた3年生も含め40名程の白根高生が迎えてくれて行われた。
- ・第1回は、本校交流会館を会場に、寄宿舎職員と舎生で活動計画を立てた。グループに分かれ、「自己紹介」をしながら顔合わせを行った。次に舎生の希望で『鬼ごっこ』と『サッカー』をした。昨年も参加した白根高の3年生だったのではじめから親しみを込めて舎生に接してくれ、和やかな雰囲気にもまれた。白根高生が「一緒に行こう」と手を差し伸べ積極的に声をかけてくれたり、舎生もそれに笑顔で応えたりと生徒同士が主体的にかかわり合い、最後の『おやつ、歓談』まで楽しい時間を共にした。
- ・第2回は、白根高校で行う初めての試みだった。舎生は初めての場所で緊張するかと思ったが、白根高生が温かく迎えてくれたので舎生はとても嬉しそうだった。『部活動の見学』では、ウエイトリフティング部やバスケット部、チアリーダー部などを紹介してくれた。舎生はとても興味深く見学していた。また、『カップケーキ作り』をして一緒に食べたり『クイズ大会』をしたり盛沢山の内容だった。充実した楽しい交流になり、「楽しかった」「来年も行きたい」という声が多かった。



②源地区自治会連合会

- ・6名の源地区自治会連合会の方々が本校に来校し、地区の方の提案ですいとん作りをした。寄宿舎に来舎するのが初めての方がほとんどだったので、舎内を見学した後、舎生の生活の様子を動画で知っていただいてから活動に入った。
- ・グループに分かれ自己紹介を行った。舎生は事前に用意した自己紹介カードを持って緊張した面持ちだった。
- ・すいとん作りが始まると、粉をこねる難しい作業も源地区の方が舎生の手を優しく取り一緒にこねてくれたり、練った粉や具材を一緒に鍋に入れたり、共同作業をしていくうちに和やかな雰囲気に変化した。温かいすいとんを「美味しい」と言いながら皆で食べた。舎生のカラオケは大いに盛り上がった。
- ・交流は大変温かな雰囲気の中終わり、舎生も楽しく活動することができた。来年の交流も楽しみだという感想が寄せられ、有意義な交流となった。



5 成果と課題

(1) 小学部：南アルプス市社会福祉協議会

- ・昨年度に引き続き、1、2年生ともに『ゆうなの木』の会の方を招いて、交流会を行った。ボランティア団体の方が本校の児童の様子をよく知ってくれており、最初から児童の気持ちをつかんで楽しい内容で進めてくださった。今後も南アルプス市社会福祉協議会の方と連携しながら、児童の実態や学習内容に即した内容で地域の方々と交流できると良い。

(2) 中学部：南アルプス市社会福祉協議会

- ・講師に南アルプス市の河野さんをお迎えして交流を実施した。生徒たちの様子をよく理解してくださり、生徒もすぐに慣れて活動をすることができた。今後も南アルプス市社会福祉協議会の方と連携しながら、生徒の実態や学習内容に即した内容で地域の方々と交流できると良い。

(3) 高等部：南アルプス市社会福祉協議会

- ・講師に八田地区防災災害ボランティアの3名に来ていただいた。1度のみの交流なので、話を聞くだけでなく「お互いに話す」活動を取り入れた。ボランティアの方々は、昨年に続いた交流だったため、生徒の様子やかかわり方にご理解があり、短い時間だったが、生徒と沢山話し合う場面が見られた。ボランティアの方々からの感想もよいものだったため、継続して交流が行えると良い。

(4) 寄宿舎

①白根高校奉仕部

- ・第1回は事前に「自己紹介カード」を用意し、それを見える形で自己紹介をしたので互いにわかりやすかった。舎生が希望したレクはとても楽しむことができた。交流が年2回あることや2年目、3年目とかかわっている白根高生徒もたくさんいたことから舎生と白根高生は毎回交流を楽しんでいた。積み重ねることが大切である。
- ・今年度2回目は白根高校に出向くという初めての試みを行った。自分たちと違う学校生活を垣間見ることのできる貴重な体験ができた。寄宿舎の舎生にとっても生徒同士で楽しい時間を共有し、主体的にかかわり合えること、同年代の友達の学校環境や学校生活を知ることとはとても大切な学びである。来年以降も同じような取り組みをしたいという意見が多かった。

②源地区自治会連合会

- ・当日は、源地区の方々がとても上手に優しく舎生にかかわってくださり、舎生も緊張した面持ちから次第に穏やかな笑顔に変わった。明るい雰囲気の中、楽しい交流になり、共同作業を進めていく中で互いのことを理解し合うこともできた。
- ・今後はより社会参加への意識を高められるように、寄宿舎の行事に源地区の方が参加する、逆に地域の行事に寄宿舎生が参加するなど交流活動がより身近な活動を通して行えるような形にしていくことも検討しながら、地域の方と触れ合う貴重な交流を今後も続けていきたい。

V 居住地の学校等における交流及び共同学習（居住地校交流）

1 目的

- (1) 居住する地域の同年代の児童生徒と共に学び、好ましい人間関係を築く。
- (2) 交流及び共同学習を通して、地域の児童生徒やその保護者、教職員の本校児童生徒への理解が深まるようにする。
- (3) 将来居住する地域の一員として豊かに生活していくための基礎をつくる。

2 実施児童・生徒

学部・学年	交流及び共同学習先校名	回数	実施内容
小学部1年	南アルプス市立 白根東小	1	7月に実施。特別活動の授業に参加した。初めての交流のため、見通しがもてるまで不安を感じている様子が見られた。じゃんけん列車の活動では、カードを使ってじゃんけんをしたり、教師や保護者と一緒に友達の後ろを列に沿って歩いたりすることができた。友達が盛り上がる様子を見て、嬉しそうに笑顔を浮かべていた。活動の最後には、全員とタッチをすることができ、緊張もほぐれた様子が見られ、活動を楽しむことができた。

小学部 1 年	北杜市立泉小学校	2	10月に実施。特別活動の授業と休み時間の活動に参加した。初めての交流であったが、同じ保育園出身の友達が多数いて、積極的に挨拶や声をかけてもらい、とても嬉しそうな表情を浮かべていた。授業では、自己紹介やじゃんけん列車を行い、意欲的に参加することができ、活動や友達とのかかわりを楽しむことができた。終了後も、友達との思い出を話し、充実した交流となった。1月に2回目を実施予定。
小学部 2 年	北杜市立明野小学校	2	10月に実施。音楽の授業に参加した。はじめは校内に入ることに抵抗を示していたが、時間の経過とともに受け入れ、授業の途中から参加することができた。音楽に合わせて、一緒に楽器を演奏することができた。昨年度在籍していた学校ということもあり相手校児童の交流に対する期待感が高く、温かい雰囲気の中で交流を行うことができた。1月に2回目を実施予定。
小学部 2 年	南アルプス市立白根源小学校	2	7月、12月に2回実施。1回目は、音楽、休み時間、支援学級での活動に参加した。前籍校ということもあり、周りの児童がとてもあたたかく受け入れ、積極的にかかわってくれていた。最初教室に入るのをためらう様子が見られたが、自分のできる範囲で音楽やボール投げの活動を楽しみ、交流の終わりには別れを惜しむ様子も見られた。2回目は、図工、休み時間、音楽の活動に参加した。図工で箱や卵パック等を使用して作った楽器を使い、音楽の授業で演奏した。1回目よりも緊張感が少なく、友だちの輪の中で、友だちと一緒に演奏を楽しむことができた。
小学部 2 年	南アルプス市立白根源小学校	2	7月、12月に2回実施。1回目は、音楽、休み時間、支援学級での活動に参加した。初めての交流で教室に入るのをためらう様子が見られたが、白根源小学校の児童がとても温かく受け入れてくれ、積極的にかかわってくれた。母と一緒に活動に参加したことで安心して交流することができ、友達と手を合わせて授業に参加する様子も見られた。2回目は、図工で、缶を高く積んだドラムのような楽器を作製し、音楽でその楽器を演奏した。1回目と同じように緊張した様子を見られたものの、母と一緒に演奏を楽しんだ。休み時間には友達が声を掛けてくれて、一緒に遊ぶ様子があり、互いに交流を深めることができた。

小学部 2 年	南アルプス市立 橿形西小学校	1	10月に実施。中休みに一緒に遊んだり、音楽、体育の授業「音楽や体を使った遊びをしよう」に参加したりした。友達に声を掛けてもらおうと両親から離れ、遊具遊びやじゃんけん列車等をする事ができた。終わりの会では、指名されると前に出て、簡単な言葉で感想を言うこともできた。
小学部 2 年	南アルプス市立 豊小学校	2	12月に実施。最初は緊張している様子も見られたが、保育所で一緒だった友達が声をかけてくれると嬉しそうにハグをし、笑顔が増えていった。体操やダンスをまねしながら楽しみ、お友達から「上手!」とほめられるとニコニコしていた。中休みには一緒に走り回り、交流を深める姿が見られた。お別れときは名残惜しそうで、最後はみんなで歌を歌った。1月に2回目を実施予定。
小学部 2 年	南アルプス市立 白根百田小学校	1	12月に実施。音楽の授業と休み時間に参加した。音楽の授業では、器楽『子犬のビンゴ』や身体表現『貨物列車』『ロンドン橋』などを行った。自己紹介から交流校の多くの児童に声をかけられ、終始和やかな雰囲気の中で授業に参加することが出来た。また、休み時間には、交流校の友だちと鬼ごっこをして楽しむ様子が見られた。
小学部 2 年	中央市立田富北小学校	2	10月に実施。中休みに友だちに誘われて学校探検、その後音楽の授業に参加した。好きな活動なこともあり、意欲的に参加ができた。ダンスでは、本児なりに友だちの振り付けを真似したり声を出したりして参加することができた。終了後も友だちと手をつないだことを母親にジェスチャーで伝えるなど、楽しかった様子が伺えた。2月に2回目を実施予定。
小学部 5 年	昭和町立押原小学校	1	12月に実施。図工の授業で、水を使った造形遊びに参加した。自ら進んで活動することはなかったものの、友達の様子を見たり、教室内を歩き回ったりするなど、普段と異なる環境でも落ち着いて過ごすことができた。交流校の児童が自然に本児へ様々な形で関わり、本児もそれに対してお辞儀をして反応することができた。
中学部 3 年	昭和町立押原中学校	1	9月に実施。体育に参加し、相手校の体育祭に近いこともあり、ソーラン節に取り組んだ。曲調が速く、曲に合わせて踊ることは難しかったが、同じ小学校の友達が近寄ってきてくれたり、相手校の教師が師範を見せてくれた踊りを真似したり、楽しそうな様子だった。

3 成果と課題

- ・今年度は11件の居住地校交流を実施することができた。小学校入学前に所属していた保育園や前籍校からの関係性の継続や兄弟の関係や地域で生活するために子どもたちのことを知ってほしいとする保護者の希望から始められた。
- ・新規の児童も多く、初めての場所や友だち、教員に慣れるのに時間がかかる児童生徒が多かったが、交流校の児童や教員のかかわりによって、徐々に打ちとける様子が見られた。
- ・交流校の教科の授業に入ることの難しさはあり、学年が上がるにつれて、その傾向は強くなった。音楽や図工、体育など本校の児童生徒の実態に合った授業で交流を行ったり、休み時間や学期末のレクリエーション的な内容での交流を行ったりと本校の児童の実態に配慮してもらったことも多かった。交流の内容や参加方法などについて両校で打ち合わせを丁寧に行っていき、両校にとって充実した時間となるようにしていきたい。
- ・交流の時間は短時間になるため、実態に応じて、直接交流の他にも、手紙や写真を交換するなど工夫し、お互いを理解することに繋げていけると良い。

I 学校概要

1 学校の概要

学校名	わかば支援学校ふじかわ分校
所在地	〒400-0601 南巨摩郡富士川町鯉沢5673-12
電話番号	0556-27-0067
校長名	金丸 学
交流及び共同学習主任名	上田 知己

2 学校教育目標

たくましい力 ゆたかな心

II 交流及び共同学習推進会議の経過

1 交流及び共同学習推進会議構成員

No.	所 属・職 名	備 考
1	富士川町教育委員会 教育長	
2	富士川町社会福祉協議会 事務局長	
3	富士川町中部区 区長	
4	下部地区民生委員児童福祉部 会長	
5	鯉沢奉仕活動の会 会長	
6	市川三郷町赤十字奉仕団 代表	
7	社会福祉法人くにみ会 ゆあーずあんどゆうず 施設長	
8	富士川町立富士川中学校 校長	
9	富士川町立鯉沢小学校 校長	
10	山梨県立わかば支援学校 校長	
11	山梨県立わかば支援学校ふじかわ分校 副校長	

2 経過

開催時期	内 容
5月27日(火)	委嘱状の交付、運営要綱、役員選出、事業計画、意見交換
2月13日(金) (予定)	本年度の交流及び共同学習についての報告、反省と課題、来年度に向けて

Ⅲ 学校間における交流及び共同学習（学校間交流）

1 目的

- (1) 様々な活動を通して、より豊かな人間性を養い、協調性や社会性を育てる。
- (2) 互いに仲間としての意識をもち、共に学ぶ楽しさを味わうとともにお互いを尊重しあう態度を養う。

2 提携校

学部	交流及び共同学習提携校
小学部	富士川町立鯉沢小学校
中学部	富士川町立富士川中学校

3 実施状況

学部	時期	提携校	実施学年	指導区分	内容
小	6月20日(金)	鯉沢小学校 (5学年)	全学年	特別活動	ゲーム
	11月26日(水)			特別活動	各校の発表 ゲーム
中	11月19日(水)	富士川中学校 (1学年)	全学年	体育	ボッチャ

4 学校間交流の様子

(1) 小学部

鯉沢小学校5年生17名と2回、直接交流を行った。直接交流に先立ち、お互いに自己紹介カードを交換してそれぞれ掲示した。

1回目の交流は、ふじかわ分枝に鯉沢小児童が来校し、分枝児童にとってなじみのある題材を設定して交流を行った。はじめの会では、互いに緊張していたものの、「各校の紹介」で鯉沢小は富士川町の歌「明日を生きる」「アンパンマンマーチ」、分枝は校歌



を披露した。その後、3つの班に分かれて自己紹介をし、班で活動を行った。一つ目の活動「バルーンで遊ぼう」は、大きなバルーンを使って2つのゲームを行った。①かみなりゲームは、「か、か、かみなり」の合図でみんなでバルーンの中にもぐるゲーム。みんなでバルーンの中にもぐると、ちょっとした秘密基地のようで、分枝の児童も鯉沢小の児童もキャッキヤと声を上げて楽しんでいた。次のゲーム「ふわふわ風船キャッチ」は、送風機で一気に放出

された色とりどりの風船を、ホール壁に付けられた大きな袋に色ごとに入れた。鯉沢小の児童は風船を取りに走ったり、風船を持ったままどこに入れようかと迷っている分枝の児童を誘導したりと、楽しみながら交流することができた。最後に全員で分枝の校舎内を案内し、自分の教室を嬉しそうに紹介する分枝の児童や、教室の雰囲気など興味深く見ている鯉沢小の児童の様子が見られた。

2回目は分校児童が鰐沢小学校へ行き、鰐沢小学校の児童が企画したゲームを行った。「各校の発表」では、鰐沢小学校の児童は分校の児童を楽しませようと、自分たちで考えた1発ギャグを披露してくれた。ギャグのセンスが良すぎて、分校の児童がぼかんとしてしまう場面もあったが、楽しい場の雰囲気を感じ、互いに和やかな時間が流れた。分校の児童は、分校まつりで取り組んだ



「はぶじゃぶじゃん」の歌とダンスを披露した。その後、鰐沢小学校の児童が企画、運営をし内容を工夫してくれた、「風船バレー」「うまとうし（鬼ごっこ）」「しっぽ取りゲーム」の3つのゲームを行った。「風船バレー」では、背の小さな1年生も風船に触れるように配慮してくれたり、みんなが楽しめる工夫してくれた。「うまとうし」は、少しルールが複雑で、分校の児童にとっては難しい面もあったが、鬼ごっこの楽しい雰囲気を味わいながら、広い体育館を走り回って楽しむことができた。2回目の交流ということもあって、1回目よりも打ち解けている雰囲気だった。



(2) 中学部

富士川中学校1年1組25人と交流を行った。鰐沢中学校と増穂中学校が合併をして富士川中学校になり、はじめての交流となった。諸事情で、今年度は2学期に1回行うことになった。



11月19日、ふじかわ分校の生徒10名が富士川中学校へ行き、体育館で4チームに分かれてボッチャを行った。



最初の自己紹介では、富士川中学校の生徒がリーダーとなり、「最近のマイブーム」、「やめられないこと」などのお題を出して、お互いに話しやすい雰囲気を作ってくれた。自己紹介の時間も20分間とたっぷりあり、和気あいあいとした雰囲気だったので、分校の

生徒の中には、「自己紹介が楽しかった」という感想をもった生徒もいた。

ボッチャは、公式ルールではなく、分校の体育で取り組んだ的当てのルールで行った。各チームが四方に分かれて陣をとり、そこから同じ的を目指して玉を投げ合った。分校の生徒は何回か体育で取り組んでいたもので、高得点をとる生徒が何人もいて、富士川中学校の生徒から歓声をもらい、誇らしそうな表情をしていたのが印象的だった。うまくいってもいなくてもお互いに励ましながらゲームを進める雰囲気も良かった。

最後は、富士川中学校の生徒が出口でアーチを作って見送ってくれて、最後まで笑顔あふれる交流となった。



5 成果と課題

(1) 小学部

毎年1回目の交流は6月中旬から下旬ごろ行っている。年度初めでさまざまな学校行事が行われることや児童の実態、さらに5月には林間学校を実施しているためである。近年、気温の上昇は著しく、分校では6月下旬ごろには多目的ホールや外での活動が制限されている状況にある。今年度も、分校での1回目の交流は熱中症が心配され、予定している活動は実施できるか、教室を変更するべきか、内容を変更すべきか、当日まで判断に悩んだ。教室を変更する場合、全員で活動するには手狭な教室しかなく、折角の交流がグループで分かれてしまう懸念があった。また、内容の変更は、分校の児童にとって難しいことが予測された。今回に関しては、前半は多目的ホールで全員で行い、後半はグループに分かれて冷房の効く環境で行うこととなった。幸い、熱中症や体調不良者は出ず、最後まで楽しく活動することができた。来年度以降、可能な限り1週でも早めに実施し、安全に活動できるようになることが望ましい。

2回目の交流は鯉沢小で行った。準備から当日まで5年生が企画運営をし、分校の児童たちと一緒にどう楽しむかを考えたことがよく伝わる内容だった。「風船バレー」は、ラリーをすることが難しい分校の児童に対し、励ましの言葉をかける姿や、ルールに関係なく一緒に楽しもうとする鯉沢小の児童の姿が素晴らしかった。一方で「馬と牛」は、口頭で「馬」か「牛」かを聞き取り逃げるというルールの難しさから、ゲームに参加できない分校の児童もいた。しかし、事前にイラストを用意していただくようお願いしたところ、大きなプラカードに動物が表示されており、大変有難かった。全体を通し、分校の児童と一緒に楽しみたい、喜んでほしいという思いが伝わり、分校の児童も自然にかかわることができていた。帰り際まで手を振り合ったり、冗談を言い合ったりと、1回目よりさらに交流が深まったことが伺えた。

(2) 中学部

今年度、富士川中学校が合併したばかりということで、1学期の交流が実施できなかった。富士川中学校での検討事案として、①だれが交流するのか②教育課程上の位置づけが挙げられた。①だれがという問題では、4月の話し合いでは、部活動または委員会で行うなどの案も出たが、富士川中学校の部活動の時間とふじかわ分校の教育課程の実施時間が合わないということで難しかった。②教育課程上の位置づけというところでは、交流及び共同学習を総合的な学習の時間に位置付けたいという話だったが、4月の段階で、1学年の総合的な学習の時間に計画されていないということで、今年度は実施が難しいという話だった。1クラスのみなど、部分的な実施になると、他クラスとの学習の進度の差が出てしまうということで、なかなか難しいということだった。小規模校であるふじかわ分校の生徒にとって、交流及び共同学習は、同じ年代の生徒と集団で関われる貴重な機会なので、1回でもよいから実施できないかと願い、1年1組と2学期に実施できることになった。

1回の実施になってしまったが、今回の交流では、お互いに得意なことを認め合ったり、楽しい時間を共有したりすることで、人と人との自然な関わりを学ぶことができた。ふじかわ分校の生徒だけでなく富士川中学校の生徒からも、「またボッチャを一緒にしたい」という声がたくさん聞こえたことが、この交流及び共同学習を実施する意味を物語っていると感じた。是非、来年は教育課程上にしっかりと位置付けて、有意義な学びの場となることを願っている。

IV 地域における交流活動（地域交流）

1 目的

- (1) 地域の方々に障害のある児童生徒の様子や本校の教育活動に理解を深めてもらう。
- (2) 地域の方々との交流活動を通じ、児童生徒が積極的に社会と関わろうとする力を育む。
- (3) 児童生徒の生活経験を広め地域の方々との豊かな関係を築く。

2 交流先

学部	地域交流先
小学部	市川三郷町赤十字奉仕団、下部地区民生委員児童福祉部
中学部	鯉沢奉仕活動の会、下部地区民生委員児童福祉部

3 実施状況

学部	月 日	地域交流先	実施学年	教科等区分	実施内容
小	9月10日(水)	市川三郷町赤十字奉仕団	全学年	特別活動	調理活動
小 中	10月17日(金)	下部地区民生委員児童福祉部	全学年	遊びの指導 (小) 総合的な学習 の時間(中)	「昔の遊び」 竹馬、お手玉、紙 鉄砲、紙飛行機、 ブンブンこま等
	11月8日(土)	提携3団体	全学年	特別活動	分校まつり参観
中	12月4日(木)	鯉沢奉仕活動の会	全学年	総合的な学習 の時間(中)	郷土料理 「みみ」づくり

4 地域交流の様子

(1) 市川三郷町赤十字奉仕団との交流



今年度、市川三郷町赤十字奉仕団のみなさんと初めての交流となった。5名の奉仕団の方に来校していただき、わらべ歌遊びとかき氷を一緒に行った。わらべ歌「なべなべそこぬけ」では、奉仕団の方と分校の児童がペアになったり、最後は一つの大きな輪になったりして楽しんだ。ペアで



の活動は、一緒に遊びたいと積極的にかかわろうとする児童に対し、優しく応えていただいた。全員で輪になると、なかなか上手く返せないことが面白く、大変盛り上がった。もう一つのわらべ歌「おちゃをのみに」では、奉仕団の方と分校の児童がペアになり、お茶を淹れる役と飲む役に分かれ、歌を歌いながら終始和やかな雰囲気にもまれた。「なべなべそこぬけ」では参加が難しかった児童もお茶を渡したり、受け取ったりすることができた。

後半は、高学年、低学年に分かれかき氷づくりや会食を楽しんだ。奉仕団の方全員にかき氷を振る舞う児童もおり、もてなすことの喜びや、奉仕団の方からの「ありがとう」という言葉に照れながらも嬉しそうな様子が見られた。最後には別れを惜しみ、玄関で奉仕団の方に抱き着く児童もおり、大変温かい交流となった。



(2) 下部地区民生委員児童福祉部との交流

6人に来校いただき、昨年同様に手遊び歌や昔の遊びを一緒に楽しんだ。手遊び歌は昔ながらのわらべ歌ではなく、分校小学部の児童が遊びの指導でなじみのある「からすかずのこ」を行った。中学部の生徒、下部地区民生委員の方々ともに楽しく触れ合うことができた。



分校のホールに、下部地区民生委員の方々が用意してくださった竹馬、紙飛行機、紙鉄砲、お手玉、ブンブンごま、けん玉、竹とんぼのコーナーを用意した。分校の児童生徒は思い思いのコーナーに行き、民生委員の方に遊び方を教えていただきながら竹とんぼを飛ばしたり、委員の方の出す紙鉄砲の音に驚きつつ自分も同じような大きな音を出したいと何度もチャレンジしたり、また、竹馬の補助をしていただいたりして良い表情で楽しんでいた。

最後に毎年恒例の紙飛行機飛ばし大会が始まると、子どもたちは思い思いの紙飛行機を手に、遠くへ飛ばそうと夢中で飛ばしていた。最後に、小学部高学年児童と中学部の生徒が

図工や美術で作った作品をプリントしたポストカードを皆さんにプレゼントし、大変喜んでいただいた。



(3) 鯉沢奉仕活動の会

鯉沢奉仕活動の会の方7名と中学部生徒10名で、鯉沢の十谷地区に伝わる郷土料理の「みみ」づくりを行った。今年は、昨年来ていただいたメンバーに加え、北海道から帰省中のメンバーのお孫さんも飛び入り参加をしてくれ、ぐっと平均年齢が若返り、生徒たちも大喜びだった。生徒たちは、総合的な学習の時間で郷土について学習をしていて、「みみ」の作り方も練習して臨んだ。



粉から練ったり、綿棒で生地を伸ばす作業にも意欲的に取り組み、奉仕活動の皆様から「上手だね」とたくさんほめていただいて嬉しそうな子どもたちの姿が見られた。薪で炊いたかまどで煮たみみはとてもおいしくて、何杯もおかわりする生徒が続出だ



った。たくさんできたので、小学部の児童や全校の職員にも振る舞って、みんなから「おいしかったよ」「ありがとう」と声をかけられて、お腹も心も満足な生徒たちだった。

5 成果と課題

(1) 市川三郷町赤十字奉仕団との交流

わらべ歌「なべなべそこぬけ」をペアで行った場面で、腕を激しく振って楽しむ児童がいた。幸い、お互いに怪我はなかったが、児童の突発的な行動で怪我をしてしまう場合もあるかもしれない。わらべ歌遊びを行う際には、座ってできる活動が良いだろう。また、奉仕団の方々が日々活動されている内容を取り入れても良いのではないか。分校でも、避難訓練の実施や授業で防災について学んでいる。防災をテーマに、奉仕団の方にレクチャーしていただいたり、一緒に体験したりしながら活動することも検討していただけると有難い。

(2) 下部地区民生委員児童福祉部との交流

会を開催するにあたり、身延町役場の方が連絡調整や当日の送迎を行ってくれたため、スムーズな交流が行えた。

紙鉄砲やブンブン駒、紙飛行機など事前に作ってきてくれてありがたかった。普段はYoutube などデジタルな環境にいる子どもたちも、毎年この交流を楽しみにしていて、竹トンボを夢中で飛ばしたり、紙鉄砲を一生懸命に鳴らしたり遊び方を工夫している姿に感動を覚える。やはり、大人と一緒に遊びながら、大人の偉大さやぬくもりを感じたり、手指、足など体の感覚を使って遊びながら工夫していくことの大切さを実感した。このような交流が長く続くことを願っている。

(3) 鯉沢奉仕活動の会との交流

昨年同様に郷土料理「みみ」の調理を行った。総合的な学習の時間で郷土について学習をしてきているので、実際に富士川地区の郷土料理を地域の方々と一緒に作る体験はとても貴重で有意義な時間だと感じる。会のメンバーの高齢化に伴って、みみづくりの継続もだんだん難しくなってくるという話もでてきているが、歴史や伝統は、誰かが引き継いでいかないと途切れてしまうので、継続できる方法を共に考えながら、できるだけ残していきたいと考えている。

V 居住地の学校等における交流及び共同学習（居住地校交流）

1 目的

- (1) 居住している地域の小学校・中学校の児童生徒とともに学び、理解を深める。
- (2) 居住している地域の方々への理解や交流及び共同学習を促すきっかけとしていく。
- (3) 学校卒業後の地域での生活を円滑にすすめられるように地域の人間関係を継続し、深める。

2 実施状況

学部・学年	交流及び共同学習先校名	回数	実施（活動）内容
小学部・4年	市川三郷町立市川小学校	2	1回目 自立活動
			2回目 自立活動
小学部・3年	市川三郷町立六郷小学校	2	1回目 図工
			2回目

3 成果と課題

(1) 小学部

① 3年生

今年度初めての居住地校交流となった。兄が通っている小学校ということもあって、本児のことを知っている児童もいたので、本児も集団に入りやすい環境だった。一緒に図工の授業を行った。作る活動が好きなので、本児も自分の得意なことを友だちに披露したり認めてもらったりして、集団への所属感や活動への達成感などを感じられた様子だった。交流後は、地域の行事や兄の運動会時に友だちから声をかけてもらうことが増えて、地域で生きる本児にとってもこの居住地校交流が大きな意味をもったのではないかと感じられた。

来年も、居住地校交流を継続していきたいという願いも出ているが、一点だけ課題が挙げられた。交流先の学級に特別な配慮（肢体不自由児）が必要な児童が在籍しており、頸椎や体の保護が必要になっている。本児が人との関わりの中で、身体的な接触（ハグやタックル等）を行うことが多いので、その児童との関わり方には特別注意が必要になる。今後交流を行う際は、支援者数を増やしたり、活動内容を着席して行う内容にしたり等、配慮が必要になってくる。

② 4年生

今年4年目となる。昨年度の状況を踏まえて、今年も支援学級と交流を行った。本児の状況をくみ取りながら、無理のない範囲で行えるよう事前に保護者と相手校の担任とで話し合った。

1回目は、支援学級でフルーツの模型を並べたり、図書室で本を見たり、校内散策をしたり、体を動かす活動をしたりした。

2回目は、教室内でブロック遊びをした後、外でボール投げやブランコなどの遊具遊びをするなど、活発に活動した。

今年度は、恥ずかしさを強く感じるようになり、いつもと違う場所や人に対して、戸惑う気持ちが出てきた。緊張の中での交流であったが、毎回帰り際には、「楽しかった。また来たい。」という発言があり、本児なりに交流を楽しんでいる様子であった。

I 学校概要

1 学校の概要

学校名	山梨県立やまびこ支援学校
所在地	〒409-0618 山梨県大月市猿橋町桂台三丁目 31-1
電話番号	0554-23-1943
校長名	小嶋 加津美
交流及び共同学習主任名	山口 清美

2 学校教育目標

自立と社会参加を目指すために個に応じた指導の充実を図り、家庭や地域と連携して主体性をもって生きる心豊かな人間を育てる。

II 交流及び共同学習推進会議の経過

1 交流及び共同学習推進会議構成員

No.	所 属・職 名	備 考
1	大月市立猿橋小学校・校長	委員長
2	大月市立猿橋中学校・校長	
3	山梨県立上野原高等学校・校長	
4	山梨県立都留高等学校・校長	
5	大月市デイサービスセンター「やまゆり」・施設長	
6	大月市保健活動推進委員会「オオツキッチン」・会長	
7	大月商店街協同組合・理事長	
8	山梨県立やまびこ支援学校・校長	

2 年間計画

開催時期	内 容
5月26日	推進会議委員の委嘱、委員長の選出、R7年度の実施計画について
1月30日	R7年度交流及び共同学習の実施報告、R8年度の見通しについて

III 学校間における交流及び共同学習（学校間交流）

1 目 的

交流校と本校の児童生徒が共同学習やふれあい活動を通して互いに理解し合い、人間関係の形成や社会参加等の力を身に付ける。

(1) 小学部

直接あるいは間接的な交流を通して、相手のことに気付いたり意識して関わったりする経験をする。

(2) 中学部

直接あるいは間接的に学びあう活動を通して、自己表現をしたり、相手を受け入れたりして人間関係の幅を広げる。

(3) 高等部

直接あるいは間接的な学びあう活動の中で、相手との関わり方を考えたり、相手を認めたりして、望ましい社会性を身に付ける。

2 基本方針

- ・各学部で年度当初に学校間交流についての意義や目的等について共通確認を行い、教育課程上の位置づけ等について検討を行う。
- ・児童生徒の実態や発達段階に合わせて、活動形態、活動内容等を工夫する。
- ・相手先と連絡を密に取り合い、双方のねらい等について、共有する。
- ・単発な活動となるのではなく、継続的な取り組みとなるように、事前学習や事後学習も含めて一体的、継続な活動となるように計画する。
- ・共同学習という側面を考え、各教科等の指導計画に基づいて実施を検討し、特別活動のみの計画とならないようにする。
- ・交流終了後は、児童生徒の様子について、個別のねらいに即した適切な評価を行う。

3 提携校

学 部	交流及び共同学習提携校
小学部	大月市立猿橋小学校
中学部	大月市立猿橋中学校
高等部	山梨県立上野原高等学校 都留高等学校

4 実施計画

学部	時期	提携校	実施学年	指導区分	内容
小	5月	猿橋小学校	全学年	国語	プロフィール交換
	6月	猿橋小学校	全学年	特別活動 生活科	歌の発表会、グループごとのゲーム大会、造形活動など
	10月	猿橋小学校	全学年	特別活動 生活科	ペットボトルボウリング、的あて、学校探検、制作活動など
中	6月	猿橋中学校	全学年	特別活動	ボール運び ペットボトルボウリング
	11月	猿橋中学校	全学年	美術 自立活動	コラージュ
高	6月	上野原高等学校	全学年	職業Ⅱ 自立活動	各作業班にて活動
	11月	上野原高等学校	全学年	職業Ⅱ 自立活動	各作業班にて活動
	1月	都留高等学校	全学年	美術	制作、相手校での作品展示、本校での作品展示、鑑賞 感想文の作成、交換

5 学校間交流の様子

(1) 小学部【猿橋小学校（3年生）との交流及び共同学習】

小学部は、特別活動の授業で大月市立猿橋小学校の3年生の児童30名と2回の交流を行った。

1回目の交流は本校にて実施し、前半は全体の活動として、やまびこ支援学校は校歌を、猿橋小学校3年生は歌やリコーダーの演奏、詩の朗読を発表し合った。高学年の児童を中心に、進行や感想発表等の役割を分担しながら皆で協力して会を進めることができた。後半はグループ別の活動を実施した。1、2年生①グループでは、ペットボトルボウリングとボール運び、1、2年生②グループはあじさいの制作活動を、3、4年生グループは、人形運び、5、6年生グループは、『絆の輪』をテーマに創作活動に取り組んだ。どのグループも初めのうちは緊張している様子が見られたが、交流を深めていくうちに、緊張が解け、自然に会話が弾んでいった。

2回目の交流は、猿橋小学校で行われた。猿橋小学校に到着するとすぐに体育館に移動して始めの会が行われた。進行は猿橋小学校の児童が行い、グループ活動では、4グループに分かれ、体育館でペットボトルボウリング、的当て、図工室ではハロウィンの飾り作りなどを行いながら学校探検を行った。

猿橋小学校の児童は、「〇〇さんこっちだよ。」などと積極的に声を掛けてくれ、本校の児童も嬉しそうな表情を見せていた。1年生グループは、初めての場所に緊張した表情を見せる児童もいたが、ゲームを一緒に行ううちにだんだんと緊張が解け、笑顔を見せていた。2年生グループは、やまびこ支援学校の児童が自分から猿橋小学校の児童に積極的に声を掛けて楽しくおしゃべりしながら関わることができた。3、4年生グループは、同学年ということもあり、猿橋小学校の児童と対等に会話をしている場面が見られ、距離を縮めて活動することができた。5、6年生グループは、過去に5回、6回と猿橋小学校に訪問していることもあり、学校探検では目的の場所に迷わず到着して各教室のミッションをクリアしていくことができた。

(2) 中学部【猿橋中学校かけはし・美化委員会との交流及び共同学習】

1回目の交流は、猿橋中学校へ訪問し、猿橋中学校かけはし・美化委員会が計画して交流会を行った。ペアでのボール運びやペットボトルボウリングを行った。ペアの友達を意識し、協力しながら活動することができた。交流後は、お礼の手紙をやり取りすることで、活動の振り返りと次回の交流への期待感に繋げることができた。また、2回目の実施に向けて本校の教員が相手校に出向いて打ち合わせを行い、助言を行った。

2回目の交流は本校にて実施し、美術／自立活動の授業での交流を行った。グループごとに雑誌の切り抜きや写真を使ってコラージュを作成した。それぞれのグループで、色彩のバランスや構成に工夫を凝らし、他校の生徒の視点を取り入れることで、独創的で多様な作品が完成した。活動を通して、生徒たちは「繋がり合う楽しさ」を感じ、笑顔で協力しながら作品を仕上げる様子が印象的であった。

1回目、2回目とも言語によるやり取りだけでなく、ジェスチャーや指差し等の言語以外のコミュニケーション手段を積極的に活用し、相互理解を深める工夫が随所に見られた。

(3) 高等部

【上野原高等学校との交流及び共同学習】

上野原高等学校で福祉の授業を選択している3年生27名が来校し、職業Ⅱ（重複障害学級は自立活動）における直接交流を計2回実施した。3つの作業班（工芸、サービス、農園）とA組（自立活動）にそれぞれ分かれて、活動を行った。

1回目の交流では、A組は、学級園で育てているマリーゴールドの花を摘む活動を行った。工芸班では紙製品作りで取り組んでいるポチ袋の製作、サービス班では、次のカフェオープンに向けての近隣住民へのチラシ配り、農園班では、畑の畝作りや野菜の袋詰めなどの活動を行



った。いずれのグループにおいても日頃から取り組んでいる活動に取り組むことで、作業に必要な手順を伝えたり必要なやり取りを介したりして会話が生まれ、少しずつ打ち解ける様子が見られた。

2回目の交流では、メンバー構成を1回目から変更せずに行うようにした。A組は、1回目の交流会で集めたマリーゴールドの花を使って、絞り染めを行った。協力しながら1枚のハンカチを絞り模様をつけて染め物を製作することができた。工芸班は、陶芸製品作りの釉薬がけの工程をペアの友達と協力しながら行った。サービス班では、カフェオープンに向けた店内清掃や昇り旗の組み立て、農園班は、大根の浅漬け作りに取り組んだ。再会を喜んだり、1回目にも増して会話がはずんだりする様子が見られた。

交流前に、国語の時間を使ってプロフィール表を作成し、交換し合った。当日は、本校の各作業班で作った製品と相手校の生徒が授業の中で制作したプレゼントを贈り合ったり、交流後には、国語の時間にお礼の手紙を書いて送ったりした。

【都留高等学校との交流及び共同学習】

都留高等学校との作品交流を実施予定である。都留高等学校文化局発表（令和8年1月20日、21日）において本校高等部生徒が美術の授業で制作した作品を2日間展示し、感想用紙と提出ボックスを用意して、作品を見た感想を記入してもらおう。また、本校においても都留高等学校美術部生徒の作品を4日間展示する（令和8年1月26日～29日）。美術の授業の時間に鑑賞して感想を書き、お互いの作品を見合った感想を相互に送り合う。（写真は昨年度の様子）



6 成果と課題

(1) 小学部

事前にプロフィール表を交換し、廊下に掲示することで、自分のペアの友達を意識し、期待感をもって臨むことができた。第1回目の始めの会では、高学年の児童に司会の役割を担当させることで交流会での目的にもある人間関係や社会参加の力を身に付ける事にも繋がったと感じた。学年ごとのグループ活動にすることで、少人数でじっくり活動に取り組む猿橋小の児童と近い距離で交流することができた。1回目の交流の反省を受け、2回目の交流では活動量の精選を行うことで、時間に余裕が生まれ、ゆっくりと関わることができ、より充実した交流を実施することができた。

交流相手が3年生と決まっているので、1年間だけの交流となっている。できれば、同じ学年同士で交流できると6年間交流できるが、相手校の負担を考えると難しい。手紙などの間接交流で継続的に交流できると良い。

(2) 中学部

事前に自己紹介カードの作成、交換を行うことで、交流に見通しや期待感をもたせることができた。1回目の交流では、体育的活動で本校の生徒にもわかりやすい内容だったこと、ペアで協力する活動を取り入れたことで、自信をもって楽しみながら取り組むことができた。自然と関わりが生まれ、初めは緊張していた生徒達も、活動を通じて笑顔が見られるようになった。

2回目の交流は、始めの会や終わりの会の司会などの役割を本校の生徒が担当することで、主体的に会に参加することができた。

両校の生徒が互いの特性を理解しながら協働する姿が見られ、本校の生徒に合わせて活動を進めるなど、配慮ある行動が多く見られた。

活動前に簡単な顔合わせやコミュニケーション練習を行うことで、さらにスムーズな交流が期待される。今後は、言語以外のコミュニケーション手段のバリエーションを増やし、より多様な表現方法を取り入れる工夫ができると良い。

(3) 高等部

職業Ⅱや自立活動（理科・社会）の授業での交流会を実施した。本校生徒が日頃から取り組んでいる活動内容であったことから、作業を通して自然と会話が生まれ、作業手順を自ら伝えるなど自信をもって関わる事ができた生徒も多くいた。重複障害の生徒も、普段とは異なる環境ではあったが、授業で体験している活動であったので落ち着いて活動する様子が見られ、相手を意識しながら関わろうとする様子が見られた。また、休憩時間や見送りまでの時間に、同年代の高校生らしい会話を交わしたり談笑したりする姿も見られ、設定した時間以外の自然な関わりも重要であることを昨年同様に再確認できた。

1回目の交流では、オンラインで全体での始めの会を実施したが、2回目の交流では、各班で始めの会を行い、活動時間の確保を図った。終わりの会は、参集することで、それぞれの班での活動で感じたことや思ったことを発表し合い、活動内容や感想を共有することができた。

相手校に合わせて本校の日課を変更することで、双方に無理のない実施日の設定ができた。今後も、相手校の都合や本校の他の行事や授業とのバランスを考えながら、計画的に実施し、事前学習や事後学習を充実させ、相互の生徒が主体的に活動できるようにしていきたい。プロフィール表や手紙の交換は、ゆとりをもった日程で行い、生徒達が交流相手や活動内容に見通しや期待感をもって当日に臨めるように準備していきたい。

都留高等学校との間接交流については、例年、都留高等学校の生徒からは作品に対する感想の他、自分たちの創作意欲を駆り立てられたといった言葉も寄せられている。作品を通して相手の思いや考えについて理解しようと鑑賞する様子が見られ、お互いの理解を深めるきっかけとなっている。

IV 地域における交流活動（地域交流）

1 目的

地域の方々と関わることを通して、経験を広げ、地域社会の中で主体的に生きていく力を身に付ける。

(1) 小学部

地域の方々と場を共有し、活動を楽しみながら様々な人とふれあう経験をする。

(2) 中学部

地域の方々と共に活動し、関わりを深めていくことを通して、対人関係の幅を広げる。

(3) 高等部

地域の方々と共に活動し、地域社会への理解を深めていくことを通して、地域社会の一員という気持ちをもつ。

2 基本方針

- ・各学部で年度当初に地域交流についての意義や目的等について共通確認を行い、教育課程上の位置づけ等について検討を行う。
- ・地域の方と連携を大切にし、連絡を密に取り合いながら協力を得ていくようにする。
- ・交流相手先については、学校、地域、児童生徒の実態に応じて総務部、各学部で相談の上決定する。
- ・学校周辺の地域社会とのつながりを意識し、積極的に情報発信を行う。
- ・単発の活動となるのではなく、継続的な取り組みとなるように各教科等の指導計画に基づいて実施を検討する。
- ・交流相手先に応じて、活動内容、集団の大きさやねらい等を検討する。

3 交流先

学部	地域交流先
小学部	図書館ボランティア 絵本とおはなしの会ぐりとぐら
中学部	猿橋地区合同ふれあいいいききサロン
高等部	大月商店街協同組合 大月市デイサービスセンター「やまゆり」 大月市保健活動推進委員会（オオツキッチン）
寄宿舎	山梨県立都留高等学校

4 実施計画

学部	時期	地域交流先	実施学年	指導区分	内容
小	11月	ぐりとぐら	小学部	特別活動	読み聞かせ
中	2月	猿橋地区合同ふれあいいいききサロン	中学部	総合的な学習の時間	遊びを学ぶ (昔からある遊び)
高	7月	大月商店街協同組合	1年	総合的な探究の時間	買い物学習、商店街でのインタビュー活動など
	12月	大月市保健活動推進委員会	3年	総合的な探究の時間	食育講話、調理実習など
	年間を通して	大月市デイサービスセンター「やまゆり」	1～3年サービス班	職業Ⅱ	カフェでの接客を通しての交流
寄	7月	山梨県立都留高等学校	寄宿舎生	余暇活動	プロフィール交換 (直接交流は感染症が流行していたため中止。)
	10月				キーワード探しゲーム、じゃんけん列車、校内見学、メッセージ交換

5 地域交流の様子

(1) 小学部

11月21日(金) やきいも集会

ここ数年交流先の選定が課題となっていたが、図書館ボランティアの「ぐりとぐら」と新たに交流を行い、やきいも集会の中で読み聞かせを実施した。また、やきいもの準備では、各班に入ってもらい子供たちと一緒に準備を行った。読み聞かせでは手遊び2曲、大型絵本2冊、パネルシアター1つを実施し、子供たちも楽しそうに聞いていた。短い時間だったが地域の方と触れ合うことができた。また、地域の方に本校の児童のことを知っていただく良い機会となった。



(2) 中学部

2月9日(月) に実施予定

本校の学校運営協議会委員である猿橋公民館の館長さんにご紹介いただき、猿橋地区合同ふれあいいいききサロンの方々と新たに交流を実施することとなった。グループに分かれて一緒に活動することで、昔からある遊びを知ったり、学んだりする。遊びの内容は、けん玉、紙でっぽう、福笑い、だるまおとしの予定。地域の方と関わることで「挨拶」「会話」「協力」などの社会的スキルを実践的に学ぶ場になり、丁寧な言葉遣いが求められるため、コミュニケーションの幅を広げることができると考えている。

(3) 高等部

①大月商店街

7月3日(木)、総合的な探究の時間の学習として「大月商店街」との交流及び共同学習を行った。事前学習でお店の情報を調べたりインタビュー内容を考えたりした。当日は、お店を訪問しインタビューを行った。行きは路線バス、帰りは電車を利用することで、交流時間を確保することができた。また、始めの会、終わりの会を大月商店協同組合で実施し、理事長を始め組合の方々にもご参加いただいた。



インタビューや買い物を通して、商店街の方々と触れ合うことができ、販売の工夫や地域の様子などを知ることができた。

②デイサービスセンターやまゆり

一昨年は施設を訪問して利用者さんと直接交流を行った。宮谷校舎の時代には歩いて交流に行ける距離であったが、本校の移転に伴い距離が離れ、移動手段とスクールバスの駐車場の確保が難しくなり、直接的な交流が困難となった。そこで、昨年度はリモートでの間接交流を実施した。ポッチャやクイズを行ったが、職員や教員を介してのやり取りが多くなり、リモートでの間接交流の難しさを感じる結果となった。そこで、今年度は、本校高等部「職業Ⅱ」の学習において、サービス班が営業している「カフェベル」を利用していただくことで、本校高等部生徒とやまゆりの利用者さんとの交流を行うこととした。しかし、実際に利用者さんを連れてカフェを利用することには日程的な難しさがあり、

12月末現在での実施はできていない。3学期に3回の営業日があるので、実施ができるかどうか相手先と調整中である。

③オオツキッチン

12月9日(火)に、大月市保健活動推進員8名と大月市子育て健康課の職員1名が来校し、総合的な探究の時間の授業を通して高等部3年の生徒14名が交流を行った。まず、保健活動推進員による食育講話が行われ、「朝食の大切さ」や「野菜摂取について」などの話を聞いた。卒業後の社会人の生活に必要な知識として、メモを取りながら聞く生徒もいた。その後は、調理実習を行い、4班に分かれて「ピザトースト」と「たまごスープ」作りを実施した。パンにピザソースを塗って、野菜やソーセージ、チーズなどをのせて焼いたり、片栗粉を溶いた鶏がらスープに溶き卵を入れたりしながら二品を作ることができた。保健活動推進員のアドバイスを受けながら、具材を切ったり卵を割ったりすることができた。楽しい雰囲気の中で会話をしながら調理実習をすることができた。



(4) 寄宿舎

昨年度同様に1回目の交流を行う前にプロフィール交換を行い、お互いの生徒のを知る機会を作った。今年度は都留高校の中で新たに参加する1年生もいるということで、寄宿舎生は届いたプロフィールを見るなり、交流を楽しみにしている様子を感じられた。

1回目の交流は残念ながら感染症の流行により中止となった。

2回目は本校にて交流を行った。ここ最近恒例となってきた各々が用意したハロウィンの衣装を身にまとい、季節を感じながら和やかな雰囲気の中で交流を行った。宝箱に入ったお題の書かれたカードを見つけ、地域やお互いの学校にちなんだクイズに正解し、暗号となるキーワードを当てるゲームや都留高校生が考えてくれたじゃんけん列車などのゲームをしながら親睦を深めた。その後、都留高校生に向けてやまびこの校内を案内し、雑談を交えながらお互いの学校の様子や違いなどを学ぶ機会を作り、有意義な時間となった。



交流後には楽しかったことや思い出に残ったことなどお互いの生徒が感想を書き、メッセージを交換した。後日ボランティア同好会と生徒会の皆さんからメッセージが届くと嬉しそうに読んでおり、楽しかった思い出を振り返っていた。

6 成果と課題

(1) 小学部

読み聞かせでは、季節ややきいもに関する本の読み聞かせがもう少しあると良かったとの意見もあったが、子供たちが楽しそうに聞いている様子が見られた。やきいもの準備を一緒に行うことで地域の方々と直接触れ合うことができた。

交流内容を検討し、もう少し意図的に関われるような交流内容を検討していく。

(2) 中学部

2月9日（月）に実施予定。

(3) 高等部

地域で活躍する方々や施設等について知ったり、本校生徒の様子や教育活動の様子を地域の方々に知っていただいたりする良い機会になった。地域の方々も好意的に受け入れてくださっているので、次年度以降も継続していけるとよい。

校舎桂台移転前から長く交流してきたやまゆりとの交流を継続するために、やまゆりの利用者さんが本校のカフェを利用したの直接交流を計画したが、まだ実現できていない。年度末に向けて実施可能かどうか、交流先と一緒に検討していく。

(4) 寄宿舎

ハロウィンの時期に合わせて交流を行ったことで、季節を感じながらお互いの生徒同士が楽しく交流することができた。

本校の寄宿舎生は初対面の人と話すことや文字を書くことが苦手な舎生もいる中、積極的に関わる姿が見られたり、都留高校の生徒も寄宿舎生の実態に合わせてメッセージの書き方やゲームを考えたり、配慮したりする姿が見られお互いを意識した関わり方を学べたことで、より深い関係性を作ることができた。

今回交流に参加した都留高校の多くの生徒が本校に来校するのが初めての経験の中で、自分達の学校とどう違うのか気付いたり、将来の職業選択を考えたりする機会となった。

課題としては、年に2回という限られた回数の中で相手校への移動の時間もあり活動時間があまりとれないことが挙げられる。また、来年度は寄宿舎生の人数や実態を考慮する中で、どのような活動をしていくことがお互いの生徒達にとって良いのか早めに検討し、方向性を決めていけると良い。

V 居住地の学校等における交流及び共同学習（居住地校交流）

1 目的

居住する地域の同年代の児童生徒と共に学び、相互理解を深める。

居住する地域の一員として、将来豊かに生活していくための望ましい人間関係の基礎を築く。

2 実施状況

学部・学年	交流及び共同学習先校名	回数	実施（活動）内容
小学部・2年	都留市立谷村第一小学校	3	1回目：体育（運動会へ向けての練習へ参加） 2回目：体育（マット、ドクイ） 3回目：図工予定
小学部・2年	上野原市立上野原西小学校	3	1回目：自立活動（輪投げゲーム）、生活（椅子取りゲーム） 2回目：図工（新聞となかよし） 3回目：1月予定給食有

小学部・4年	大月市立鳥沢小学校	2	1回目：音楽（身体表現）特別活動（レクリエーション） 2回目：音楽的内容予定
小学部・4年	大月市立七保小学校	3	1回目：体育（宝さがし、ボッチャ）、図工（つなぎ絵） 1回目：外国語（クリスマスをしたのしもう）、体育（ボーリング） 3回目：2月予定
小学部・5年	都留市立禾生第二小学校	2	1回目：図工（紙粘土） 2回目：家庭科予定
小学部・6年	都留市立東桂小学校	3	1回目：図工（制作活動）、体育（着衣泳） 2回目：特別活動（親子運動会） 3回目：家庭科（調理実習お弁当づくり）
中学部・3年	大月市立猿橋中学校	3	1回目：特別活動（給食、学園祭の準備）国語（文をつくる） 2回目：国語（書道） 3回目：特別活動（3年生送る会への参加）予定

3 成果と課題

本年度は、新規参加児童3名、継続参加児童生徒4名が交流を実施した。新規参加の3名は、以前通っていた学校での交流であり、知っている子どもがいることから、比較的安心した様子が見られた。継続参加の児童生徒は、3年以上継続している者が多く、相手校の児童生徒と積極的に関わる姿が見られた。交流活動の中では、2回目以降の参加時に「久しぶりの再会」を喜ぶ様子があり、子どもたちは嬉しそうな表情を見せていた。また、「一緒に」という気持ちが強く表れ、たくさんの友達と活動する中で、挨拶や「ありがとう」を伝えることができた児童もいた。初回は緊張している様子もあったが、すぐに打ち解け、落ち着いて活動することができた。こうした積み重ねにより、子どもたちの成長を感じることができた。

課題としては、学年が上がるにつれて、同じ活動を継続できるか不安がある点が挙げられる。今後は、活動内容の工夫や学年に応じた役割の設定など、継続的な交流を支える仕組み作りが必要である。

I 学校概要

1 学校の概要

学校名	富士見支援学校
所在地	甲府市富士見1丁目1-1
電話番号	055-252-3133
校長名	雨宮 靖子
交流及び共同学習主任名	青木 昌子

2 学校教育目標

児童生徒の病状等に配慮し、健康の回復を図りながら、義務教育課程における学習空白を補完する。そのため、基礎的・基本的な学習内容等の着実な定着を図るとともに、安全で安心な楽しい学校生活の中で豊かな心や自立心を育み、社会の中で人と関わりながらよりよく生きていくための「生きる力」を育む。

II 交流及び共同学習推進会議の経過

本校の児童生徒の実態から、現在のところ交流および共同学習推進会議は実施していない。

III 学校間における交流および共同学習

本校の児童生徒の実態から、現在のところ学校間交流は実施していない。

IV 地域における交流活動（地域交流）

本校の児童生徒の実態から、現在のところ地域交流は実施していない。

V 居住地の学校等における交流および共同学習（居住地校交流）

本校の児童生徒の実態から、現在のところ居住地校交流は実施していない。

本校では、居住地交流に近い取り組みとして、前籍校へ復帰する段階にある児童生徒について計画的に行う「試験登校」がある。試験登校は、前籍校の児童生徒と学ぶ場を共有する中で、相互理解を深め、復籍後の学校生活を円滑に送ることができるようにするための取組になっている。本年度は、児童生徒の実態から試験登校も実施していない。

I 学校概要**1 学校の概要**

学校名	山梨県立富士見支援学校旭分校
所在地	〒407-0046 韮崎市旭町上條南割3314-13
電話番号	0551-22-7144
校長名	雨宮 靖子
交流及び共同学習主任名	安田 恒

2 学校教育目標

児童生徒の病状等に配慮し、健康の回復を図りながら、義務教育課程における学習空白を補完する。そのため、基礎的・基本的な学習内容等の着実な定着を図るとともに、安全で安心な楽しい学校生活の中で豊かな心や自立心を育み、社会の中で人と関わりながらよりよく生きていくための「生きる力」を育む。

II 交流及び共同学習推進会議の経過

※当校の児童生徒の実態から、現在のところ学校間交流は実施していない。

III 地域における交流活動（地域交流）

※当校の児童生徒の実態から、現在のところ地域交流は実施していない。

IV 居住地の学校等における交流及び共同学習（居住地校交流）

当校の児童生徒の実態から、現在のところ居住地校交流は実施していない。

当校では、居住地校交流に近い取り組みとして、前籍校へ復帰する段階にある児童生徒について計画的に行う「試験登校」がある。試験登校は、前籍校の児童生徒と学ぶ場を共有する中で、相互理解を深め、復籍後の学校生活を円滑に送ることができるようにするための取り組みである。

I 学校概要

1 学校の概要

学校名	山梨県立ふじざくら支援学校
所在地	〒401-0301 南都留郡富士河口湖町船津6663-1
電話番号	0555-72-5161
校長名	金丸 実奈江
交流及び共同学習主任名	田村 沙織

2 学校教育目標

- ◎自立を目指し、社会の中で豊かにたくましく生きていく力を育てる。
- ◎児童生徒一人一人の能力や個性を最大限引き出し生かす。
- ◎確かな学力、豊かな情操、健やかな体を育む。

II 交流及び共同学習推進会議の経過

1 交流及び共同学習推進会議構成員

No.	所 属・職 名	備 考
1	鳴沢村立鳴沢小学校・校長	
2	富士河口湖町立河口湖北中学校・校長	
3	山梨県立富士北稜高等学校・校長	
4	山梨県立吉田高等学校・校長	
5	鳴沢村立鳴沢小学校・交流及び共同学習担当	
6	富士河口湖町立河口湖北中学校・交流及び共同学習担当	
7	山梨県立富士北稜高等学校・交流及び共同学習担当	
8	山梨県立吉田高等学校・生徒会主任	
9	山梨県立富士ふれあいセンター・所長	会長
10	障害者支援施設はまなし寮・施設長	
11	富士吉田図書館おはなし会このはなさくや・代表	
12	富士五湖ウインドオーケストラ・代表	
13	NPO 法人 富士と湖とかかしの里・理事長	
14	有志の会・代表	
15	山梨県立ふじざくら支援学校・校長	副会長
16	山梨県立ふじざくら支援学校・PTA会長	副会長

2 経 過

開催月日	内 容
5月 2日	第1回 委員の委嘱、今年度の交流及び共同学習実施計画について
1月 27日	第2回 今年度の交流及び共同学習実施報告について

III 学校間における交流及び共同学習（学校間交流）

1 目 的

- (1) 全体
- ・交流を通して児童生徒の経験を広げ、共に学び合う中で豊かな人間性を育む。
 - ・同年代の児童・生徒相互の触れ合いを通して、相手の存在を理解し、認め合い、お互いを大切にしていく気持ちを育てる。
 - ・共生社会の実現に向けて、様々な人々と共に助け合い、支え合って生きていくことを学ぶ機会とする。
- (2) 小学部
- ・同学年の児童と触れ合い、一緒に様々な活動に取り組む。
 - ・友達を意識したり関わったりしようとする。
- (3) 中学部
- ・同年代の生徒と進んで関わりながら、共に学ぶ楽しさを味わい、より豊かな人間性を養う。
 - ・交流及び共同学習を通して、お互いに理解し合おうとする。
- (4) 高等部
- ・地域の同年代の生徒と協力して活動する中で、人と関わる力を身に付ける。
 - ・共に学び合う中で、お互いのことを理解する。
 - ・共に助け合い、支え合って生きていく仲間として意識する。

2 提携校

学部	交流及び共同学習提携校
小学部	鳴沢村立鳴沢小学校
中学部	富士河口湖町立河口湖北中学校
高等部	山梨県立富士北稜高等学校、山梨県立吉田高等学校

3 実施状況

学部	時期	提携校	実施学年	指導区分	内容
小	6月	鳴沢村立 鳴沢小学校	全学年	特別活動	本校にてダンス、歌の発表やゲーム等を実施
	10月		全学年	自立活動 図画工作 特別活動	鳴沢小学校に本校児童の作品を展示、手紙の作成
	10月		4・5・ 6年生	特別活動	鳴沢小にてダンス、歌の発表やゲーム等を実施
	10・ 11月		1・2・ 3年生	特別活動	ビデオレターの交換
	11月		全学年	自立活動 図画工作 特別活動	本校のふじざくら祭に鳴沢小学校児童の作品を展示・見学・手紙の作成
中	6月	富士河口湖町 河口湖北中学校	全学年	特別活動	本校にて自己紹介、ゲーム等を実施
	11月		全学年	特別活動 美術 自立活動	河口湖北中学校にてダンスや歌唱、ゲームを実施
	11月		全学年	特別活動	本校のふじざくら祭に河口湖北中学校生徒の作品を展示・見学
	1月		全学年	特別活動 美術 自立活動	河口湖北中学校に本校生徒の作品を展示
	11月	山梨県立 富士北稜高等学校	全学年	美術 特別活動	本校のふじざくら祭に富士北稜高等学校生徒の作品を

					展示
	12月		全学年	総合的な探究の時間 特別活動	本校にてボッチャ大会を実施
	7月	山梨県立 吉田高等学校	全学年	美術	吉田高等学校の学園祭に本校の生徒の作品を展示
	11月		全学年	美術 特別活動	本校のふじざくら祭に吉田高等学校生徒の作品を展示

4 学校間交流の様子

(1) 小学部

小学部では、鳴沢小学校と同学年同士での直接交流を年に2回実施し、また図画工作で制作した作品を交換する間接交流を行っている。

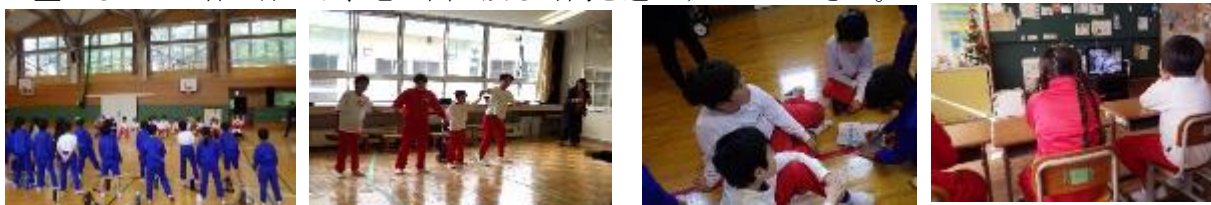
今年度は1学期に全学年が本校にて対面による交流、2学期は4～6年生が鳴沢小学校にて対面による交流、1～3年生は感染症の蔓延防止のためビデオレターでの間接交流を実施した。

【1学期】

1年生は自己紹介やふれあい遊びを行った。『こちょこちょでんしゃ』の歌に合わせて、互いの体をくすぐり合うとあちらこちらから笑い声が聞こえ、「楽しい」をみんなで共感することができた。2年生は鳴沢小の友達の『かえるのがっしょう』のピアノ演奏を聴き、「すごいね」と感じたことを言葉で伝えることができた。また、ふれあい遊びの『あくしゅでこんにちは』では、みんなとあくしゅをしようと自分から積極的に動く様子が見られた。3年生は久しぶりの学校間交流で緊張していたが、一緒にダンスを踊ることで緊張が解け、和やかな雰囲気の中で「風船リレー」を楽しむことができた。4年生は自己紹介や両校の発表、サーキット等を行った。活動する中でコミュニケーションを楽しんだり、一緒に相撲をしたりする姿が見られた。また、お別れをする場面では名残惜しそうに何度も「またね」と言っている姿が印象的だった。5年生は自己紹介を兼ねた「サイコロゲーム」や「紙コップタワーゲーム」を行った。互いに勝ちたい気持ちから、紙コップを置く位置や置き方にアドバイスや声援を送り、白熱した試合を繰り広げることができた。6年生は手をつないだままフラフープをくぐる「フラフープ送り」を行った。手を離さないで友達にフープを送ろうと身体のいろいろな部分を上手にくぐらせチームで協力することができた。

【2学期】

1年生から3年生は互いに送ったビデオレターで間接交流を行った。最初は会えないことに寂しそうだったが、画面越しでも返事をしたり、一緒に踊ったりして楽しむことができた。会えなくても「つながっている」という実感が得られた、大切な交流となった。4年生は、『エビカニクス』を一緒に踊り、ゲーム遊びも行った。椅子取りゲームは、音楽や友達の動きを見聞きしながら、いつ止まるのかを予想し、ドキドキしながら楽しむことができた。また、互いに名前を呼んだり、会話をしたりと前回の交流よりもさらに関わりが深まった。5年生は、鳴沢小の「ソーラン節」を見たり、一緒にボウリングゲームや大縄跳びをしたりした。鳴沢小の迫力ある「ソーラン節」はかっこよく、一緒に踊り出そうとする児童もいた。大縄跳びは、タイミングを合わせるために、掛け声や数を数えるなど一致団結する様子が見られた。6年生は風船ラリーゲームを行った。風船を落とさないようにするためにボンボンと弾ませ高く上げたり、声を掛け合ったりしながら協力することができた。また、風船が落ちそうになると「あっ」と声が出て、風船を全員で追う姿が印象的だった。6年生は、最後の交流となったが、毎年積み重ねることで絆が深まり、思い出に残る時間を過ごすことができた。



(2) 中学部

中学部の生徒全員が河口湖北中学校の2年生と実施している。直接交流を年に2回、作品交換などの間接交流を年に1回行っている。1回目はゲームを中心に、2回目は発表を通して一緒に踊ったり歌ったりする活動を行っている。

1回目は本校にて実施した。事前学習で互いの自己紹介カードを交換し、そのカードを手掛かりにペアの生徒を探すところから交流が始まる。カードの写真と目の前にいる友達の顔を見比べたり、名前を呼んだりしながら、緊張しながらも期待感をもっている様子だった。ペアで行うゲーム「ボール運びリレー」では、本校の生徒のことを河口湖北中学校の生徒が知り、ペースを合わせてくれる様子が見られた。休み時間は、生徒同士でコミュニケーションを取り合い、バスケットボールやキャッチボール、サッカーなどが自然と始まり、体育館のあちらこちらから笑い声など楽しんでいる声が聞かれた。2回目は河口湖北中学校にて実施した。河口湖北中学校の生徒から教えてもらい、一緒にソーラン節を踊った。毎年恒例になっていることで、振りを覚えている本校の生徒も多く、最後には全員で掛け声や動きに迫力のあるソーラン節を踊ることができた。また、本校は合唱『上を向いて歩こう』を発表した。河口湖北中学校の生徒が自然と一緒に歌い始め、全員で素敵な合唱となった。事後学習の手紙交換では、両校ともにペアの生徒の名前や顔を覚えており、ペアの生徒に向けて手紙を書く生徒が多かった。写真を見ながら活動を振り返り、「〇〇くんは〇〇が好きなんだよ」「〇〇をして楽しかった」など生徒から様々な声が聞かれた。



(3) 高等部

富士北稜高等学校とは直接交流と美術作品を本校に展示する間接交流を実施した。吉田高等学校とは美術で制作した作品を交換する間接交流を行った。

富士北稜高等学校のボランティア委員会と生徒会の生徒1～3年生37名が来校し、本校高等部生徒全員33名と一緒にパラスポーツのボッチャで交流会を実施した。準備体操として『Wa k a W a k a』のダンスを全員で踊った。最初は動きがわからず戸惑いが見られた富士北稜高等学校の生徒だったが、最後の方ではみんなが笑顔で踊ることができ体も心もリラックスできたように見えた。試合を2回行い、1回目の学校対抗戦は各学年ともに接戦が繰り広げられ、会場の体育館に応援の明るい掛け声が飛び交った。2回目の試合は、両校の生徒の混合チームをつくり対戦した。各チームが作戦会議の後、円陣を組み、勝利に向けたコールを行う姿も見られ良い雰囲気だった。試合中には本校の生徒の投球を富士北稜高校の生徒がサポートする姿も見られ、両校生徒がチームで一つになって戦うことができていた。また、試合中にはそれぞれのチームで両校の生徒が談笑する様子も見られ、すっかり打ち解けてボッチャの試合を楽しんでいた。終わりの会では、両校の生徒で、この地域にゆかりのあるフジファブリックの『若者のすべて』を合唱した。本校では学園祭などで良く歌っている曲を、富士北稜高等学校の生徒も一緒に歌い、素晴らしい合唱となった。両校の生徒が互いを知り、関係性を深めることができ、たくさんの笑顔が見られた交流会となった。



(4) 全学部

学校間交流の一環として、本校の学園祭「ふじざくら祭」で、交流相手校の児童生徒の作品を展示した。児童生徒は学年ごとグループになり展示見学を行った。

鳴沢小学校は絵画や書道作品、河口湖北中学校は宿泊学習のふりかえり、吉田高等学校は学園祭で使用した旗や写真、絵画、富士北稜高等学校は美術部による陶芸作品を展示した。児童生徒は様々な作品の中から交流先の友達の作品を見つけ笑顔をみせたり、じっくりと見たりする様子が見られた。またタブレットを使い、お気に入りの作品を写真に撮り、学級で発表をする学年もあった。同じ年代の友達や、自分よりも年上のお兄さんお姉さんの作品を見ることで、刺激を受け、次のステップへの目標や憧れをもつことができた。



5 成果と課題

(1) 小学部

対面での直接交流を全学年2回実施することができた。また、感染症の蔓延防止のためオンライン交流となった学年もあるが、継続的な交流から児童同士の理解が深まり、自分たちから動く意欲の高まりが見られてきた。毎年実施している交流の事前事後学習の手紙交換等も、互いの児童の特性に合わせた教材活用の成果もあり、共通の目的をもって活動に取り組めるきっかけとなった。両校の担当者が交流すること自体を目的化せず、児童の学習の成長に結びつけようと十分に打ち合わせを行ったことで、両校の児童が互いに協力しないと達成できない内容となり、児童同士の関わりが広がるよい機会となった。

低学年は、不安や緊張を感じている児童もいたが、事前学習の取り組みから期待感をもって参加できた。また、絵カードやジェスチャー、ICT ツール等の補助教材を用いたことで意思疎通がスムーズになり、ふれあい遊びやゲーム活動もより活発に取り組むことができた。年2回の交流だが、鳴沢小学校の児童と継続して6年間交流するため、「楽しかった」だけで終わるのではなく、「できた」「これがよかった」などと互いの児童に思ってもらうことが活動を通して大切であることを実感した。ただ、2回の交流を通して、高学年になると互いに「教える側」「教わる側」になり対等な交流になってきた。言葉でのやり取りでは、言語や認知の特性により会話が続き、活動が淡々となってしまうことがあった。

来年度も互いの児童同士のかかわりを深め、楽しい時間が過ごせるような有意義な交流会を実施していきたい。そのため、学校間で共通理解を図り、児童のどんな姿を期待するのか明確なねらいをもって意義のある交流会を計画していきたい。

(2) 中学部

対面での交流を2回実施することができた。毎年活動の流れを同じにすることで、昨年度のことを思い出しながら、積極的に活動に取り組むことができる生徒が多かった。1回目は、ペアやグループでの活動を基本とする活動を通して、互いのことを知り、理解を深めることができた。ゲーム「ごろごろドカン」の中で自己紹介をした。その中で出てくるお題に答えられるように、実態に応じてイラストを用意したり、国語の時間に自己紹介カードを作成したりした。実態に応じたコミュニケーションツールを用意することで、河口湖北中学校の生徒は、本校の生徒とのやり取りの仕方を学び、相手のことを知ることができていた。2回目は学習の成果を発表する場面を設けた。始めに河口湖北中学校のソーラン節の発表を見ることで本校の生徒は興味をもち、河口湖北中学校の生徒と一緒に踊るために、一生懸命に体を動かし、自然な関わりの中で教えてもらっていた。本校は歌『上を向いて歩こう』を発表した。知っている生徒も多く、その場にいる全員での大合唱となった。同じ目的をもつことで、生徒同士の関わりが増え、自然と互いを理解し合える交流となった。

来年度も生徒が自然と関われる交流内容を検討し、両校の生徒の良さを互いに伝え合うことのできる充実した交流会を実施していきたい。

(3) 高等部

富士北稜高等学校と直接交流を実施することができた。今年度初めて本校の高等部の生徒全員で直接交流をした。パラスポーツのボッチャを行った。富士北稜高等学校の生徒には、あまり馴染みのないスポーツではあるが、障害者理解のきっかけになること、体を動かすことで自然にコミュニケーションを図ることを目的に、今年度も実施した。

生徒同士が戸惑いを感じながら接している様子もあったが、昨年度も参加していた富士北稜高等学校の生徒が多くいたため活動を通して、すぐに打ち解けることができていた。両校の生徒のねらい、実態に応じた内容の検討をしたことで、体を動かしながら互いを知る良い機会となった。

吉田高等学校の学園祭で作業学習の手工芸班、木工班、陶芸班の作品を展示する間接交流を実施した。本校生徒の作品が、多くの方の目に触れる機会を提供していただき次年度につながる良い内容であった。

今年度の反省を受けて、次年度の交流がさらに充実したものになるよう相手校と検討していきたい。

IV 地域における交流活動（地域交流）

1 目的

(1) 全体

- ・交流を通して児童生徒の経験を広げ、共に学び合う中で豊かな人間性を育む。
- ・地域の人々と関わる中で、共に助け合い、支え合って生きていくことを学ぶ機会とする。

(2) 小学部

- ・活動を通して地域の人と触れ合い、関わりをもつ。
- ・関わりを受け入れ、共に活動することを楽しむ。

(3) 中学部

- ・地域の人々と触れ合い、社会で活動しようとする意欲を高める。
- ・活動を通して、関わりを深めていくとともに、人間関係の幅を広げる。

(4) 高等部

- ・地域の人々と関わる中で、お互いを理解し合う。
- ・学校周辺の環境や身近な施設等で生活する人と日常的に関わりをもつ。
- ・共に活動を行う中で経験を広げ、社会に参加する気持ちを育てる。

2 交流先

学 部	地域交流先
小学部	富士吉田市立図書館このはなさくや、有志の会
中学部	富士五湖ウインドオーケストラ、有志の会
高等部	はまなし寮、富士ふれあいセンター、富士と湖とかかしの里
全学部	富士ふれあいセンター 富士吉田市、西桂町、富士河口湖町、鳴沢村、忍野村、 山中湖村の文化祭や作品展での作品交流

3 実施状況

学部	月日	地域交流先	実施学年	教科等区分	内容
小	1月	このはなさくや	全学年	国語特別活動	絵本の読み聞かせ、パネルシアター、手遊び
中	11月	富士五湖ウインドオーケストラ	全学年	音楽特別活動	音楽鑑賞、合奏
小中	12月	有志の会	全学年	特別活動	プラネタリウムの鑑賞

高	5月	富士と湖とかかしの里	2年生	総合的な探求の時間	花植え活動
高	9月	富士と湖とかかしの里 富士ふれあいセンター	1・3年生	総合的な探求の時間	富士ふれあいセンターの清掃作業
高	9月	富士と湖とかかしの里 はまなし寮	Iコース 3年生 IIコース IIIコース	総合的な探求の時間	はまなし寮にて合唱の発表
高	9月	富士と湖とかかしの里	農園班	作業学習	野菜の苗植え、種まき
高	11月	富士と湖とかかしの里	農園班	作業学習	収穫した野菜を届ける
全学部	9月	富士ふれあいの村まつり	全学年	特別活動	ダンスの発表
全学部	7月 11月 11月 11月 11月 2月 2月	吉田空襲展 忍野村福祉健康まつり 山中湖村文化祭 西桂町文化祭 富士河口湖町文化祭 鳴沢村文化祭 富士吉田市小中学校図工美術作品展	全学年	図画工作 美術 自立活動	各市町村に居住している児童生徒の作品を展示

4 地域交流の様子

(1) 小学部

富士吉田市立図書館おはなし会「このはなさくや」と行った。1、2、3年生、4、5、6年生の2ブロックに分かれて実施し、読み聞かせを通して交流を広げた。1、2、3年生のブロックでは、音楽的パネルシアターに興味をもつ児童が多く、一緒に歌ったり、曲に合わせて体を動かしたりしていた。4、5、6年生のブロックでは、知っているお話は声を出して一緒に読んだり、知らないお話でも物語に合わせてパネルシアターの絵人形が動く様子に夢中になったりするなどして大いに盛り上がった。

今年度も学年に合わせた内容を用意していただいたり、児童の反応に合わせてアレンジしてくださったりと絵本を大好きになる有意義な時間を過ごすことができた。



(2) 中学部

富士北麓地域で活躍する「富士五湖ウインドオーケストラ」の方々に来校していただき、吹奏楽の生演奏を楽しみながら音楽を通して交流をした。「指揮者体験」のコーナーでは、生徒が指揮棒を振り、団員の方が生徒の指揮に合わせて『ミッキーマウスマーチ』を演奏する経験ができた。どの生徒も初めての体験で、興味をもち意欲的に取り組むことができた。昨年度に続き、『ここにはいつも富士がある』を全員で歌ったり、生徒が知っている曲を演目に入れてくださったりしたことで、とても楽しく和やかに過ごすことができた。



(3) 高等部

「NPO 法人富士と湖とかかしの里」の方と全学年が実施した。2年生は花苗をプランターに植える交流を行った。プランターは、「富士と湖とかかしの里」と、本校のある富士ふれあいの村内の「ふれあいセンター」、「はまなし寮」のそれぞれの玄関に飾っていただいた。1年生は地域の清掃活動を行う交流を実施した。ふれあいセンターの玄関タイルをたわしで磨く清掃活動を行った。3年生は、はまなし寮の利用者さんとの合唱の活動を行った。初めてはまなし寮に入った生徒もあり、利用者の人数が多かったことに驚いた生徒もいたようだった。多くの曲を歌うことができ、利用者さんからも喜んでいただけたことが良かった。

作業学習・農園班は畑に畝を作り、冬菜や小松菜の種をまいたりする活動及び、畑で収穫した野菜を「富士と湖とかかしの里」へ届けに行く活動を行った。この野菜は「富士と湖とかかしの里」が運営している「ニコニコかかし食堂」でお弁当として提供された。生徒からは「かかしの里さんでたくさんのお話ができてよかった」「みんなで一生懸命に育てた野菜を無事に届けることができてよかった」等の感想を聞くことができた。



(4) 小学部・中学部

有志の会の方々の御好意で開催される「星つむぎの村」の鑑賞会も今年で3回目。今年も小学部と中学部の児童生徒で参加することができた。参加したことがある児童生徒からは事前学習の段階から「楽しみ！」と期待の声が上がった。体育館に設置された大きなドームには、満天の星空が広がり、児童生徒は手を伸ばし「あっ、ほしだ」「ぼく、オリオン座知っているよ」など嬉しそうに話す様子がみられた。地球や火星などの惑星が近づいたり遠ざかったりする様子に自然と笑みがこぼれたり、自分の星座探しでは見つけたら拍手をしたりして楽しんだ。今年度も児童生徒は広がる星々に包まれながら、心温まる素敵な時間を過ごすことができた。



5 成果と課題

(1) 小学部

1、2、3年生、4、5、6年生の2ブロックに分かれて実施した。実物の絵本を使っての読み聞かせとなり、ページをめくるときどきわくわく感や一緒に言葉のリズムに合わせながら体を動かす楽しさを味わえたことで、いつも以上に絵本の世界を楽しむことができた。手遊びやエプロンシアターなどは、みんなで呼吸を合わせて手指を動かしたり、新しい言葉を覚えたりと児童を惹きつける内容だった。馴染みのある絵本や季節や行事を感じさせる絵本を取り入れてもらったことで、学校の図書室で同じ本を借りて読んでみようとする児童や校外学習で図書館利用を計画する学年もいた。来年度もより絵本を親しむ中で、児童の好奇心を刺激できる活動内容を検討しながら有意義な会になるよう計画していきたい。

(2) 中学部

今年度で2回目の交流となった。「富士五湖ウインドオーケストラ」の方から様々な提案をしてもらいながら、「聴く・踊る・体験する・歌う」という音楽を通して様々な経験をすることができた。継続して実施することで、本校の生徒のことを理解してもらい、一緒に楽しめる活動を用意してもらい、とても意義のある交流会だった。今年度取り入れてもらった「指揮者体験」のコーナーは、ほとんどの生徒が初めての体験でとても喜んでいて、自分の手の動きで曲が演奏されることが面白く、自分なりに考えながら体を動かしていた。聞くだけの受け身の活動だけではなく、楽器の演奏をきっかけに団員の方と生徒の表情が笑顔になり、言葉をかかわらずとも共感している様子が印象的だった。今年度の交流の様子を踏まえ、来年度も音楽を通して関わることができるように計画していきたい。

(3) 高等部

今年度も「富士と湖とかかしの里」に御協力いただき、延べ4回の交流を行うことができた。はまなし寮に行き、合唱の発表をした。今年度初めての交流内容だったため、交流先と打合せを重ねた。地域の方に日ごろの学習の成果を発表しながら交流するよい機会となった。交流を通して、一緒に清掃や野菜の種まき等の活動を行ったりすることで、地域との自然な関わりが生まれ、生徒の様々な経験を広げることができた。また、育てた野菜を収穫し、寄贈した野菜が「富士と湖とかかしの里」で運営する子ども食堂「ニコニコかかし食堂」で提供され、社会への参加という成果も得られている。これらの活動では、地域の方と同じ場を共有し、同じ目的に向かって活動することで、交流を深めることができた。また、地域の方からも、生徒との交流が楽しかった等の感想をいただいた。

今年度の課題を次年度に生かし、地域の方と関わりながら、「社会への参加」というねらいが達成できるよう交流を進めていきたい。

V 居住地の学校等における交流及び共同学習（居住地校交流）

1 目的

- (1) 居住地校の児童生徒と共に学び、関係を築いたり、継続したりして相互に理解を深める。
- (2) 本校の児童生徒が、将来、地域で生活するための基盤を作り、社会参加を促進する。

2 実施状況

昨年度居住地校交流を実施した児童9名に加え、新たに小学部1年生の児童2名と小学部5年生の児童1名、中学部1年生の生徒1名から希望が出された。ほとんどの児童が居住地校へ行き、直接交流を実施することができた。

学部・学年	交流及び共同学習先校名	実施（活動）内容
小・1学年	富士河口湖町立河口小学校	生活科(やきいもパーティー)
小・1学年	西桂町立西桂小学校	図画工作(クリスマスの飾りづくり)
小・1学年	富士河口湖町立船津小学校	音楽(身体表現、リトミック、器楽)
小・1学年	富士吉田市立下吉田第二小学校	体育(ドッジボール、しっぽとりなど)
小・2学年	富士河口湖町立小立小学校	学級活動(歌遊び、フルーツバスケット) 生活科(やきいも)
小・2学年	富士河口湖町立勝山小学校	図画工作(造形遊び) 生活科(どんぐり拾い)
小・2学年	富士河口湖町立小立小学校	生活科(やきいも)
小・3学年	富士河口湖町立船津小学校	図画工作(大きな町をつくろう)
小・5学年	富士吉田市立下吉田第二小学校	特別活動(レクレーション)

小・5学年	富士河口湖町立勝山小学校	未実施
小・6学年	西桂町立西桂小学校	算数(比の学習)
小・6学年	富士河口湖町立大石小学校	特別活動(お楽しみ会)
中・1学年	西桂町立西桂中学校	体育(ボルダリング)

(R7. 12. 24 時点)

3 成果と課題

昨年度居住地校交流を実施した全家庭から「地域に住んでいる同年代の友達との交流を深めたい」「普段とは違う体験から良い刺激、良い経験を積んでほしい」などの願いが提出され、継続して実施した。また、新規で居住地校交流を希望した児童生徒の保護者からは「保育園での友達と交流できる場を作りたい」「地域との関わりをもちたい」など学校外の同年代の友達や地域との関わりを大切にしたいという声が多く上がった。

昨年度から継続して実施することで、居住地校の児童が本校の児童を覚えており、すぐに声を掛けてくれたり関わってくれたりしたおかげで最初は緊張し不安な表情をしていた児童も安心して活動することができた。また、交流後にメッセージカードをもらい、活動を思い出し喜ぶ児童の姿も見られた。初めて居住地校交流を行った児童の中では、久しぶりに会う同じ保育園出身の友達から「〇〇はお絵描きが好きだったよね」など話し掛けてもらったり、児童本人も友達の方へ行き、手をつないだり一緒に走ったりと楽しい時間を過ごすことができた。保護者からは「徐々にあった友達も色々なことを覚えていてくれてよかった」「周りの様子を見て行動できていて成長を感じた」「今後も居住地校交流を継続したい」などの感想をいただいた。



児童生徒にとって居住地校へ行き同年代の友達と一緒に活動することは、地域社会に積極的に参加し地域とのつながりも持つことの基盤になる。保護者、居住地校の方々と連携し、今後も児童生徒にとって良い交流の場になるように努めていきたい。

VI 本年度の交流及び共同学習のまとめ

今年度も交流校や地域交流先と連携し、交流方法や内容などを検討しながら交流及び共同学習を実施することができた。

学校間交流では、小学部は手遊びやゲームなど、中学部は両校の学習活動を一緒に取り組むこと、高等部はパラスポーツのボッチャなどを通して、自然に関わりをもちながら交流することができた。小学部の学校間交流では、交流開始前に本校の教師から鳴沢小の児童に簡単な手話を教える時間を設けた。手話で「楽しい」を覚え、活動中も鳴沢小の児童から手話をしながら「楽しいね」という声があった。相手校の教師からも、「手話を覚えて嬉しそうだった」という感想をもらった。来年度も障害理解のための活動にも取り組んでいきたい。本校の学園祭に交流相手校の児童生徒の作品を展示し、見学を行った。ICTを活用しながら見学を行った学年もあり、この取組みはとても良いと感じた。来年度、間接交流をさらに充実できるよう工夫していきたい。昨年度、本校に児童生徒の実態が分からないため交流内容を考えることが難しいという意見があった。今までの指導案をファイリングしたものを相手校に渡し、交流内容を考える際の参考にしてもらった。相手校の担当者から、とても参考になったという意見があったため、来年度も継続して行っていきたい。

地域交流では、読み聞かせやプラネタリウムの鑑賞、音楽鑑賞、花植え活動、清掃作業、合唱の発表を通して交流を深めることができた。児童生徒の実態に応じて内容を工夫しているが、課題もあった。来年度は交流内容、対象学年等を再度検討し、実施していきたい。中学部は昨年度と同じ団体で行ったことで、相手先の方も本校の生徒の実態を配慮しながら交流内容を提案していただいた。年に1度の交流のため、同じ団体と交流することが、児童生徒の実態を理解していただき、さらに充実した交流になっていくと考える。また、児童生徒自身も見通しがもちやすく、

意欲的に参加することができる。今年度の活動を双方で反省を行い、来年度に生かしていきたい。

居住地校交流は、相手校、保護者の御理解と御協力をいただきながら多くの児童生徒が実施することができた。交流開始前に保護者と本人、担任などで相手校に伺い、相手校の担任等に居住地校交流について説明し、児童生徒の実態等を伝えた上で、交流の時期、内容など検討することが相手校の理解や負担軽減につながると感じた。相手校の御理解をいただき、普段の学校生活では体験することのできない学習を体験させてもらうことができた。本人や保護者からも「楽しかった」「相手校の友達から話し掛けてもらえてうれしかった」という感想が多かった。相手校の児童生徒からも「〇〇くん、いつ来る」と期待している様子もあると伺った。次年度以降、本校、相手校の担任が変わった際にもスムーズに居住地校交流が実施できるように今年度のまとめを両校の担任で丁寧に行っていきたい。また、相手校に「居住地校交流」を知ってもらい、相手校が負担と感ぜないよう保護者と両校の担任で連携して実施していきたい。

今年度も交流先の児童生徒や地域の方に、本校の児童生徒のことを知ってもらい理解を深める交流及び共同学習を実施することができた。学校間交流では、相手校の児童生徒が交流内容を提案してくれることが多いが、本校は教師が考えて決めてしまうことが多い。事前学習を充実させ、児童生徒が相手校の児童生徒とやりたいことを考える時間をつくっていき、互いに相手のことを考えるきっかけとなる交流を実施していきたい。

I 学校概要

1 学校の概要

学校名	山梨県立かえで支援学校
所在地	〒400-0807 山梨県甲府市東光寺2-25-1
電話番号	055-223-6355
校長名	深澤 和仁
交流及び共同学習主任名	近藤 久美子

2 学校教育目標

- 子どもたちが、幸せな人生を送るために —
- ・心身ともに健康な児童生徒を育成する。
 - ・個々の能力・特性を生かして、基礎的・基本的な確かな学力を育成する。
 - ・働く意欲や喜びをもち、社会の一員として共に生きる力を育成する。
 - ・多くの人たちとの交流を深め、豊かな人間性・社会性・道徳性を育成する。
 - ・子どもの人権を尊び、自己実現に向け、自己選択・自己決定する力を育成する。

II 交流及び共同学習推進会議の概要

1 交流及び共同学習推進会議構成員

今年度は学校運営協議会の中で活動計画及び状況等を報告した。

2 年間計画

開催時期	内 容
6月12日(木)	昨年度の活動概要、本年度の計画
2月 5日(木)	今年度の活動状況、来年度の課題、意見交換

III 学校間における交流及び共同学習（学校間交流）

1 目的

同世代の児童生徒との様々な交流活動を通して、生活経験を拡大させるとともに相互理解を促し、共に学び共に育ち合う気持ちを育てる。

(1) 小学部

- ①同世代の児童との交流活動を通じ、一緒に様々な活動に取り組みながら共に学び合う気持ちを育む。
- ②友達とのかかわり方を身に付け、楽しくやりとりを行うことができるようにする。

(2) 中学部

- ①同世代の生徒との交流活動を行い、一緒に活動する中で共に学ぶ楽しさを味わい、豊かな人間性を養う。
- ②同世代の生徒とのかかわりを広げ、お互いのことを知る中で、自分から人とかかわろうとする気持ちを育む。

(3) 高等部

- ①同世代の生徒との交流や学び合いを通して、協力してかかわりながら互いに理解を深める。
- ②互いの個性を尊重し、思いやりや感謝の心をもって人と接する態度を育成する。
- ③他校の生徒との作品交流を通して、お互いの理解を深めるとともに自らの表現意欲を高める。

2 提携校

学 部	交流及び共同学習提携校
小学部	甲府市立里垣小学校
中学部	甲府市立東中学校
高等部	山梨県立甲府東高等学校

3 実施状況

学部	時期	提携校	実施学年	指導区分	内容
小	6月～12月	甲府市立里垣小学校	学年ごと	各教科及び特別活動	ゲーム、運動、歌等
	11月22日	甲府市立里垣小学校	全学年	特別活動	かえで祭にて作品展示
中	6月16日	甲府市立東中学校	1年生	特別活動	自己紹介、ゲーム等
	9月3日	甲府市立東中学校	全学年	特別活動	東輝祭にて作品展示
	11月22日	甲府市立東中学校	全学年	美術	かえで祭にて作品交流
	12月16日	甲府市立東中学校	1学年	特別活動	ゲーム、運動等
	通年	甲府市立東中学校	3年生	特別活動 美術	窓ガラスに相手校へ向けて、メッセージを掲示する
高	6月19日	甲府東高等学校	全学年	特別活動	蒼龍祭にて作品展示
	11月22日	甲府東高等学校	全学年	特別活動	かえで祭にて作品展示

4 学校間交流の様子

(1) 小学部

①甲府市立里垣小学校との交流会

【1年生】

12月9日に本校にて直接交流を行った。1年生にとっては初めての交流会だったが事前学習や練習をしたことで、交流会の内容に見通しをもち、期待感をもって参加することができた。交流は、最初に朝の運動で行っていた『まねっこピーナッツ』体操をし、里垣小学校と本校の児童が一緒になって体を動かす楽しさを味わうことができた。次に自己紹介を行い、自分の名前や挨拶を互いに元気に行うことができた。赤白に分かれて玉入れを行うと、みんなで「頑張るぞ」と声を掛け合ったり、勝利を喜び合ったりして楽しんでいた。最後のかっこでは互いを意識しながら走る姿が見られた。初めて出会う友達に戸惑うことなく、自然なかかわりがたくさん見られ、6年間の交流の良いスタートを切ることができた。



【2年生】

6月25日に本校にて直接交流を行った。事前学習で、ペアの友達の確認や活動の流れの確認などを丁寧に行ったことで、当日へのイメージを高めることができた。交流会では、『チームづくり』『はじめの会』『自己紹介』『里垣小学校の発表』『バルーン』『おわりの会』を行った。『ペアづくり』では、「ペンぎんチーム」等、動物やキャラクター名でチーム分けを行った。自分のチーム名を覚えたり、同じイラストのシールを貼っている友達を探し合ったりする様子も見られ、相手を意識するきっかけづくりとなった。



『里垣小学校の発表』では、『Bling-Bang-Bang-Born』の曲に合わせたカスタネット演奏を鑑賞した。本校の児童にとっても聴きなじみのある曲であることから、体を揺らして踊ったり、演奏する姿に注目したりして発表を楽しむことができた。『バルーン』では、バルーンに入る児童と持つ児童で分かれ、曲に合わせてバルーンを上下に動かしたりバルーンを持ちながら歩いたりした。ペアの友達と一緒に寝ころんで風を感じたり、バルーンが上がったり下がったりする様子を眺めたりして、同じ空間で楽しく活動することができた。会の終了後は、何度も手を振ったり、「〇〇くん、またね」と声をかけたりする等、来年度を楽しみにする様子が見られた。

【3年生】

12月11日に本校にて直接交流を行った。交流会では、『ダンス発表会』『大縄跳び』『大玉転がし』を行った。『ダンス発表会』では、かえで支援学校の朝の運動で取り組んできた『ヨコハマフーフーフーエクササイズ』と里垣小学校が運動会で披露した『ソーラン節』を発表し合った。里垣小学校の児童は本校の踊りを真似する様子が見られた。本校の児童は初めて見た『ソーラン節』を夢中で見ていた。『大縄跳び』では、本校の児童が八の字跳びを披露すると、里垣小の児童もこれに加わりこれまでにない大人数での八の字跳びに挑戦することができた。お互いに応援したり、成功するとハイタッチしたり、大盛り上がりの時間となった。『大玉転がし』では3人一組で大玉を転がしながら一緒に走った。待ち時間には積極的に話したり、握手をしたりするなど、自然なかかわりが見られた。帰り際には、お互いにハイタッチをしながら「また遊ぼうね」など言葉を交わし、来年度の交流を楽しみに交流を終えることができた。



【4年生】

10月8日に本校にて直接交流を行った。交流会では、『音楽発表会』を行い、それぞれの学校より音楽の授業で取り組んできたことを発表し合った。かえで支援学校からは、器楽で取り組んだ『ねこふんじゃった』のリズム合奏とスカーフを使った身体表現『風が呼んでいる』を発表した。練習の成果を見てもらい、大きな拍手をもらうことができた。里垣小学校からは、『オーラリー』のリコーダー演奏と合唱『U&I』を披露してもらい、感想発表で「歌がきれいだった」と感じたことを自分の言葉で表現できる児童がいた。発表会後はグループごとに分かれて『自己紹介』や『ごろごろどかんゲーム』の活動を行った。ゲームでは、スピーカーを爆弾に見立てて、隣の友達に渡していくやりとりを通して、直接触れあったり、会話をしたりする交流ができ、



大いに盛り上がって楽しい時間を過ごすことができた。事前の練習の時には活動に消極的だった児童も、その場の楽しい雰囲気や友達の力によって、輪の中に入って一緒に活動することができた。最後は里垣小学校の児童を体育館出口までお見送りし、また来年を楽しみに交流会を終えることができた。

【5年生】

12月10日に本校にて直接交流を行った。相手校の友達を自校に迎える立場ということで期待が高まっている表情が見られた。本校児童が初めの会・終わりの会の司会進行を務めた。事前に本校から提案し、お互いに練習してきた『風船リレーゲーム』では、里垣小学校の児童と本校の児童とが4人1組で1つのチームとなり、シーツの上に置いた風船を



落とさないように慎重に、ゆっくりと、お互いの動きに合わせてながら協力し合って運ぶ姿が見られた。同じチームの他の児童からは風船を運ぶチームメイトに対して自然と応援の声があがり、子供たちの歓声と「頑張れー!」「あと少し!」等の応援の声が体育館いっぱい響き渡った。結果や順位に関係なく、一緒に一つのゴールを切った達成感と一体感に包まれて、児童たちはとても嬉しそうにしていた。また、本校からはかえで祭で踊った「おたすけマン」のテーマでダンスを発表し、里垣小学校の児童からは学芸会で踊ったダンスが披露された。それぞれの学校の子供も達の生き生きと踊る姿にお互いが魅了され、手拍子をしながら楽しんで見合うことができた。どの児童も元気に歌ったり踊ったりして日頃の学習の成果を発表することができた。「また来年」「6年生になったら会おうね」と再会の約束をし、来年の交流会へと気持ちがつながった。

【6年生】

6月24日に本校にて直接交流を行った。交流会の進行は本校の児童が担当した。交流会は、まず両校による音楽発表から始まった。里垣小学校は合唱を披露し、本校は和太鼓の演奏と校歌「フレンズ」の合唱を手話と併せて発表した。その後、児童たちが最も楽しみにしていた大玉運びと爆弾ゲームの時間となった。大玉運びでは、両校の児童を合わせて5人ずつのグループを作り、大玉を協力して運ぶ競争を行った。児童たちは白熱し、楽しく活動することができた。爆弾ゲームはタオルで巻いたスピーカーを「爆弾」に見立て、円になって回し、爆発音が鳴ったときに爆弾を持っていた人が負けになるゲームである。児童たちは、いつ爆発するかわからない爆弾にドキドキしながら回し合い、ゲームは大盛り上がりであった。小学部生活最後の交流となったが、6年生らしくリーダーシップを発揮し、協力する姿がとても頼もしく感じられた。



②作品交流（かえで祭）

今年度も里垣小学校の図工作品を借用させていただき、本校に展示した。会場では、里垣小学校の友達の作品に興味深く見る児童が多く、「色がきれい」「すごい」「自分もこんな作品を作りたい」などの声が聞かれた。作品を通じた交流を行うことで、交流の楽しさや学びを感じる時間となった。

(2) 中学部

①甲府市立東中学校との交流会 1年生

【直接交流1回目】

6月16日に甲府市立東中学校との交流1回目を本校グラウンドで行った。12グループに分かれ自己紹介やレクレーション『繋いで・くぐって・GO!GO!GO!』をした。初めはお互いに緊張した様子だったが、活動を通して生徒同士のかかわりも生まれ、笑顔で楽しく交流することができた。活動が終わり、東中学校の生徒を見送る際には、みんなでフェンスの前まで見送りに行き名残惜しい様子も見られた。



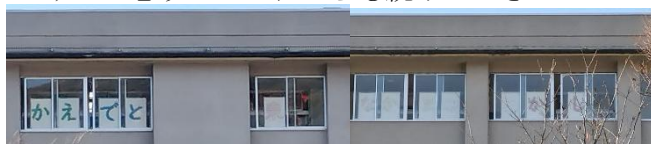
【直接交流2回目】

12月16日、待ちに待った2回目の交流が東中学校の体育館で行われた。クラスにわかれて『フラフラおくり』をした。活動を通して生徒たちが互いにかかわり合う姿が多くみられ、1回目よりも更に交流を深めることができた。会の後半には両校が2学期に取り組んだ学習発表を行い、かえでは、かえで祭で披露した『輪になって踊ろう、アドベンチャー』のダンスを、東中学校は『応援』を披露し合った。ダンスの途中には、両校の生徒がハイタッチをする場面がありとても盛り上がった。迫力のある東中の応援に感動し「かっこよかった」と声をかける生徒もいた。帰りには、東中学校の生徒が花道のアーチを作ってかえでの生徒を笑顔でお見送りしてくれ、とてもあたたかな交流であったと感じた。

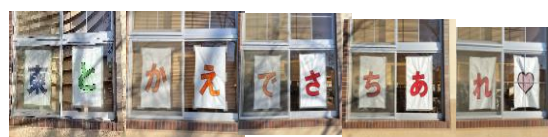


②メッセージ交流：3年生

校舎の向かい合う窓を使って、メッセージを貼り気持ちを伝えあった。本校では、3年生がメッセージの作成を行った。『かえでと東 なかまのあかし』（東中学校）『東とかえでさちあれ♡』（かえで）のメッセージを送りあった。メッセージ交流は、笑顔で本校の開校の際に東中学校からメッセージを貼っていただき、それ以来毎年続けられている。生徒たちも毎日メッセージを見ることができるので、直接会えなくても「次いつ会えるかな。」「元気かな。」など友達を思い浮かべる良い機会となっている。交流を深めるために良い取り組みだと思うのでこれからも続けていきたい



「かえでと東 なかまのあかし」



「東とかえでさちあれ♡」

③作品交流（東輝祭、かえで祭）

互いの学園祭で作品交流を行った。本校からは、主に中学部2年生が美術の時間に制作した作品を東輝祭で展示していただいた。かえで祭では、東中学校の美術作品を展示させていただいた。バラエティーに富んだ作品が多く、興味深く鑑賞する様子が見られた。また、沢山の作品のおかげで、かえで祭を盛り上げていただいた。

(3) 高等部

①甲府東高等学校との作品交流

【蒼龍祭】

本校高等部の作品を甲府東高校の学園祭（蒼龍祭）で展示していた。本年度は、各学年の美術作品（絵画等）と、作業学習で作った製品（木工班：スマホ置き、食品加工：菓子製品の写真、クラフト班：カレンダー等、陶芸班：皿、農園班：じゃがいも、手工芸班：ティッシュケース等）を展示していただいた。展示教室には甲府東高校の生徒が準備したメッセージボードも掲示し、多くの生徒に作品の感想などのメッセージを書き込んでいただいた。メッセージボードは本校に持ち帰り、廊下に掲示した。多くの生徒が嬉しそう読んでいた。



【かえで祭】

甲府東高校生徒会が厳選した切り絵、自己紹介作品、教師の似顔絵を貸していただき、児童生徒玄関と高等部棟に掲示した。精巧に切り貼りされた作品や教師の顔を愛情豊かに表現した作品に本校生徒たちは顔を近づけて見入る様子が見られた。作品を見た感想には「人の可能性は偉大だ」「クオリティが高く最高」などが聞かれ、それらをカードに書いて甲府東高校生へのメッセージとして届けた。作品やメッセージを介して、交流を深めることができた。



5 成果と課題

(1) 小学部

①甲府市立里垣小学校

今年度は全学年がかえで支援学校にて行う計画を立案した。丁寧に事前学習を行ったり、本校の児童が交流会の装飾や司会進行を行ったりしたことで、期待感をもちながら児童が主体的に交流することができた。各学年、学習で学んだダンスや合奏を発表したり、一緒にゲームをしたりと、楽しみながら交流を深めることができた。2学期は行事も多いため、1学期中に交流を実施していけると良い。

(2) 中学部

①甲府市立東中学校

昨年度の反省を生かしながら、計画を立てた。テスト期間や行事等で日程調整が難しかったが、本校の希望に合わせて柔軟に対応をしてくださりありがたかった。会の進行や活動内容はなるべく生徒主体で決めていけるよう両校で取り組むことができた。本校の生徒に適した内容を考えてくださり、当日は全員で活動を楽しむことができた。2回の交流を通して互いを知り、受け入れ、理解を深めることができた交流会となった。今後も同じ地域に属する学校同士、交流活動を進めていきたい。

(3) 高等部

①甲府東高等学校

作品交流では、互いの学園祭でそれぞれの作品を展示し、メッセージ交換を行った。甲府東高校からは今年度もダイナミックで緻密に作られた作品を借用して展示することができた。教師が作品の仕組みや観るポイントなどを話しながら鑑賞することで、生徒たちはより興味をもって見ることができていた。また、自分たちの作品が東高校に展示された様子を写真で紹介したり東高校からのメッセージを掲示したりすることで、甲府東高校の生徒を意識できる生徒もいた。来年度もお互いの行事や学習を通して、よりよい交流の機会を設定したい。今年度は、年度当初の計画にはなかったが甲府東高校の生徒が作品の搬入出のために本校を訪れ、生徒会長とあいさつを交わす機会をもつことができた。来年度は計画の段階において直接交流の可能性について検討できると良い。

IV 地域における交流活動（地域交流）

1 目的

地域の人々とふれあったり、学校を取り巻く環境を体感したりすることにより、地域社会の中で共に豊かに生きていく力を身に付ける。

(1) 小学部

①地域の方々とのおいしさや交流会で生活経験を広げ、様々な人と楽しくやりとりを行うことができるようにする。

②地域の方々と身近な食材や季節の食べ物を扱うことで、食生活の経験を拡大させる。

(2) 中学部

①地域の方々と活動を共にし、ふれあいを楽しみ、お互いに理解を深め合う。

②生活経験や対人関係を広げ、地域社会の中で生きていく力の基礎をつくる。

(3) 高等部

①地域の方々と共に活動する中で、自分たちが人のためになっているという意識を持ち、奉仕の心を育てる。

②地域の方々とのおいしさを通し、お互いを理解する。

2 交流先

学 部	地域交流先
小学部	里垣地区社会福祉協議会、里垣地区食生活改善推進委員会
中学部	中澤ぶどう園、松永ぶどう園
高等部	大正琴サークル「つみき会」
全 校	ヴァンフォーレ山梨スポーツクラブ

3 実施状況

学部	時期	地域交流先	実施学年	指導区分	内容
小	5、9月	食生活改善推進委員会	3年	生活単元学習	かぼちゃの苗植え・調理
	11月	各自治会 里垣地区社会福祉協議会	1、2年	生活単元学習	焼き芋会
中	6月～ 11月	中澤ぶどう園 松永ぶどう園	2年	生活単元学習	ぶどう園作業体験
高	10月	大正琴サークル 「つみき会」	1年	音楽	大正琴演奏鑑賞等
全校	10月	里垣地区社会福祉協議会	全校	特別活動	ぶどうの贈呈式
	9月	ヴァンフォーレ 山梨スポーツクラブ	全校	特別活動	全体会、各学年での交流

4 地域交流の様子

(1) 小学部

①里垣地区食生活改善推進委員会との交流

今年度は5月と9月に里垣地区食生活推進委員会の方々と地域交流を行った。1回目はオクラとかぼちゃの苗植えを行った。地域の方々と言葉のやりとりをしながら楽しく活動できた児童もいた。2回目は収穫したかぼちゃでパンケーキづくりに取り組んだ。普段、給食などではかぼちゃを食べない児童もおかわりをするなど、楽しい交流の中で食材のおいしさに触れることができた。



②里垣地区社会福祉協議会及び各自治会との交流

地域の方が8名参加し、焼き芋会を行った。火をおこしたり児童が投げ入れたさつまいもを食べ頃に焼いてもらったりした。児童にあたたかい声をかけていただきながら、ふれあい遊びやダンス、じゃんけんゲームを一緒に楽しんだり、出来上がった焼き芋を一緒に食べたりして、交流を深めることができた。普段、さつまいもを口にできない児童が焼き芋を食べる姿も見られ、「おいしい」「おかわりする」と言ってよく食べる姿が見られた。焼き芋会が終わった後に、児童から「たのしかった」という声も自然に聞かれ、良い地域交流となった。



(2) 中学部

①葡萄園との交流

2年生が2グループに分かれて、松永葡萄園と中澤葡萄園に3回訪問し、葡萄の栽培体験を通じて交流を行った。葡萄の傘かけ、収穫、収穫後の枝拾いの体験を重ね、葡萄がどのように栽培されているのか、美味しい葡萄を育てるために葡萄園の方々がどのような思いで栽培をしているのかを、学ぶことができた。複数回の体験により、地域の名産である葡萄の栽培を、身をもって体験し農家の方や自然の恵みに感謝する機会にもなった。また、活動を通して葡萄園の方々から優しく言葉をかけられ、事前学習で学んだことを聞いたり確認したりすることで、お互い積極的に関わりをもち、貴重な体験をすることができた。



(3) 高等部

①大正琴サークル「つみき会」

本校の校歌『フレンズ』や、『ビリーブ』など生徒たちにとってなじみ深い曲を演奏していただいた。興味深く演奏を聴いたり、曲に合わせて体を動かしたりする様子がみられた。大正琴の演奏を教えていただく中で会話も弾み、笑顔も多くみられ心温まる交流会となった。



(4) 全体

①ぶどうの贈呈式

今年度も里垣地区社会福祉協議会から、里垣地区で栽培された葡萄を全校児童生徒に届けていただいた。立派な葡萄をいただき、喜ぶ姿が見られた。山梨県の特産物である葡萄に親しみをもつ機会となった。

②ヴァンフォーレ山梨スポーツクラブとの交流

昨年度に引き続き今年度も、学校全体でヴァンフォーレ山梨スポーツクラブとの交流会を実施することができた。開校当初から継続して交流を重ねており、児童生徒が毎年楽しみにしている学校行事の一つである。昨年度は、全体交流会を体育館で行ったが、今年度は暑さのため、高等部のみ全体交流会をし、他学部はオンラインとした。交流当日は、ヴァンフォーレ山梨スポーツクラブから10名の選手とヴァン君・フォーレちゃんに来校していただき、各学部、学年で実態に応じた交流を行った。普段テレビで見る憧れの選手たちとサイン会やパス回しなどの交流をすることで、児童生徒から輝く笑顔が見られ、有意義な時間を過ごすことができた。選手たちからのサインをもらい、パフォーマンスを見ることで、選手と児童生徒が互いにパワーを送り合う交流会となった。



③校歌『フレンズ』

校歌『フレンズ』は、作曲家の杉本竜一氏に作詞・作曲していただいた曲である。大正琴コンサートの際に演奏していただいたり、学校間交流で合唱したりと様々な場面で歌をとじて交流することができた。この曲は、本校の児童生徒のありのままの姿の美しさや心の素直さを表現した曲で、聴く人に優しさを伝えてくれる。また、歌詞を手話で表現でき、本校の児童生徒も曲が流れると自然に身体を揺らしたり手を動かしたりする姿が見られる。今後も自分達の校歌を大切に歌っていくと共に、多くの方々に聴いていただけるよう、校歌『フレンズ』の交流を広げていきたい。

5 成果と課題

(1) 小学部

今年度は、低学年（1・2年生）が焼き芋会、3年生がかぼちやの苗植えや調理活動を通して、地域の方々と交流することができた。地域の方々には、各学年の授業計画に沿った内容や日程に合わせて交流をしていただいている。地域の方々のお力をお借りし、季節やおいしい食材を味わえる貴重な学習の場となり、普段できない経験をする事ができている。今後も児童の学びをより深められる交流を進めていきたい。

(2) 中学部

実施にあたっては、昨年度の反省を生かしながら、今年度の生徒の実態や学習のねらいを考慮して計画を立てた。毎年、地域の方々の協力を得て、スムーズに交流を行うことができた。また、地域の方々が生徒の実態に配慮をし、かかわり方を工夫してくださったり作業をし易いように整えてくださったりしたおかげで、生徒たちが積極的にかかわったり作業したりする様子が多く見られた。帰りには、お土産や試食のぶどうも沢山いただき、生徒たちも喜んでいた。毎年交流が滞りなくできていることに感謝している。

(3) 高等部

音楽で事前で大正琴について学習を行った。触れたり、演奏をしたり、歴史を知ったりなど実態に応じて取り組んだこともあり、当日は意欲的に取り組む生徒の姿がみられた。演奏を教えていただくなかで双方に自然な関わりがみられた。将来を見据えながら、自立や社会参加について学ぶ生徒たちにとって、貴重な経験となっており、今後も継続していきたい。

V 居住地の学校等における交流及び共同学習（居住地校交流）

1 目的

居住する地域の様々な人々とふれあうことにより、生涯を通じて地域と結び付いていく基盤をつくとともに、地域の中で共に生きていくことができる力を培う。

2 実施状況

学部・学年	交流及び共同学習先校名	回数	実施（活動）内容
小学部・1年	甲府市立貢川小学校	2	2回実施。新規。1回目の交流では自分の名前を伝えることができた。音楽では『じゃんけん列車』など、友達と一緒に活動することができた。友達の声掛けを受け入れ、ルールを守ることができた。
小学部・2年	笛吹市立一宮西小学校	2	2回実施。継続。1回目の交流では、支援級にてリトミックに取り組んだ。昨年度より落ち着いて取り組むことができていた。図工では粘土での作品作りに取り組んだ。
小学部・3年	笛吹市立富士見小学校	2	2回実施。新規。本児が興味のある虫を休み時間に一緒に探すことから交流を開始したことで不安なく参加することができた。英語では友達に協力してもらいながらメッセージカードを作成することができた。
小学部・3年	山梨市立山梨小学校	2	2回実施。新規。2回共に図画工作に参加。友達と協力して粘土で街を作成した。作品紹介で周りの友達に褒められると喜ぶ様子が見られ、本人の自信につながった。
小学部・3年	笛吹市立春日居小学校	2	2回実施。教室に入ると知っている友達を見つけて表情が緩み、落ち着いて参加することができた。音楽では友達にサポートしてもらいながら最後まで飽きずに取り組むことができた。
小学部・4年	笛吹市立富士見小学校	3	2回実施。継続。小学校の祭りの準備に参加。ゲームの材料に絵を描いたり、一緒にゲームをしたりした。先生の呼びかけに応じてみんなの前に出ていくことができるなど成長が見られた。
小学部・4年	甲府市立東小学校	2	2回実施。継続。ソーラン節の練習に参加。始めは恥ずかしがって見ているだけだったが、時間が経つにつれ、友達と関わることができた。
小学部・5年	甲州市立塩山南小学校	1	1回実施。継続。（1月に実施予定）

小学部・5年	甲府市立国母小学校	1	2回実施。継続。知っている友達を見つけると表情が緩み、落ち着いた様子で参加することができた。音楽では最後まで飽きずに取り組んだ。休み時間には友達と鬼ごっこを楽しむことができた。
小学部・5年	甲府市立湯田小学校	2	2回実施。新規。(2年次実施経験有)音楽では本人が好きな曲に合わせてダンスを行った。本人も友達も楽しそうな様子がみられた。楽器の演奏では、みんなと一緒に演奏することができた。
中学部・1年	笛吹市立一宮中学校	2	2回実施。新規。体育、国語に参加。体育ではバスケットボールを行った。大勢の友達の中に入り、一緒にドリブルやシュートをすることができた。困った時に友達に質問することができた。
中学部・1年	甲州市立塩山中学校	2	1回実施。新規。(2月に実施予定)

3 成果と課題

今年度の居住地校交流は、継続の児童7人、新規の児童3人、生徒2人、計12人の実施となった。居住地校との打ち合わせでは、居住地校交流のねらいや意義、保護者の願いなどについて丁寧に確認したことで、交流を円滑に進めていくことができた。打ち合わせの際に個別の教育支援計画を活用することにより、本校児童生徒の実態や、交流場面以外の全体的な目標についても共通確認することができ、児童生徒の理解が深まった。学習活動の検討や配慮事項など、必要に応じて事前に担任間で連絡を取り合うことで、より良い交流を計画することができた。継続の交流では、打ち合わせの際に相手校から交流を楽しみにしていると言っていた。地域との結びつきを深め、社会参加を促すことができるよう、来年度も円滑に交流を実施できるよう計画を進めていきたい。

I 学校概要

1 学校の概要

学校名	山梨県立高等支援学校桃花台学園
所在地	〒406-0026 山梨県笛吹市石和町中川1400番地
電話番号	055-263-7760
校長名	木村 則夫
交流及び共同学習主任名	飯嶋 多三恵

2 学校教育目標

自分に誇りと自信、他者への思いやりの心を持ち、職業教育を通じて他者と協調しながら意欲的に社会参加する力を身に付ける。

II 交流及び共同学習推進会議の経過

1 交流及び共同学習推進会議構成員

No.	所 属・職 名	備 考
1	笛吹市石和町中川地区・区長	会長
2	山梨県立笛吹高等学校・校長	副会長
3	笛吹市立石和東小学校・校長	
4	山梨県立笛吹高等学校・教頭	
5	山梨県立高等支援学校桃花台学園・校長	
6	山梨県立高等支援学校桃花台学園・教頭	
7	山梨県立高等支援学校桃花台学園・主幹教諭	
8	山梨県立高等支援学校桃花台学園・総務部主任	
9	山梨県立高等支援学校桃花台学園・総務部副主任	
10	山梨県立高等支援学校桃花台学園・総務部交流教育担当	
11	山梨県立高等支援学校桃花台学園・コース主任代表	

2 経過

開催時期	内 容
令和7年 5月22日(木)	第1回交流及び共同学習推進会議 委員委嘱状及び任命書の交付、推進事業の説明、運営要項の説明、本年度の活動計画の説明、意見交換
令和8年 1月27日(火)	第2回交流及び共同学習推進会議 本年度の活動状況、次年度への課題、意見交換

Ⅲ 学校間における交流及び共同学習（学校間交流）

1 目的

- (1) 同世代の生徒及び異世代の児童との交流を通して、互いを理解し、助け合いや支え合って生きていくことの大切さを学ばせる。
- (2) 間接的な交流に加えて直接交流を通して、同世代の生徒及び異世代の児童の活動の様子を見たり触れ合ったりするなかで、共に学び合い、高め合う機会とする。

2 提携校

交流及び共同学習提携校
山梨県立笛吹高等学校
笛吹市立石和東小学校

3 実施状況

月日	提携校	実施学年等	教科等区分	実施内容
5月30日(金) 11月4日(火)	石和東 小学校	農業生産コース	専門教科	(小1) 石和東小学校にて、5月にサツマイモの苗植えの方法を教えた。11月はサツマイモの収穫を一緒に行った。
12月16日(火)		農業生産コース 食品加工コース		(小2) 本校にて、桃花ダイスキマーケットの案内・販売・接客
12月5日(金)		環境メンテナンスコース		(小6) 本校にて、花苗の植栽・窓清掃
6月25日(水)～ 27日(金) 7月25日(金)	笛吹高 等学校	美術部	部活動	・笛吹高校にて、笛吹祭での作品交流 ・共同作品制作
6月25日(水)		生徒会役員 1,2年学級委員長	特別活動	笛吹高校にて、笛吹祭の見学
7月15日(火)		食品加工コース	専門教科	笛吹高校にて、グループワーク
9月13日(土)		美術部	部活動	本校にて、学園祭での作品交流
9月30日(火)		環境メンテナンスコース	専門教科	笛吹高校にて、清掃及びベッドメイキング
3月		合唱部	部活動	笛吹高校にて、吹奏楽部と交流 予定

4 学校間交流の様子

(1) 石和東小学校との交流及び共同学習



サツマイモの苗植えの説明



後日行った定植の様子



サツマイモの収穫

① サツマイモの定植と収穫

5月下旬、定植当日は雨天だったため、農業生産コースの2年生が、教室内でクイズなどを交えながら、定植について石和東小学校1年生に伝えた。紙芝居や模型など使いながら具体的に説明した。生徒たち、それを見つめる1年生、双方の楽しさと真剣さが伝わってくる交流となった。後日、本校の農業担当の教員が小学校に出向き、児童と一緒にサツマイモの定植を行った。11月には、サツマイモの収穫を行い、1年生からは「楽しみで昨日眠れなかった！」という発言もあり、この交流会を楽しみにしてくれていた様子がうかがえた。宝探しのように土を掘っていき、サツマイモが見えてきた時には大歓声があがり、収穫の喜びを一緒に味わうことができた。生徒にとっては毎年初めての交流となるが、1年生へのわかりやすい伝え方やかかわり方等はこれまでの学習等で蓄積することができてきていると感じている。相手のことを思いながら、準備したり、伝え方を考えたりでき、自己有用感を実感することができる大切な機会となっている。



優しいまなざしで接客する生徒たち



農業生産コースの3年生が中心となり、会場準備や案内・販売活動を行った。

② 買い物学習

12月に石和東小2年生が、桃花ダイスキマーケットに来校した。1年生の時にサツマイモの定植で交流をした児童である。昨年の交流のことを覚えている児童もおり、生徒も思わず笑みがこぼれて和やかな雰囲気での交流となった。

本校では、パンや焼き菓子、野菜をスムーズに購入できるよう準備をした。価格も小学生が購入しやすく、計算もしやすいように設定した。生徒たちの中には、視線を合わせやすいように低い姿勢をとりながら対応する者もおり、相手に合わせた接客を工夫する姿が見られた。石和東小では、現在金融経済教育に力を入れており、児童のお小遣いは、お手伝いとして貯めたお金ということであった。大事にお金を握りしめながら、予算内で自分や家族の好みのもを購入している様子からも、共同学習として適切な場を設定できたのではないかと感じた。

③ 花苗の寄せ植え、窓清掃

12月に石和東小学校6年生24人が来校し、花苗の寄せ植えと窓清掃体験を行った。環境メンテナンスコースの3年生が各グループに入り、花苗のプランターへの寄せ植えの手順等を教え

た。生徒は、活動の手順や楽しさなどをどのように伝えたらよいのか考え、交流会に臨んだ。児童全員が実技を体験することで、児童とたくさんのやりとりができた。また、清掃作業についても綺麗に窓ふきができた喜びを児童に感じてもらうことができたと思われる。生徒は相手に合わせたやり方で教えることの大切さを学ぶ機会となった。



プランターへの植栽



窓ふき清掃

(2) 笛吹高等学校との交流及び共同学習



学園祭を見学した感想等の
意見交換



美術部の作品交流



完成した共同作品

① 笛吹祭（笛吹高校学園祭）での交流

6月、本校の生徒会役員及び1、2年生のHR長が笛吹高校の学園祭見学での交流、美術部が作品交流を行った。見学の際は、笛吹高校の生徒会長や役員が、親切丁寧に誘導したり説明したりしてくれた。本校の生徒もそれに熱心に応じて、リラックスした雰囲気での交流ができた。各クラスの発表を見学した生徒たちは、いきいきとしたパフォーマンスや工夫したステージに心躍らせ、自分たちの学園祭への思いをはせているようだった。Tシャツデザインや使われていた楽曲など参考にしたいという感想をもった生徒もいた。

笛吹高校美術部の展示場所には本校美術部の作品も展示されており、両校の作品を見学することができた。各所にノートや色紙等が置かれ、感想等を伝えあう工夫もされていた。笛吹高校生徒会長の言葉からも学校間交流が大切にされていること、継続が望まれていること等を感じることができた。

② 部活動での交流

美術部は、7月に昨年度末に制作した共同作品の下地に両校の校名や記念日等を入れる活動を行った。前回の続きということもあり、見通しをもって取り組むことができた。絵の具づくりや描画方法など、お互いに話し合いながら活動をすすめた。9月に本校の学園祭「桃翔祭」に笛吹高校美術部が作品展示をした。7月に作成した作品も展示し、美術部だけでなく多くの生徒が鑑賞することができた。それぞれ展示会場にはノートが置かれ、お互いの作品の感想などが寄せられた。全体的な感想だけでなく、個人の作品の感想も書かれており、その後の制作の励みとなった。

合唱部は、3月に吹奏楽部との交流を予定している。

② 食品化学科との交流



7月には笛吹高校食品化学科の2・3年生と本校食品加工コースの生徒が笛吹高校を会場に交流会を行った。笛吹高校特製アイスクリームでもてなしてもらおうと、お互いの緊張が少し和らぎ、自己紹介では自然と拍手が出る和やかな雰囲気での交流できた。桃花台学園の公式キャラクター「こもも」と笛吹高校の公式キャラクター「もりりん」のイラストをアレンジして、クッキーの型を製作する取り組みを行った。両校のアイデアを盛り込んだ様々なアイデア案をもとに、笛吹高校の3Dプリンターでクッキー型を製作してもらい、製造したクッキーを本校の秋の大収穫祭で販売した。

③ 人間科学系列生活福祉コースとの交流



窓清掃

9月に笛吹高校人間科学系列生活福祉コースの3年生と本校環境メンテナンスコースの2年生が笛吹高校を会場に授業交流を行った。笛吹高校の3年生からベッドメイキングのシーツの敷き方や畳み方について実践を交えて教えてもらった。同年代の生徒との会話を楽しみながらベッドメイキングの基本的な知識や技術を学ぶことができた。

本校の2年生が窓清掃の仕方を教える場面では、ウォッシャーやスクイージー等の清掃用具を初めて使う笛吹高校の生徒が多く、道具の使い方や作業手順の見本を見せながら分かりやすく教えることができた。お互いに授業の中で学んだ知識や技術を伝え合い、共に学び合いながら充実した交流会になった。

5 成果と課題

石和東小学校とは、予定していた交流をすべて実施することができた。サツマイモの定植を予定していた日は今年度も雨天であったため、室内で紙芝居や模型など使用し説明した。本校と小学生との交流は、他校のように同学年の児童生徒同士の交流の積み重ねとはならないが、定植や寄せ植え、清掃等をわかりやすく説明する教材は蓄積できている。それらを使いながら児童へのわかりやすい教え方やかわり方を事前に考え、当日の直接交流に臨んでいる。毎年小学生と交流することで、教えることの難しさや相手に合わせた接し方や表現を変えることの大切さを学ぶことができてきている。今年度は石和東小学校の児童が、「金融」に関する学習をしており、お手伝いをして貯めたお金で買い物をする活動だった。そこで、価格を小学生が購入しやすく、計算もしやすいように設定した。買い物練習としての学習の場を提供する機会ともなっていて良かった。石和東小学校からは、児童が年長の本校生徒から学び、内面を引き出してもらっているように感じる、いつも接しない方とのかかわりあいの中から、新たな気づきをしている児童も多い、小規模校であるので、様々な方との交流は大変意義があると思っているという感想をいただいた。更に、今までの交流を深めていくとともに他学年での交流も模索していきたいと考えている。

笛吹高等学校との交流では、生活福祉系列コースや食品化学科との授業交流、笛吹祭への見学、美術部の作品交流などの活動を実施することができた。生活福祉系列の生徒とは、今年度初めて環境メンテナンスコースと授業を通して生徒同士が直接かかわる授業交流が実現し、ベッドメイキング、清掃の活動を行った。食品化学科との直接交流は、本校を会場に昨年度初めて実現し、今年度は笛吹高校で実施することができた。これまでの成果や反省を生かして、少しずつ交流を広めたり深めたりすることができてきている。笛吹高校からは、生徒たちは桃花

台学園の清掃技術の高さに感動していた、交流の後半でのお互いのうれしそうな表情が印象的だった、互いの専門分野を認められる体験は、生徒の自己肯定感を高めている、という報告があった。担当が変わっても末永く交流できるように引き継いでいくとともに、更に来年度は農業生産コースでも直接交流ができるように検討していきたいと考えている。

部活動を通しての交流は、次年度も美術部が作品交流を続けるとともに、他の部活の直接交流も進めていきたい。スポーツや芸術活動においては、同世代の仲間がいるということを実感できる機会であり、双方がよい影響や刺激を受ける場となる。さらに交流及び共同学習の内容や方法を工夫し、目標に迫っていきたい。

IV 地域における交流活動（地域交流）

1 目的

- (1) 地域の方々とともに活動するなかで、相互扶助の経験を通して協同の大切さを学ばせる。
- (2) 学校で学習した内容を、社会の中で活用する経験を通してより確かな力に高める。
- (3) 地域の人々とのふれあいを通して、卒業後の就労に必要なコミュニケーション能力を実践的に育成する。

2 交流先

地域交流先
笛吹市石和町中川地区

3 実施状況

月日	地域交流先	実施学年	教科等区分	実施内容
5月～2月 (7回実施)	中川地区	2学年・ 3学年	専門教科	桃花ダイスキマーケット
5月～2月 (7回実施)	中川地区	広報委員会	特別活動	桃花ダイスキマーケット告知放送
7月2日(水) 7月3日(木)	中川地区 藤巻農園	1学年	専門教科	ブドウの傘かけ
9月30日(火) 1月23日(金)	中川地区 ケヤキの会	食品加工 コース	専門教科	桃カフェに招待し、座談会をした。
11月2日(日)	中川地区	美術部	部活動	中川地区公民館祭での作品交流
11月15日 (土)	中川地区	全校	専門教科	秋の大収穫祭
12月3日(水)	中川地区	環境メンテナンス1年	専門教科	公民館の清掃

4 地域交流の様子



マーケットの様子



駐車場案内



桃カフェ



野菜などの販売



真剣に話を聞く生徒



説明を基に、ブドウの傘かけ

(1) 「桃花ダイスキマーケット」

桃花ダイスキマーケットを5月から2月にかけて7回開催した。中川地区にマーケット開催日時を回覧板や前日の生徒による町内放送で知らせるとともに、石和東小学校や上平井地区の方々へのチラシ配布、回覧をしたことにより、学校周辺の住民が来場した。マーケットが地域の方に年々周知が進んでいることが感じられる。

生徒は「全校でお客様をおもてなしする日」という気持ちをもって、全校体制でマーケットの準備をしている。

マーケットは、地域の方との交流の中で、生産、製造、販売、接客、環境整備等、日ごろ学習で培った力を発揮できる実践の場である。今後は、本校の様子を知っていただく交流だけでなく、生徒の魅力、本校の製品の魅力を求めて来校していただけるようなマーケットを目指して、交流がさらに深まるように工夫していくことが大切であると考えている。毎回お客様アンケート結果等を参考に、生徒自身もさらにマーケットを良くしていきたいという気持ちが高まる様子が見られている。

(2) ブドウの傘かけ

1年生の農業生産の授業では、毎年6～7月地域交流として、本校農場の隣にある藤巻さんのぶどう園において『ぶどうの傘かけ』を行っている。今年で11年目となり、開校当時から続けている。

最初は緊張していた生徒たちだったが、気さくで優しい人柄の藤巻さんに次第に打ち解けていき、農業にかかわることや藤巻さん自身のことなど様々な質問をして交流を深めることができた。農家の方の大変さや苦勞を垣間見て、その苦勞の先にある収穫という喜びや尊さを生徒たちは感じたようだった。例年、忙しい時期に、生徒たちのために貴重な体験の場を用意していただき感謝している。

(3) けやきの会の方との交流



9月と1月には食品加工コースの生徒が中川地区の「けやきの会」と地域の皆様を招待し、校内見学ツアーや桃カフェの営業をした。「カフェのBGMに癒される」「生徒がきちんとした言葉づかいで対応してくれた」などの感想を聞くことができ、生徒の喜びや励みになった。また、パンや焼き菓子の販売時間になると人気の「あんぱん」はすぐに完売し、他の商品もご家族やお孫さんへとたくさん購入していただいた。

(4) 中川地区公民館まつりへの作品展示

11月上旬の中川地区公民館まつりに、今年度も美術部の作品を展示した。今年は、部活動からの帰宅途中の生徒が自主的に見学し、中川地区の方から感謝の言葉をいただいた。

日頃からの交流の積み重ねで、生徒も地域のイベントに参加する等、自然に交流できているように感じる。



(5) 中川公民館の清掃



公民館の中、外回りを地域の方と一緒に清掃



花の贈呈

12月、1年C・D組は環境メンテナンスコースの授業において、中川地区の女性部の皆さんと中川公民館の清掃と植栽活動を行った。女性部の皆さんとの会話を楽しみながら一緒に活動することで、地域の方々とのつながりを感じることができた。授業で習得したタオルや自在ほうき、湿式モップ等の清掃技術を発揮する場にもなり、有意義な時間となった。

5 成果と課題

今年度実施した地域交流は「毎年恒例」になってきており、地域と本校の双方が日々の活動、あるいはその時期の活動の一部として自然に取り組むことができていると感じる。地域の方から本校の生徒が登下校にあいさつしてくれるとの話があったり、部活帰り生徒が公民館まつりに参加したり等、自主的な交流も見られ、これまで以上に地域とつながり、共に生活している意識が高まってきたことが感じられた。この地域交流で培った気持ちや行動が、個々の生徒の居住地域でも地域の一員としての暮らしにつながることを期待している。

推進会議では、以下のような意見が出された。人が一緒に過ごした経験は、大人になってからその大切さやすばらしさに気づくことが多い。交流教育は、優しい気持ち、思いやる気持ち、人が人を認める気持ちなどを培っていく基盤になる。登校時に交通指導をしていると、どの学校の児童生徒も明るく笑顔で挨拶ができるようになっており、地域で生活するために非常に重要なことができている。この推進会議が地域と各学校をつなぐ会になっており、気軽に話ができる関係が築けている。

今後も地域交流の活動を通して、相互扶助や協同の大切さを学びながら、末永く交流及び共同学習ができるように内容や方法を工夫していきたい。

I 学校概要

1 学校の概要

学校名	山梨県立特別支援学校うぐいすの杜学園
所在地	〒400-0851 甲府市住吉2丁目1番17号
電話番号	055-288-1628
校長名	伊藤 太一
交流及び共同学習主任名	福澤 正樹

2 学校教育目標

一人ひとりの心に寄り添った学習活動を通して、基礎的・基本的な知識や技能の定着を図り、自信をもって様々な事柄に意欲的に取り組む態度を養い、社会の中で主体的に生きていくために必要な「生きる力」を育む。

II 交流及び共同学習推進会議の経過

※本校では、交流及び共同学習推進会議は実施していない。

III 学校間における交流及び共同学習（学校間交流）

*本校の児童生徒の実態から、現在のところ学校間交流は実施していない。

IV 地域における交流活動（地域交流）

1 目的

・環境美化活動や作品展示などの地域の人々と触れ合う機会から、社会参加の意識を育てる。

2 交流先

学 部	地域交流先
小学部	甲府伊勢四郵便局（甲府市伊勢）・ホテル湯王温泉（甲府市住吉）
中学部	同上

3 実施状況

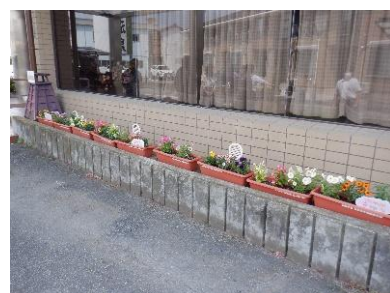
時期	地域交流先	実施学年	指導区分	実施内容
5月12日	甲府伊勢四郵便局 ホテル湯王温泉	全学年	特別活動	花のプランターの 寄贈
6月9日 11月10日	甲府市住吉地区	全学年	特別活動	清掃活動
12月1日	甲府市住吉地区	全学年	特別活動	緑化活動 (花いっぱい運動)
1月26日	甲府伊勢四郵便局	全学年	特別活動	しおりの寄贈

4 地域交流の様子

(1) 地域の方への花のプランターやしおりの寄贈

1学期は、小中学部合同で花の寄せ植えプランターを作り、学校近くの甲府伊勢四郵便局へ寄贈した。今年で3回目の寄贈となる。郵便局を利用する地域の方々の目を楽しませられるように、色の組み合わせや花の配置を考えながら作業を行った。郵便局のご協力もあり、玄関前の目立つ場所にプランターを飾っていただいた。しおり作りも昨年度に引き続いての活動となっている。

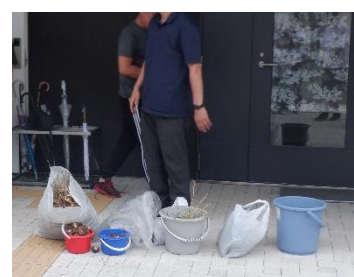
また、今年度からは、学校運営協議会委員でご協力いただいているホテル湯王温泉にもプランターを寄贈した。寄贈時には、中学部の生徒がプランターを現地まで運び、従業員さんと直接交流を深めることができた。



(2) 環境美化活動（植栽活動・地域清掃）

2学期は花いっぱい運動として、チューリップの球根を学校の外の道からも見える花壇に植えたり、学園の玄関前に飾れるようにプランターに植えたりした。学部や学年の垣根を越えて、子どものころサポートプラザや学園をきれいにするために協力して作業を行うことが出来た。来年の春にはきれいな花をたくさん咲かせ、地域の方々に喜んでもらうことを意識しながら、土づくりや球根植えに励むことができた。

また、6月と11月には学校周辺の清掃活動を行った。ゴミだけでなく、落ち葉や雑草など、たくさんのもを集めることができた。活動中に会う地域の方ともあいさつをするなど交流をすることができた。



(3) 地域への情報発信

地域の方々に学校の活動を広く知ってもらうため、学期ごとに地域だよりを発行したり、児童生徒の作品を模造紙にまとめ、郵便局に展示掲示してもらったりしている。地域との触れ合いは限られているが、地域の方々に喜んでもらうことを意識しながら、学校と地域社会のつながりを考える貴重な機会となっている。



5 成果と課題

本校は児童生徒の実態や、個人情報に配慮が必要なため、直接の交流は実施できない状況である。今年度は環境美化活動やしおりの寄贈、美術作品の展示等を通して、地域を知ることや地域の方々と間接的でも触れ合う機会ができればと考え、計画・実施を行った。

今後も、生徒の状況に合わせた触れ合いの機会をもつとともに、ホームページ、作品展示、地域だよりを通して地域とつながりを広げていくことや、さらなる交流の可能性を探っていくことが望ましい。

IV 居住地の学校等における交流及び共同学習（居住地校交流）

*本校の児童生徒の実態から、現在のところ居住地交流は実施していない。

I 学校概要

1 学校の概要

学校名	山梨大学教育学部附属特別支援学校
所在地	〒400-0006 甲府市天神町17-35
電話番号	055-220-8282
校長名	田中 武夫
交流及び共同学習主任名	出戸 努

2 学校教育目標

「自ら考え、行動し、まわりの人と助け合いながら生き生きと生活できるたくましい心と体を養う」

- ・心身を鍛え、健康を維持し、つよい心と体を持つ。
- ・身のまわりのことが自分でできる。
- ・人とのかかわりが持て、集団に参加し、仲間と協力できる。
- ・自ら考え、持てる力を精いっぱい出して行動できる。
- ・幅広い視野を持ち、心豊かで文化的な生活を営む。

II 学校間における交流及び共同学習（学校間交流）

1 目的

(1) 小学部

- ① 同世代の友達と関わり、一緒に様々な活動に取り組もうとする態度を養う。
- ② とともに活動することを通して、自分なりに表現し、相手と自分から関わろうとする態度を養う。

(2) 中学部

- ① 同世代の生徒と交わり、共に活動する中で、互いに理解し合う。
- ② 様々な活動を通して、コミュニケーション能力を身につけながら生活経験の拡大を図る。

(3) 高等部

- ① 同世代の生徒と関わり、交流することで、互いに理解を深める。
- ② 文化的な交流及び共同学習を通して、豊かな心を育てる。

2 提携校

学部	交流及び共同学習提携校
小学部	山梨大学教育学部附属小学校
中学部	山梨大学教育学部附属中学校, 甲府市立北東中学校, 附属幼稚園
高等部	日本航空高等学校

3 実施状況

学部	月日	提携校	実施学年	指導区分	内容
小	4月	山梨大学教育学部附属小学校 (4年生)	全学年	生活単元 学習	校外学習として附属小へ行き、「よろしくねの会」を集団で、対面形式で行った。
	6月	山梨大学教育学部附属小学校 (4年生)	全学年	図工(低) 音楽(中) 体育(高)	附属小の児童が支援学校の各学級の教科授業に参加し、活動を行った。
	12月	山梨大学教育学部附属小学校 (4年生)	全学年	生活単元 学習	附属小学校の体育館に行き交流会を行った。本校1名の児童と附属小2名のグループで、9つの学習発表のブースを回った。また、日頃取り組んでいる合唱や踊りを発表し合うこともできた。
中	6月	甲府市立北東中学校 特別支援学級	全学年	保健体育	北東中の生徒が来校し、中3と交流などを行った後、体育館で全学年とボッチャを行った。
	10月	山梨大学教育学部附属中学校	全学年	総合的な 学習の時間	本校学園祭「きりの子まつり」における舞台看板を手紙で依頼した。看板と励ましのメッセージをいただき、学園祭終了後に本校生徒から礼状を送った。
	12月	山梨大学教育学部附属幼稚園	全学年	総合的な 学習の時間	総合的な学習の時間で取り組んでいる「なかまコラボ☆フェスティバル」に招待し、お祭りの模擬店を通して交流活動を行った。また、作業学習で作成した製品をプレゼントした。
高	9月	日本航空高等学校	全学年	音楽科	和太鼓の生演奏を聴き、バチの持ち方や構え方など、演奏のアドバイスをもらった。また、事前に打ち合わせをしておき、航空の生徒さんと一緒に本校のオリジナル曲『こころをひとつに』を一緒に演奏できるようにした。

4 学校間交流の様子

(1) 小学部

附属小学校4年生との活動について

4月に第1回目の交流では、附属小学校で行った。小学部の校外学習「あるいていこう」で学校間交流の始まりとして、附属小の4年生児童と「よろしくねの会」を行った。低学年が4年1組、中学年が4年3組、高学年が4年2組とそれぞれの交流相手として挨拶を行った。また、自己紹介カードを作成し、一人ずつ直接渡した。渡すときは「なかよくしてね」「よろしくね」などの思いを言葉や握手で伝えて交流をすることができた。

6月の第2回目の交流は附属特別支援学校で行った。各学級の授業に参加してもらい活動を行った。低学年は図工で「にじみ絵を作ろう」という題材で、ペンで描いた線の上に氷を転がし、溶けた水によるにじみを表現しながら、グループごとに作品を制作した。活動中は、氷を転がし合い冷たさを楽しむ姿や、互いに声をかけ合って協力する様子が見られ、交流を深めることができた。

中学年は音楽「音楽に合わせて歌おう鳴らそう」という題材で「おもちゃのちゃちゃちゃ」の曲に合わせて踊ったり楽器を演奏したりした。顔を見合って演奏したり、踊りを真似したりする姿が見られた。「あめふりくまのこ」では、曲に合わせてパラバルーンを全員で行ったりした。高学年は体育で3グループに分かれてケンケンパでリレーを行った。チームごとに話し合ってコースを考えた。どのチームも歓声を上げ応援したり、一緒に跳んで励ましたりする様子が見られた。

12月の第3回目の交流では附属小体育館にて行った。附属小が、総合的な学習で取り組んできた環境・エコ問題についての9つのブースを、一緒に回って体験した。両校の児童をグループに分けて回りながら、楽しく活動することができた。後半では附属小の学年合唱を聴いたり、本校がきりの子まつりのテーマ曲であり、11月の音楽会、芸術文化祭で発表した「ともだちになろうよ」の歌唱を披露したりと学習の成果を発表し合うこともできた。

2) 中学部

6月に北東中学校特別支援学級の生徒と本校中学部生徒全員で交流をした。最初に、中学部3年生のみと交流を行い、自己紹介で互いのことを知り、簡単なゲームで交流を深めた。その後、保健体育の授業の一環で、中学部生徒全員と北東中学校の生徒でボッチャを行った。2つのグループに分かれて活動したが、それぞれのグループから「〇〇さん、がんばれ！」と声援を送ったり、ハイタッチをして喜びや頑張りを共有したりする様子がうかがえた。

附属中学校とは、本校学園祭「きりの子まつり」の劇発表用看板作成を通して交流を行った。本校からストーリーのあらすじを付けた手紙を送って看板の作成依頼をした。看板はデザインが凝っていて、生徒たちは「すごいねえ」と感心していた。当日は、舞台に看板を飾り、附属中学校生徒の思いに見守られながら発表した。学園祭終了後には本校3年生が代表して礼状を書いて附属中学校に送った。「看板がかっこよくて頑張れました」など、感謝の言葉がたくさん書かれていた。

附属幼稚園とは、総合的な学習の時間に取り組んでいる「なかまコラボ☆フェスティバル」のおまつりに招待する形で交流をした。4つのブースのお店を自由に回ってもらい、実際にゲームをする中で本校生徒と園児が楽しそうにやり取りすることができた。また、一緒にダンスをしたり、パレードをしたりすることで、一体となって活動することができ、本校生徒も園児も自然と笑顔になっていた。

(3) 高等部

日本航空高等学校太鼓隊との活動について

高等部では、きりの子まつりの和太鼓発表に向けて、日本航空高校太鼓隊の生徒達と交流を行った。毎年、生徒たちは心待ちにしている交流会である。

太鼓隊の演奏が始まると、本校の生徒達はその迫力に圧倒されながら聞き入っていた。凄みだけでなく温かさまで感じさせる音の強弱、豊かな表情、一糸乱れぬ所作、真剣でひたむきな姿勢など、本校の生徒たちにとって学ぶことがたくさんあった。また、合同練習・合同演奏のコーナーでは、やさしくアドバイスを受けながら太鼓隊のみなさんとふれあうこともできた。

今年は高等部だけでなく小・中学部の生徒や保護者の方々の参観もあり、会場が熱気に包まれた。

生徒からは、「迫力のある演奏で、体育館だけでなく、私たちの心にまで響いた。」と感想が聞かれた。

5 成果と課題

(1) 小学部

4月の交流では、附属小の代表者と顔合わせ程度の短い時間だったため、次回からの交流に向けて児童を知ってもらうために、自己紹介カードを作成した。自己紹介カードは、小学校に掲示してもらい、次の交流会に期待感をもつことができた。また、保護者の目にも触れ、保護者同士の話題となり、支援学校の児童を知ってもらう良い機会となった。

6月の交流では、1時間の授業を通して交流ができたことで、児童同士の関わりが多く持てた。支援学校の児童にとっては、普段より多い人数の中での活動であったが、物おじせず堂々と活動できる子や不安ながらも勇気を振り絞って一緒に活動する子といつもとは違う面が見られた。支援学校の授業を体験し、活動する支援学校の児童の様子を見たりする中で、小学校の児童にも多くの気付きがあり、よい機会となった。

12月の交流では、6月に交流した児童とグループを組み、一緒に活動をした。6月に児童と関わった経験をいかし、支援学校の児童がより楽しめるように小学校の児童が発表の仕方を精選したり内容を工夫したりして企画運営し、みんなが楽しく活動することができた。案内の際には、視覚資料を使って、児童同士でコミュニケーションをとりながら店回りをすることができた。

3回の交流会を通して、回を重ねるごとに交流が深まり、互いにとって学びがあったと思う。

一方、児童にとっては、毎年交流相手が変わるため、1年きりの交流になってしまい、継続的とはいえない実態がある。また、交流対象が4年生ということで、学年が上がるにつれ、生活年齢にずれが生じてくる。そのため今後は、同学年の児童同士が継続して、長期間交流できるような形を模索していきたいと考えている。

(2) 中学部

北東中学校とは、対面による交流授業を実施することができた。「ポッチャ」を通して交流を行ったが、本校の生徒は、ポッチャを何回か経験しており、積極的に作戦を提案するなど主体的に活動することができた。北東中学校の生徒に話しかけたり、声援を送ったりして、生徒同士で関わりをもつこともできた。全体交流の前に3年生との交流を行ったことで、北東中学校の生徒の緊張感も少し和らぎ、互いに笑顔で、楽しく活動することができた。課題としては、年1回の交流では関係を深めることは難しいため、交流機会を増やすことを検討する必要がある。

山梨大学教育学部附属中学校との交流については、新型コロナウイルス感染症の影響により、対面での交流を長期間実施することができていない状況が続いている。そのため、交流の形態が限定される中での取組となってきたが、来年度は感染状況等を踏まえながら、直接顔を合わせて行う対面交流の実施を目指したい。実際に会って活動することで、生徒同士の関わりがより深まり、主体的な学びの充実や相互理解の促進につながるものと考えられる。

また、山梨大学教育学部附属幼稚園との交流では、甲府市新紺屋シニアクラブの方々にも参加していただき、世代を超えた交流活動を行うことができた。幼児、生徒、高齢者が一緒に活動する中で、互いの立場や考えに触れる貴重な機会となり、思いやりや協調性を育む温かく充実した交流となった。来年度においても、実施形態は変更する可能性があるものの、このような多世代交流の趣旨を大切にしながら、工夫を重ねつつ継続的に交流の機会を設けていきたい。

(3) 高等部

迫力ある日本航空高校太鼓隊の生演奏を聴いたり、バチの持ち方や演奏のアドバイスなどをもらったりするなどの直接交流となった。今年度は、教えてもらうだけでなく、一緒に演奏をすることもでき、本校のオリジナル曲『こころをひとつに』を協奏することができた。本校生徒達は9月のきりの子まつりで演奏する「武田きりの子太鼓」の発表に向け、とてもよい刺激となった。全国で活躍する同世代の仲間との交流を通して、学校の中だけでは得られない体験を経て感性を磨き、豊かな心を養うことが出来る交流となった。

課題としては、今年度の演奏会が午前中であったため、引率者と学生分の弁当の用意をする必要があった。今年度は後援会費と学部費からお金を出した、来年度も同じ日程になる場合には同様にする。

『こころをひとつに』を協奏するために打ち合わせを綿密に行う必要があった。

Ⅲ 地域における交流活動（地域交流）

1 目的

(1) 小学部

- ① 地域の方々と関わり，一緒に様々な活動に取り組もうとする態度を養う。
- ② 共に活動することを通して，自分なりに表現し，相手と自分から関わろうとする態度を養う。

(2) 中学部

- ① 地域の方々と交わり，共に活動する中で，互いに理解し合う。
- ② 校内外での活動を通して，コミュニケーション能力を身につけながら生活経験の拡大を図る。

(3) 高等部

- ① 地域の方々とふれあう体験を通して，交流を深めると共に思いやりの気持ちを育む。
- ② 地域の方々とふれあう体験を通して，共生することの大切さに気づく機会を作る。

2 交流先

学 部	地域交流先
小学部	甲府市新紺屋地区シニアクラブ
中学部	甲府市新紺屋地区シニアクラブ
高等部	甲府市新紺屋地区シニアクラブ

3 実施状況

学部	月日	地域交流先	実施学年	指導区分	内容
小	1 1 月	甲府市新紺屋地区シニアクラブ連合会	全学年	生活単元学習	小学部全体で手遊び歌を行った後で，学級ごとにポッチャゲームを行った。
中	1 2 月	甲府市新紺屋地区シニアクラブ連合会	全学年	保健体育	総合的な学習の時間で取り組んでいる「なかまコラボ☆フェスティバル」に招待し，お祭りの模擬店を通して交流活動を行った。また，作業学習で作成した製品をプレゼントした。
高	1 1 月	甲府市新紺屋地区シニアクラブ連合会	全学年	生活単元学習	シニアクラブのみなさんが日頃から楽しんでいるグラウンドゴルフを通して交流を行った。シニアクラブのみなさんの得意な内容であったため，生徒たちをリードしてもらいながら交流することができた。終わりには作業学習の製品をプレゼントすることもできた。

4 地域交流の様子

(1) 小学部

甲府市新紺屋地区シニアクラブとの活動について

今年度は9名のシニアクラブの方が参加していただき、午前11時から1時間ほど行った。児童はブレイルームで「敬老の日」の学習を行った後、シニアクラブの方々の自己紹介を聞いたり活動をしたりした。手遊び歌「グーチョキパーでなにつくろう」では、児童とシニアクラブの方が隣同士で座ることで、顔を見合ったり話しかけたりしながら一緒に手遊びを楽しむことができた。その後、各学級に移動してボッチャを行った。より交流を深めることができるように、1学級3名ずつシニアクラブの方に入っただき、応援し合ったり拍手をし合ったりする温かい雰囲気との交流となった。

(2) 中学部

甲府市新紺屋地区シニアクラブとの交流では、総合的な学習の時間に取り組んでいる「なかまコラボ☆フェスティバル」のおまつりに招待する形で交流をした。4つのブースのお店を自由に回ってもらい、実際にゲームに参加してもらうことで、本校生徒とシニアクラブの方が自然なやり取りすることができた。また、ダンスを披露したり、パレードを見ていただいたりする中で、笑顔で手拍子をして盛り上げていただき、一緒におまつりを楽しんでいる様子うかがえた。また、本校から、シニアクラブの方々に作業で作成した製品とお礼のメッセージをも贈った。メッセージでは、「学校に来てくれてありがとうございます」「応援してくれてうれしかったです」など、生徒たちが活動を楽しめた様子が伝わる内容が多かった。

(3) 高等部

新紺屋シニアクラブの方々と交流会を行った。毎週練習されているというシニアクラブの皆さんの胸をお借りし、生徒たちはのびのびとグラウンドゴルフをプレーすることができた。時折アドバイスをいただいたり、シニアクラブの皆さんの打ち方を研究したりする中で、「上手に打てるようになった！」という声がたくさん聞かれた。

また、プレーの合間に親睦を深めることもでき、お互いに名前を呼び合って応援する姿が多く見られた。どのチームも協力して本校のオリジナルコースを見事制覇。ハイタッチで達成感を分かち合う姿も見られ、自然に親睦が深まる素敵な交流会となった。

最後に、作業班で制作したプレゼントを贈呈し、感謝の気持ちを伝えることができた。

参加者双方から「来年の交流も楽しみ」という声が聞かれ、次回の交流への期待も膨らんだ。

5 成果と課題

(1) 小学部

「わくわく集会」の「季節の話」の中で「敬老の日」を学んだことを生かし、地域の方々と一緒に活動する交流を行った。昨年度と同じシニアクラブの方々と、対面で交流をすることができた。児童も教職員も昨年度も参加してくださっている方を覚えていたことや、名札をつけていただき呼びかけやすかったことで、より親しみをもって関わる様子が見られた。また、会話や遊びを通して、地域の方々の学校や児童への関心が高まったことも成果である。障害者スポーツであるボッチャを楽しむ機会にもなった。シニアクラブの方々から、「孫みたいで嬉しい。毎年楽しみにしている。」などの感想が寄せられ、双方にとって有意義な機会であることを感じたため、今後も地域交流としての活動内容や流れを更に工夫しながら継続していきたい。

(2) 中学部

今年度も甲府市新紺屋地区のシニアクラブの方を学校に招き、対面による交流を行うことができた。シニアクラブの方々は、「楽しかった」という感想をいただいた。生徒が継続して取り組んできた内容であり、準備から力を注いでいた「なかまコラボ☆フェスティバル」に参加していただくことで、本校生徒の日々の頑張りを直接見ていただく良い機会になった。シニアクラブの方々には、全学部と交流していただいているので、負担にならないよう、来年度も早めに日程や内容などについて検討を行い、有意義な交流を行っていきたい。

(3) 高等部

甲府市新紺屋地区シニアクラブとの交流を通して、生徒たちはグラウンドゴルフの技術向上だけでなく、世代を超えた関わりの中で多くの学びを得ることができた。シニアクラブの皆さんから助言を受けたり、打ち方を観察したりすることで、自身の成長を実感する生徒が多く見られた。

また、プレー中や休憩時間の交流を通して、互いに名前を呼び合い応援するなど、自然な形で親睦が深まり、協力してコースを制覇する達成感を共有することができた。プレゼントの贈呈を通じて感謝の気持ちを伝える機会も設けられ、双方にとって温かく充実した交流の場となった。

一方で、交流の時間や内容について、より多くの参加者が十分に関われる工夫の余地があると考えられる。活動の流れや役割分担をさらに明確にすることが今後の課題である。

IV 居住地の学校等における交流及び共同学習（居住地校交流）

1 目的

- (1) 同年代の小中学校の児童生徒と共に活動することにより，相互理解を深める。
- (2) 居住地域における交流及び共同学習を通し，日常的な交流場面への発展を導く。
- (3) 将来的な視点に立ち，より充実した人間関係の基盤を整える。

2 実施状況

学部・学年	交流及び共同学習先校名	回数	実施（活動）の内容
中学部1年 中澤歩誉	押原中学校	1回 (予定)	今年度初めてということで交流依頼をし，本校生徒が参加しやすい学級，参加しやすい内容を検討していただき，交流する（予定）

3 成果と課題

小学校のときの同級生がいるということで，交流の依頼があり交流を実施予定である。相手校が多忙なため，なかなか予定が合わず，まだ実施することができていないが，1月28日（水）に実施できるよう計画を進めている。内容としては，本校生徒が得意としている美術の授業や支援学級での活動を予定している。



令和7年度交流及び共同学習実施報告書

山梨県教育委員会